

令和4年度  
広島県立美術館年報

令和4年度  
広島県立美術館年報



## 目 次

I	沿革	2
II	展覧会	
	展覧会一覧	5
	特別展	
	1 国立国際美術館コレクション 現代アートの100年	6
	2 安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校	10
	3 皇室の美と広島 — 宮内庁三の丸尚蔵館の名品から—	14
	4 第69回日本伝統工芸展	17
	所蔵作品展	21
III	普及活動	
	1 第10回新県美展（第74回広島県美術展）	39
	2 博物館実習	41
	3 学校・地域との連携事業	43
	4 鑑賞支援制作物	44
	5 学校等による利用状況	45
	6 県民ギャラリー利用状況	47
	7 友の会事業報告	50
IV	事業実施状況	52
	※広島県立美術館における新型コロナウイルス の影響と対策、情報発信について	56
V	業務一覧	57
VI	入館者数一覧	68
VII	美術品等収集状況	70
VIII	美術品等の貸出し	78
IX	関係法規	80
X	名簿	90

# I 沿革

昭和31年	美術館建設の募金運動はじまる	昭和52年 2月	広島県美術展開催運営規則施行(昭和52年 広島県教育委員会規則第2号)
昭和38年 4月	調査費計上	昭和53年 10月	開館10周年記念展開催
昭和39年 4月	設計委託料計上	昭和54年 3月	開館10周年記念「広島県立美術館所蔵作品 集」発刊
10月	建設促進委員会開催	12月	収蔵庫拡張工事着工
昭和40年 4月	整地費など計上	昭和55年 2月	収蔵庫拡張工事完了
昭和41年 5月	文部省社会教育施設整備費補助金の交付 内定	4月	定宗一宏館長(非常勤)任命 広島県立美術館条例一部改正(昭和55年 広 島県条例第19号)施設使用料
12月	建設募金委員会発足	10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和55年 広島県教育委員会規則第10号)
昭和42年 1月	起工式挙行	昭和56年 4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和56年 広島県教育委員会規則第5号)課の 名称変更・入館料の免除 広島県立美術館美術品等取得基金条例施 行(昭和56年 広島県条例第5号 基金額1億 円)
昭和43年 3月	旧館竣工	10月	広島県美術品等取得基金運用規定制定 美術品等収集委員会設置要領制定
4月	広島県立美術館条例施行(昭和43年 広島県 条例第20号) 広島県立美術館管理運営規則施行(昭和43 年 広島県教育委員会規則第1号) 加藤豊館長(常勤)任命	昭和57年 3月	定宗館長辞職
6月	広島県立美術館協議会条例施行(昭和43年 広島県条例第38号)	4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和57年 広 島県条例第10号)入館料・施設使用料 阿川静明館長(非常勤)任命
7月	広島県立美術館協力を結成	9月	縮景園窓口入園窓口を設置
9月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和43年 広島県教育委員会規則第13号)分掌 事務	昭和60年 3月	阿川館長辞職
21日	落成式挙行	4月	赤木博典館長(常勤)任命
22日	旧館開館	昭和61年 10月	事務局職員による県立美術館整備計画検 討会議を設置
10月	広島県立美術館美術品収集要領制定	昭和62年 2月	渋谷文庫開設
12月	広島県立美術館展示施設運営要領制定	3月	県立美術館整備計画検討会議、整備構想 案をまとめる 赤木館長辞職
昭和44年 4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和44年 広島県教育委員会規則第2号) 職員の職・職員の職務 館藏品常設展開設	4月	吉岡典威館長(兼務)任命
昭和46年 4月	宮地貫一館長事務取扱任命	11月	県教育委員会、広島県立美術館整備構想 検討委員会を設置、委員8名を委嘱
昭和47年 1月	広島県立美術館友の会発足	昭和63年 4月	菅川健二館長(兼務)任命 広島県立美術館条例一部改正(昭和63年 広 島県条例第7号)入館料・施設使用料 広島県立美術館美術品等取得基金、1億円 を増額(基金額2億円)
5月	浜本正弘館長事務取扱任命	11月	広島県立美術館整備構想検討委員会、整 備構想をまとめ県教育委員会に答申
6月	佐々木司郎館長事務取扱任命	平成元年 3月	さところ文庫開設
8月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和47年 広島県教育委員会規則第11号)職員 の職 羽白幸雄館長(非常勤)任命	5月	広島県立美術館整備基本計画検討委員会 を設置、委員18名を委嘱(座長 橋口収県商 工会議所連合会会長)
11月	開館5周年記念「広島県立美術館所蔵作品 集」発刊	7月	広島県立美術館美術品等収集評価委員会 を設置、委員6名を委嘱
昭和48年 6月	広島県立美術館条例一部改正(昭和48年 広 島県条例第30号) 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和48年 広島県教育委員会規則第14号)補助 職員の職及び職務	平成2年 3月	「広島県立美術館所蔵作品図録」発刊
10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和48年 広島県教育委員会規則第19号)職員 の職等	4月	広島県立美術館美術品など取得基金、5億 円を増額(基金額7億円)
昭和49年 3月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和49年 広島県教育委員会規則第4号)その 他の職員の職		
昭和50年 4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和50年 広 島県条例第25号)施設使用料		
昭和51年 4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和51年 広 島県条例第9号)入館料		

12月	知事、県議会本会議において「新美術館は隣接する縮景園の景観を損なうことなく、両施設の一体化を図った文化ゾーンの一環として一体的に整備する必要がある」と答弁	平成12年 2月 1日	広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領一部改正
平成3年 2月	知事、県議会本会議において「基金設計に着手する」ことを提案	平成13年 3月26日	広島県博物館協議会条例施行(平成13年 広島県条例第3号)広島県美術館協議会条例廃止
3月	県議会、平成3年度予算案(基本設計予算)を可決	29日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成12年 広島県教育委員会規則第5号)入館料等の減免
4月	広島県立美術館整備基本計画をまとめる 美術品等特別収集に着手 広島県立美術館美術品等取得基金、3億円を増額(基金額10億円)	7月10日	常盤豊館長(兼務)就任
平成4年 7月	施設利用業務休止。館藏品常設展示室休室	10月22日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成13年 広島県教育委員会規則第7号)入館料の減免
9月	閉館記念式典挙行	12月20日	平山郁夫名誉館長辞任
10月	事務所を広島市西区観音新町四丁目9-43に移転、仮事務所とする 旧県立図書館及び旧県立美術館の解体工事に着手 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額20億円)	平成14年 3月25日	広島県立美術館条例一部改正(平成14年 広島県条例第18号)小・中・高校生の無料化
平成5年 3月	解体工事、整地完了 新館建設工事安全祈願祭が挙行され、工事に着手	4月 1日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成14年 広島県教育委員会規則第10号)開館時間の変更
4月	久保信保館長(兼務)任命	平成16年 7月 1日	関靖直館長(兼務)就任
12月	寺協研館長(兼務)任命 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額30億円)	平成17年12月20日	広島県立美術館条例一部改正(平成17年 広島県条例第57号)展示施設等の利用許可の条件、取消し等及び制限 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成17年 広島県教育委員会規則第16号)開館時間表記の改正及び条例改正に伴う改正
平成6年 5月	事務所を西区観音新町から広島市中区八丁堀3-2 幟会館(2階)に移転 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額40億円)	平成19年 4月 1日	榎田好一館長(兼務)就任
平成7年 4月	常廣泰登館長(専任)任命 広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額45億円)	6月18日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成19年 広島県教育委員会規則第9号)休館日の変更及び条例改正に伴う改正
12月	新館竣工 新館鍵引渡し式を挙行	12月25日	広島県立美術館条例一部改正(平成19年 広島県条例第56号)学校教育法等の一部改正に伴う改正
平成8年 1月	事務所を新館に移転	平成20年 4月 1日	指定管理者制度導入
4月 1日	木曾功館長(兼務)就任	平成21年 4月 1日	所管先が広島県教育委員会生涯学習部文化課から広島県環境県民局総務管理部文化芸術課へ移行 広島県立美術館の入館料に関する規則施行(平成21年 広島県規則第33号) 広島県美術展開催運営規則(平成21年 広島県規則第34号)
7月 1日	平山郁夫名誉館長就任	平成21年12月 1日	藤田雄山館長(兼務)就任
5日	広島県立美術館条例施行(平成8年 広島県条例第16号)入館料・施設使用料	平成22年 4月 1日	平田光章館長(兼務)就任
22日	広島県立美術館管理運営規則一部改定(平成8年 広島県教育委員会規則第9号)施設使用料	平成22年 6月 1日	抹香尊文館長(兼務)就任
10月 1日	「広島県立美術館コレクション選」発刊	平成22年 6月28日	広島県美術品等取得基金条例を廃止する条例の施行(平成22年 広島県条例第22号) 広島県立美術館条例一部改正(平成22年 広島県条例第31号)施設使用料額の下限撤廃に伴う改正
5日	新館開館記念式挙行	平成23年 4月 1日	越智裕二郎館長就任
6日	新館開館 広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額50億円)	6月29日	広島県立美術館評価委員会設置
平成9年 3月26日	広島県立美術館条例施行(平成9年 広島県条例第3号)入館料・施設使用料	7月11日	広島県立美術館条例一部改正(平成23年 広島県条例第31号)指定管理者による管理、入館料の納付等および減免、利用料金の納付等・減免及び収入
4月 1日	広島県立美術館管理運営規則(平成9年 広島県教育委員会規則第6号)全面改定	平成24年 4月 1日	広島県立美術館の入特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成24 広島県規則第38号)
平成10年 3月24日	広島県立美術館条例施行(平成10年 広島県条例第5号)入館料等の納付 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成10年 広島県教育委員会規則第4号)		
7月 1日	辰野裕一館長(兼務)就任		

平成25年 2月18日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成25年 教育委員会規則第1号)講堂の利用申込期間の変更	31日	広島県立美術館の入館料に関する規則一部改正(平成29年 広島県規則第16号)入館料の免除
3月14日	広島県立美術館の特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成25年 広島県規則第13号)広島県立美術館条例一部改正に伴う改正	平成31年 3月 8日	広島県立美術館条例一部改正(平成31年 広島県条例第5号)利用料金の範囲
平成26年 3月26日	広島県立美術館条例施行(平成26年 広島県条例第17号、第23号)入館料・施設使用料及び開館時間	令和2年 3月 7日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(同日午後から令和2年5月11日まで)
平成27年 3月16日	広島県立美術館条例一部改正(平成27年 広島県条例第3号)展示施設等の利用料金の減免	令和3年 3月22日	広島県立美術館条例一部追加(令和3年 広島県条例第3号)指定管理者の指定を取り消した場合等の特例、一部改正(令和3年 広島県条例第3号)委任規定
4月 1日	千足伸行館長就任	5月10日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和3年6月20日まで)
平成28年 3月22日	広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第7号)入館料・利用料金の減免、所蔵作品展の利用料金の範囲	8月 7日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和3年9月30日まで)
10月12日	広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第47号)指定管理による管理、入館料の納付等、利用料金の納付等、入館料の減免、利用料金の減免、利用料金の収入	令和4年 1月11日	新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和4年3月6日まで)
平成29年 3月23日	広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成29年 教育委員会規則第1号)利用料金の減免、利用料金の減免の申請	令和5年 3月13日	博物館法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例(令和5年 広島県条例第4号)第1条による広島県立美術館条例の一部改正(設置目的の改正)

## Ⅱ 展覧会

### 展覧会一覧

令和4年4月1日～令和5年3月31日までに開会した展覧会は、次のとおり。

#### 特別展

	展 覧 会 名	会 期
1	国立国際美術館コレクション 現代アートの100年	4月2日(土)～5月29日(日)
2	安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校	7月8日(金)～9月4日(日)
3	皇室の美と広島 一宮内庁三の丸尚蔵館の名品から一	9月16日(金)～10月30日(日)
4	第69回日本伝統工芸展	2月15日(水)～3月5日(日)

#### 所蔵作品展

	展 覧 会 名	会 期
1	春の所蔵作品展 美術を解剖！色・形・モチーフ	4月21日(木)～7月24日(日)
2	夏の所蔵作品展 サマーミュージアム 広島県立美術館のふしぎな学校	7月28日(木)～10月23日(日)
3	秋の所蔵作品展 <sup>プラス</sup> 広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画 ケンピとゲンピの作品を並べたら、美術についての 疑問が解ける(かも)展	10月29日(土)～1月22日(日)
4	冬の所蔵作品展 生誕・結成記念特集／新収蔵作品展	2月14日(火)～4月23日(日)

## 特別展

### 1 国立国際美術館コレクション 現代アートの100年

- 会 期／令和4(2022)年4月2日(土)～5月29日(日)  
※月曜休館(ただし5月2日は開館)
- 主 催／広島県(広島県立美術館)、国立国際美術館、広島ホームテレビ、  
イズミテクノ、中国新聞社
- 後 援／中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、  
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、  
FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz
- 協 賛／大田鋼管株式会社、広島県信用組合、  
一般財団法人ケンシン地域振興財団
- 入 館 料／一 般 1,400円  
高・大学生 1,000円  
小・中学生 700円  
※前売・20人以上の団体は200円引き
- 入館者数／17,779人(51日間)



独立行政法人国立美術館は、その所蔵作品を効果的に活用し、広く国民の鑑賞機会の充実を図るとともに、近・現代美術振興に資するため、「国立美術館巡回展」を実施している。本展覧会は、この枠組のもと、国立国際美術館と巡回開催館である当館・大分県立美術館が企画し、開催したものである。

20世紀初頭、美術の世界は大きく変容し、常識を覆す作品が次々と現れ、美術に対する見方・価値観は大きく揺らぐことになる。国立国際美術館は、日本国内での美術の展開と、世界の美術の動向の関連を明らかにすべく、1945年以後の国内外の現代美術を中心に収集しており、同館の所蔵品をもとに、本展覧会では今日の現代美術に至るまでの流れを鑑賞者に伝えようと試みた。

具体的には、20世紀絵画に多大な影響を与えたポール・セザンヌや、現代美術の父とも呼ばれるマルセル・デュシャンら巨匠に始まり、ポップアートの旗手アンディ・ウォーホル、日本を代表する現代作家である草間彌生や森村泰昌、奈良美智まで、国立国際美術館が収蔵する国内外の作家たちの名品72点によって、100年余の美術の動向を辿った。

(本展担当者：山下 寿水)

#### 関連事業

##### (1) 記念講演会

###### ①「現代美術をコレクションする」

日 時：4月2日(土) 13:30～15:00

講 師：中井 康之(国立国際美術館研究員)

会 場：地階講堂

参加者：66人



②「作り手たちとの出会い－内藤礼、小林孝亘、須田悦弘、塩田千春」

日 時：5月7日(土) 13:30～15:00

講 師：島 敦彦(国立国際美術館館長)

会 場：地階講堂

参加者：75人



(2) 記念対談「縫い、拭い、描く－絵画について考える」  
(広島県立美術館友の会共催)

日 時：4月9日(土) 13:30～15:00

講 師：伊藤 存(アーティスト、本展出品者)、小西 紀行(画家、本展出品者)

会 場：地階講堂

参加者：49人

(3) 美術講座「ベッヒャーからティルマンスまで ドイツ現代写真の位相」

日 時：5月22日(日) 13:30～15:00

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

参加者：60人

(4) ギャラリートーク(イヤホンガイド使用)

日 時：4月15日(金)、29日(金)、5月13日(金)、27日(金)各日11:00～

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計60人

(5) 映画上映会『草間彌生∞INFINITY』(76分)

(広島映画サークル協議会協力)

日 時：4月24日(日) 11:00～、14:00～

会 場：地階講堂

参加者：計156人



※各回上映前に10分程度の解説をおこなった。

※当日参加料金(映画サークル非会員)：一般1,500円 (ほか割引制度あり)

### 主要関連番組

(1) テレビ

4/1 広島ホームテレビ『みみよりライブ5up!』展覧会場中継(担当者出演：山下)

4/1 NHK広島放送局『ひるまえ直送便』展覧会紹介

4/2 広島ホームテレビ ニュース、展覧会開幕紹介

4/27 NHK広島放送局 ニュース、展覧会紹介

4/28 広島ホームテレビ ニュース、1万人セレモニー

(2) ラジオ

3/28 FMふくやま『月曜♪きらリズム』(担当者出演：山下)

4/11～14 広島FM(告知)

4/20 FMおのみち『You Gotta Radio』(担当者出演：山下)

4/21 FMはつかいち『いきいきFactory』(担当者出演：山下)

## 主要関連記事

### (1) 新聞

#### ・中国新聞

3/2 社告(前売開始)

3/30 特集紙面「時代映す表現 一堂に」

4/3 開幕記事「現代アート 100年の足跡」

4/3 ミュージアムで会いましょう

4/22 事業ガイド「現代美術 変容の軌跡」

4/9 「『現代アートの100年』展 広島県立美術館で来場者1万人」

5/3 「寄稿 広島県立美術館『現代アートの100年』展」山下主任学芸員

(新聞広告)

(モノクロ全3段: 3/7、15、21、23、4/1、18、5/16)、(半3段: 4/9、5/16)、

(半5段: 3/8、12、23、30、4/29、5/12、22、23)

#### ・朝日新聞

3/26 イベントナビ

5/14 告知記事「現代美術の100年 作品70点で巡る」

#### ・読売新聞

4/13 ひろしま県民情報

### (2) 雑誌等

『リビングひろしま』3月25日号、『Wendy』4月1日号、『Wink』4月号、『TJ Hiroshima』4月号、  
『くれえばん』4月号、『中外日報』4月22日号、『CHIC』46号、『プレスネット』5月号、『ホット  
ペッパー』5月号、『Workin』5月号、『広島交響楽団第417回定期演奏会プログラム』5月2日号、  
『MOE』6月号等

### (3) WEB

『インターネットミュージアム』3月～、『アートアジェンダ』3月～、『ひろしまDive』3月～、『美  
術手帖』3月～、『FASHION PRESS』3月～、『Walker Plus』3月～、『JAF PLUS』4月～、『青  
山デザインフォーラム』4月～、『ペコマガ広島』4月～等

### (4) その他

3月～5月 広島産業会館、ふくやま産業会館(以上、サイネージ)

3/1～3/14 SNS広告(Facebook、Twitter)

3/2～5/29 NAVIA(街頭ビジョン)

4月下旬～ LECT蔦屋家電(チラシブース設置)

4/29～5/7 ホームテレビFacebook、TwitterでARフォトフレーム

前売販売中 セブンイレブンポップ掲示

会期中 ARフォトフレーム ロビー掲示(第一美術印刷提供)

## カタログ内容

(B5変形、天地257mm×左右165mm、120頁、本文コデックス装+表紙貼り合わせ/カバー巻)

ごあいさつ

国立美術館へようこそ——巡回展の余白に

島敦彦(国立国際美術館 館長)

[第1章] 近代から現代へ——20世紀美術のはじまり

[第2章] 前衛の波、イズムの連鎖——戦後美術の流れ

[第3章] 理性を越えて——1980年以後、時代を写し取る作家たち

[第4章] 日本発、アートの多様性——80年代から現在まで

現代写真の100年——写真とアートとの関りを巡って

山下寿水(当館主任学芸員)

海を渡った日本のアーティストたち——荒川修作、草間彌生、河原温

木藤野絵(大分県立美術館主任学芸員)

作品リスト

クレジット・謝辞

## 展覧会巡回先

大分県立美術館 令和4(2022)年6月11日(土)～8月21日(日)



## 2 安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校

会 期／令和4(2022)年7月8日(金)～9月4日(日)  
主 催／広島県立美術館、中国新聞社、イズミテクノ、  
広島ホームテレビ  
後 援／中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、  
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、  
FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz  
協 賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団  
企画協力／津和野町立安野光雅美術館、株式会社アートワン  
入 館 料／一 般 1,400円  
高・大学生 1,000円  
小・中学生 700円  
※前売・20人以上の団体は200円引き  
入館者数／19,736人(59日間)



国内外で高く評価される画家・安野光雅(1926-2020)の作品は、自然あふれる津和野での幼少時代に空想をめぐらせながら過ごした経験から生まれた。本展では、画家として独立する前の教員時代に着目し、津和野町立安野光雅美術館が所蔵する絵本原画をはじめ多彩なジャンルの作品約170点を、授業の科目に見立てた章構成により紹介した。

(本展担当者：森 万由子)

### 関連事業

- (1) 記念講演会「追悼 安野光雅先生」  
(広島県立美術館友の会共催)  
日 時：7月8日(金) 13:30～15:00  
講 師：大矢 鞆音(津和野町立安野光雅美術館館長)  
会 場：地階講堂  
参加者：65人
- (2) 絵本の読みかたり  
絵本『おおきなもののすきなおうさま』の読みかたりを行った。  
日 時：7月25日(月) 14:00～  
出 演：渡辺 美佳(広島ホームテレビアナウンサー)  
会 場：3階ロビー  
参加者：55人
- (3) ワークショップ  
①「世界にひとつの本をつくろう」  
日 時：8月6日(土) 13:30～16:00  
講 師：ミヤタタカシ(イラストレーター、絵本作家)  
会 場：地階講堂  
参加者：19人



②「ずこう：縮景園で『もりのえほん』をかいてみよう」

日 時：8月10日(水) 13：30～16：00

講 師：弘津 かおる(当館職員、アーティスト)、  
森 万由子(当館学芸員)

会 場：地階講堂、縮景園

参加者：8人

(4) コンサート「おんがく：音楽室の楽器たち」

日 時：7月29日(金) 14：00～

演奏者：Duo(野口美紀&Terako)

会 場：1階ロビー

参加者：160人

(5) ギャラリートーク(イヤホンガイド使用)

日 時：7月15日(金)、8月12日(金)各日16：00～

講 師：森 万由子(当館学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計30人

(6) インスタライブ

日 時：7月21日(木)、8月18日(木)各日17：00～

講 師：森 万由子(当館学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計161人

(7) プラネタリウム投影「星空ツアー 今夜の星空と『幻の星座さがしー夏秋編ー』」

日 時：7月10日～10月16日の毎週日曜日 各日16：00～(約50分)

7月31日(日)スペシャルトーク回 森 万由子(当館学芸員)

会 場：5-Daysこども文化科学館プラネタリウム

参加者：97人(スペシャルトーク回)

(8) その他関連イベント

会期中、ティールームにて特別メニュー「昔なつかしい学校給食」  
を提供(※ 1日10食限定)

価 格：850円



主要関連番組

(1) テレビ

7/8 広島ホームテレビ 開幕ニュース(担当者出演：森)

7/10 NHK広島放送局 ニュース(担当者出演：森)

7/19 広島ホームテレビ『みみよりライブ5up!』中継、  
展覧会紹介(担当者出演：森)

8/9 広島ホームテレビ ニュース、1万人セレモニー

(2) ラジオ

7/13 FMふくやま『イブニングステーション』(担当者出演：森)

8/2 FMおのみち『You Gotta Radio』(担当者出演：森)



## 主要関連記事

### (1) 新聞

#### ・中国新聞

- 6/7 社告(前売開始)
- 6/22 子ども新聞教室受講者募集
- 7/1 事業ガイド「ひらがなと絵 自由に描こう」
- 7/5 特集紙面「さまざまな創造あふれる好奇心」
- 7/6 「会場に作品続々」
- 7/9 開幕記事「色彩豊か 遊び心満載」
- 7/14 連載「好奇心の種」さんすう
- 7/15 連載「好奇心の種」しゃかい
- 7/16 連載「好奇心の種」おんがく
- 7/17 連載「好奇心の種」えいご
- 7/17 ミュージアムで会いましょう
- 7/18 連載「好奇心の種」こくご
- 7/19 連載「好奇心の種」りか
- 7/20 天風録
- 7/22 事業ガイド「コンサートと読み語り」
- 7/28 寄稿「安野光雅さんと彼岸花」  
大矢鞆音(津和野町立安野光雅美術館館長)
- 7/29 事業ガイド「挿絵を投影 星空ツアー」
- 8/3 連載「郷愁の風景」山眺め空想 創作の原点
- 8/4 連載「郷愁の風景」愛する古里 カラフルに
- 8/5 事業ガイド「給食イメージ郷愁の味」
- 8/6 連載「郷愁の風景」
- 8/10 「安野光雅展1万人」
- 8/12 事業ガイド「配信で見どころお届け」
- 8/18 寄稿「『安野先生』のメッセージ」森学芸員
- 8/19 事業ガイド「グッズ充実 来場記念に」
- 8/26 事業ガイド「『商品』選んでスケッチ」
- 9/2 事業ガイド「閉幕近づく4日まで」

#### (新聞広告)

(モノクロ全3段：6/20、7/7、8/6、22、29、9/1)、(半3段：6/10、24、25、7/2、6、28、29)、(半5段：6/9、26、30、9/3)、(モノクロ広告・イラスト募集：7/14、22、27)、(カラー広告・本日開幕：7/8)、(カラー広告・評判広告(感動の声)：7/18、23、26)、(カラー広告・お見逃しなく：8/25、28、31)、(カラー広告・本日最終日：9/4)

### (2) 雑誌等

『美術の窓』4月22日号、『フルハップ』6月号、『Wendy』7月号、『Wink』7月号、『TJ Hiroshima』7月号、『くれえばん』7月号、『to-you』7月号、『生協チラシ』6月～、『CHIC』47号、『ゆめカード裏面』7月～、『ママンベール』4月22日号、『中外日報』6月17日号、『プレスネット』7月21日号、『せとうちアート通信』8月1日号、『ぐるマチ』7月～、『広島交響楽団第423回定期演奏会プログラム』7月8日号、『月刊経済春秋』7月号



(3) WEB

『インターネットミュージアム』6月～、『アートアジェンダ』6月～、『ひろしまDive』6月～、『美術手帖』6月～、『Walker Plus』6月～、『JAF PLUS』6月～、『青山デザインフォーラム』6月～、『ホームテレビHP』6月～等

(4) その他

7/1～9/4 広島産業会館、ふくやま産業会館、イズミ関連、広島駅(以上、サイネージ)

7/1～9/4 NAVIA、C-Vision(以上、街頭ビジョン)

8/3 中国新聞子ども新聞教室

中国新聞企画「ひらがなイラスト募集」 応募117件(3階ロビーで展示)

中国新聞企画「魔方陣を完成させよう」クイズ企画 応募総数638件

カタログ内容

ごあいさつ

「安野先生のふしぎな学校」に寄せて 大矢鞆音

プロローグ

朝の会

こくご

さんすう

ずこう

おんがく

しゃかい

りか

えいご

終わりの会

自由研究

安野光雅 年譜

主要参考文献

掲載目録

津和野町立安野光雅美術館



展覧会巡回先

美術館「えき」KYOTO 令和4(2022)年2月25日(金)～3月27日(日)

明石市立文化博物館 令和5(2023)年7月22日(土)～8月27日(日)

### 3 皇室の美と広島 ー宮内庁三の丸尚蔵館の名品からー

会 期／令和4(2022)年9月16日(金)～10月30日(日)  
※休館：祝日除く月曜日、10月11日(火)

主 催／広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ、宮内庁  
後 援／中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、  
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、  
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、  
FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協 賛／大和証券株式会社、広島県信用組合、  
一般財団法人ケンシン地域振興財団

特別協力／文化庁、紡ぐプロジェクト、読売新聞社

助 成／令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した  
展覧会支援事業

入 館 料／一 般 1,400円  
高・大学生 1,000円  
中学生以下無料  
※前売・20人以上の団体は200円引き

入館者数／21,763人(開館40日間)



本展覧会は皇居東御苑内にある宮内庁三の丸尚蔵館の地方展開事業を受けて実施した。同館からは昭和の大礼を彩った川合玉堂《昭和度 悠紀地方風俗歌屏風》や愛らしいボンボニエール、江戸時代の絵師として人気の高い伊藤若冲《旭日鳳凰図》のほか、現福山市出身の画家藤井松林《百福之図》をはじめとする広島県ゆかりの美術品の出品をいただいた。また、広島県立美術館からは高松宮家の邸宅を取材して描かれた児玉希望《室内》などを出品し、あわせて約80点の作品を展示した。本県ではじめて紹介する地域ゆかりの作品も数多く、皇室と広島をつなぐを紹介する貴重な機会となった。

(本展担当者：隅川 明宏)

#### 関連事業

- (1) 記念講演会「悠紀主基地方風俗歌屏風をめぐって」  
(広島県立美術館友の会共催)  
日 時：9月17日(土) 13:30～15:00  
講 師：朝賀 浩(宮内庁長官官房参事官)  
会 場：地階講堂  
参加者：97人
- (2) ギャラリートーク(ワイヤレスガイド使用)  
日 時：9月23日(金)、30日(金)、  
10月21日(金)、28日(金)各日11:00～  
講 師：隅川 明宏(当館主任学芸員)  
会 場：3階企画展示室  
参加者：計60人



(3) インスタライブ(和英対応)

日 時：10月6日(木)、13日(木)各日17:00~

講 師：隅川 明宏(当館主任学芸員)

英 語：山下 寿水(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

司 会：福田 浩子(当館学芸課長)

会 場：3階企画展示室

参加者：計85人

(4) こどもワークショップ「ミニ屏風に絵を描こう」&鑑賞会

日 時：10月15日(土) 13:30~15:30

講 師：宮郷 敦子(日本画家)、  
隅川 明宏(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

参加者：10人

(5) 観光事業者・観光ガイド向け特別鑑賞会

日 時：9月20日(火) 16:30~担当学芸員によるレクチャー 17:00~展示室にて鑑賞

講 師：隅川 明宏(当館主任学芸員)

参加者：74人



主要関連番組

(1) テレビ

7/16~ 広島テレビ(スポットCM15秒)

9/27 広島テレビ 特集

9/30 広島テレビ『知っとる!』

10/7 広島テレビ『テレビ派』ニュース、1万人

10/2、9 NHK『日曜美術館アートシーン』

(2) ラジオ

9/26 FMふくやま『イブニングステーション』内「びんご510」

9/27 FMおのみち



主要関連記事

(1) 新聞

・読売新聞

7/19 告知記事「皇室 受け継がれる名品」

9/4 全国版作品紹介・川合玉堂

9/15 「『皇室の美』展 準備着々」

9/17 開幕記事「『皇室の美』展が開幕」

9/18 「『皇室の美』展 見どころを解説」(講演会)

9/30 「作品紹介・伊藤若冲・生命の本質艶めかしく」隅川主任学芸員

10/2 全国版作品紹介・六角紫水

10/8 「『皇室の美』展 来場1万人」

10/8 「作品紹介・児玉希望・琳派の様式にモダニズム」神内主任学芸員

10/14 「作品紹介・六角紫水ほか置時計・二大巨匠の漆工と金工」岡地学芸員



・中国新聞

10/8 ミュージアムで会いましょう

(2) 雑誌等

『美術の窓』9月号、『フルハップ』9月号、『Wendy』10月号、『Wink』9月号、『TJ Hiroshima』10月号、『くれえばん』9月号、『to-you』9月号、『生協チラシ』9月～、『CHIC』47号、『ゆめカード裏面』7月～、9月～、『広島リビング』9月30日号、『新美術新聞』10月号、『広島交響楽団第425回定期演奏会プログラム』10月14日号

(3) WEB

『ひろしまDive』7月～、『美術手帖』7月～、『Walker Plus』7月～、『広島テレビHP』7/15～、『アートアジェンダ』8月下旬～、『JAF PLUS』9月～、『青山デザインフォーラム』9月～、『NHKアートシーンHP』9/24～

(4) その他

7/1～9/4 NAVIA(街頭ビジョン)

7/16 資料提供

7/16～10/30 サイネージ

9/8 プレスリリース配信

9/22、23 ツーリズムEXPOでのチラシ配布

カタログ内容

(A4、天地297mm×左右210mm、112頁、PUR、並製本)

ごあいさつ

三の丸尚蔵館について 戸田浩之

図版 第一章 皇室の御慶事を彩る

第二章 皇室とつながる広島

第三章 広島ゆかりの作家たち

第四章 京と瀬戸内の風景

第五章 帝室技芸員と近代工芸の精華

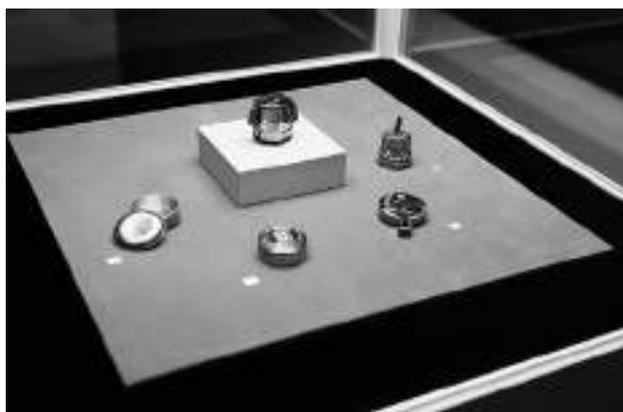
積文

作品目録

List of Works

About the Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan

Foreword



## 4 第69回日本伝統工芸展

会 期／令和5(2023)年2月15日(水)～3月5日(日)  
主 催／広島県、広島県教育委員会、広島県立美術館、  
NHK広島放送局、朝日新聞社、公益社団法人日本工芸会  
後 援／文化庁  
協 賛／マツダ株式会社、大田鋼管株式会社、株式会社ヒロタニ、  
株式会社ヒロテック、広島県信用組合、  
一般財団法人ケンシン地域振興財団  
入 館 料／一 般 700円  
高・大学生 400円  
中学生以下無料  
※前売・20人以上の団体は200円引き  
入館者数／9,864人(19日間)



日本伝統工芸展は、日本の風土の中から生まれた世界に誇る工芸技術を発展継承させることを目的に、昭和29年に創設された。伝統的な「わざ」をベースとしながら、今日の生活に合った新たな技術、新たな表現を築き上げることを目標としている。広島展では、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の各部門から、広島在住作家の入選作8点を含む279点を展示し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、伝統工芸に対する理解を深め、地域文化の向上に資することに努めた。

(本展担当者：岡地 智子)

### 広島県在住入選者

陶 芸 赤毛 敏男《備前花器》、木村 芳郎《碧釉壺「水平線」》  
染 織 山城 直子《型絵染着物「塔を巡る物語」》  
漆 芸 金城一國齋《切金螺鈿箱「麦浪」》、高山 尚也《乾漆鉢「あけ」》  
木竹工 小林 松齋《櫻拭漆轆轤目丸盆》  
金 工 廣谷 瑞穂《鍛黄銅打出壺》  
諸工芸 栗根 仁志《七宝箱「華の舟」》

### 関連事業

- (1) 記念講演会「型の美を求めて～文様の起点と展開～」  
(広島県立美術館友の会共催)  
日 時：2月18日(土) 13:30～15:00  
講 師：鈴木 滋人  
(重要無形文化財「木版摺更紗」保持者)  
会 場：地階講堂  
参加者：69人



(2) スライドトーク(出品作家による展示作品解説)

日時	講師(内容)	参加者
2月23日(木・祝) 13:30~	金城一国斎(漆芸)	82人
3月4日(土) 13:30~	小林 松斎(木工)	41人

(3) インスタライブ(出品作家による展示作品解説)

日時	講師(内容)	参加者
2月22日(水) 17:00~	栗根 仁志(七宝)	66人

※美術館と作家工房をつないだコラボ配信

(4) 子ども鑑賞コース 出張授業

11月21日(月)	府中市立上下北小学校4年生(14人)	田代 昭夫(漆芸)
11月28日(月)	府中町立府中緑ヶ丘中学校美術部員(11人)	金城一国斎(漆芸)

(5) 子ども鑑賞コース ワークショップ

日時：2月19日(土) 13:30~15:30  
 講師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)、武井三聡子(朝日新聞広島総局長)  
 内容：「学芸員の仕事に挑戦しよう！」(出品作品や展覧会を紹介する記事の執筆)

参加者：6人

※記事は当館公式ツイッターで紹介した。うち2名の記事は朝日新聞に掲載された。



(6) 中学生による職場体験学習

月 日：10月6日(木)、7日(金)  
 講師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)

内容：染織および人形部門の展示プラン立案

参加者：2人(県立広島中学校3年生)

※展覧会では、学生が立案した展示プランにより陳列した。



(7) こども鑑賞ガイドブック作成

ガイドブック：A5判16ページ、3,000部



(8) その他関連イベント

- ア 広島会場限定展覧会オリジナル和菓子の制作・販売  
地元の和菓子店(青柳屋/広島市中区)の協力を得て、  
総裁賞受賞作品をイメージした和菓子を制作・販売した。  
期 間：2月15日(水)～26日(日) ※ 1日10食限定  
価 格：800円(抹茶とセット)
- イ 工芸技法キャラクターオリジナルトートバッグプレゼント企画(5名)  
朝日新聞掲載  
応募数：39通



主要関連番組

(1) テレビ

- 9/18 NHK 『日曜美術館』  
2/12 NHK 『日曜美術館』再放送(広島県内向け)  
2/15 NHK 開幕ニュース  
2/15 広島ホームテレビ 開幕ニュース

主要関連記事

(1) 新聞

・朝日新聞

- 8/24 県内入選者  
8/24 入賞16点  
11/29 伝統技法の蒔絵 中学生が「感動」(出張授業)  
1/26 社告  
1/27 告知記事「日本伝統工芸展 催し多彩に」  
2/3 特集紙面「生き続ける 卓越した技」  
2/11 告知記事「日本伝統工芸展 15日から広島で」  
2/14 作品解説① 栗根仁志《華の舟》(福田学芸課長)  
2/15 「五感で味わう伝統工芸」(オリジナル和菓子)  
2/15 作品解説② 七代金城 一国齋《切金螺鈿箱「麦浪」》(福田学芸課長)  
2/16 開幕記事「伝統工芸展 2年ぶり」  
2/16 作品解説③ 小林松齋《櫻拭漆轆轤目丸盆》(角田主任学芸員)  
2/18 作品解説④ 赤毛敏男《備前花器》(岡地学芸員)  
2/19 「染織作品の模様 技法や過程説明」(講演会)  
2/20 作品解説⑤ 高山尚也《乾漆鉢「あけ」》(岡地学芸員)  
2/20 「学芸員にトライ」(子供ワークショップ)  
2/21 作品解説⑥ 木村芳郎《碧釉壺「水平線」》(森学芸員)  
2/22 作品解説⑦ 廣谷瑞穂《鍛黄銅打出壺》(岡地学芸員)  
2/25 作品解説⑧ 山城直子《型絵染着物「塔を巡る物語」》(森学芸員)  
3/1 「トートバックに工芸技法キャラ」  
3/3 「伝統工芸 解説したよ」(子供ワークショップ)

(新聞広告)

広島県版：(全7段：2／10、11)、(全5段：2／4)、(半5段：2／15、20、23、27、3／2、3)  
(折込チラシ) 2／7、14

・中国新聞

2／23 名工の手仕事 技と感性(新聞広告)

(2) 雑誌等

『フルハップ』11月号、『月刊経済春秋』1月号、『Wendy』2月号・3月号、『くれえばん』2月号、  
『TJ Hiroshima』2月号、『to-you』2月号、『広島交響楽団第427回定期演奏会プログラム』1月20  
日号

(3) WEB

『NHK広島ホームページ』12月15日～、『じゃらんnet』12月～、『JR西日本』12月～、『Diveひろ  
しま』12月～、『アートアジェンダ・インターネットミュージアム』12月～、『青山デザインフォー  
ラム』12月～

## カタログ内容

趣旨

出品目録

出品作品図版

特別展示「わざを伝える」文化財保存事業報告 「彫金」伝承者養成研究会  
第69日本伝統工芸展入選作品及び受賞作品の決定について

## 展覧会巡回先

東京	令和4(2022)年9月14日(水)～9月26日(月)	日本橋三越本店
名古屋	令和4(2022)年9月28日(水)～10月2日(日)	星ヶ丘三越
京都	令和4(2022)年10月12日(水)～10月14日(金)	京都産業会館ホール
札幌	令和4(2022)年10月18日(火)～10月23日(日)	札幌三越
金沢	令和4(2022)年10月28日(金)～11月6日(日)	石川県立美術館
岡山	令和4(2022)年11月17日(木)～12月4日(日)	岡山県立美術館
松江	令和4(2022)年12月7日(水)～12月25日(日)	島根県立美術館
高松	令和5(2023)年1月2日(月・振休)～1月16日(月)	香川県立ミュージアム
仙台	令和5(2023)年1月20日(金)～1月25日(水)	仙台三越
福岡	令和5(2023)年2月1日(水)～2月6日(月)	福岡三越
大阪	令和5(2023)年3月9日(木)～3月14日(火)	大阪高島屋

## 所蔵作品展

当館では、5,000点を超える所蔵作品の中から、当館の所蔵作品や研究成果を生かした所蔵作品展を年に4回開催している。令和4年度においては、「美術館から、美術をもっと楽しむための4つの提案」を年間のテーマとして、所蔵作品の魅力をわかりやすく伝えることを企図した。

春の所蔵作品では、「美術を解剖！色・形・モチーフ」と題し、「現代美術の楽しみ方」をテーマとする特別展「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」と連動して、作品を造形芸術の基本である「色」と「形」、「モチーフ」に分解して、美術の見方、楽しみ方を入門的に紹介した。また、展示内容をわかりやすく伝える「楽しみ方ナビ」(A4サイズ)を新たに作成・配布し、理解促進のためのツールとした(冬の所蔵作品展にも配布)。

夏の所蔵作品展では、特別展「安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校」に合わせて、「サマーミュージアム 広島県立美術館のふしぎな学校」を開催。展示室を学校に見立て、国語や算数などの教科をイメージして作品を選定し、子供たちが親しみながら楽しめる展示とした。

秋の所蔵作品展では、広島市現代美術館と連携した「秋の所蔵作品展+<sup>プラス</sup> ケンピとゲンピの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展」を開催(後述)。

冬の所蔵作品展「生誕・結成記念特集／新収蔵作品展」では、生誕110年を迎える作家(奥田元宋)や美術運動(青騎士)、結成80年を迎える新人画会(鬩光ら)の特集展示の他、今年度新たにコレクションに加わった作品のお披露目を行った。

また、前年度の秋期に新たに開設したウェルカムギャラリーでは、継続して「これが、県美の広島愛。」をテーマに、広島を代表する作家の紹介に努めたほか、秋の所蔵作品展からは新たに音声ガイドシステム(CO3 Audio Tour)を導入し、英語でのガイドも可能とした。

前年度に引き続き、「ARTS for the future! 2(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)」を活用して、従来の所蔵作品展を拡張する、積極的な活動に取り組んだ。

(総括担当者：神内 有理)

### 春の所蔵作品展

## 美術を解剖！色・形・モチーフ

令和4年4月21日(木)～7月24日(日)

前期：4月21日(木)～6月5日(日)

後期：6月7日(火)～7月24日(日)

### ウェルカムギャラリー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	落葉	1913(大正2)	高74.5	木	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	自画像	1899(明治32)頃	67.5×58.0	油彩・画布	1 面	第6回文展	
3	南 薫造	1883-1950	石割り	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布	1 面		
4	鬩 光	1907-1946	静物	1942(昭和17)	45.1×37.6	油彩・画布	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	飛泉淙々	1931(昭和6)	260.0×145.0	絹本彩色	1 面	第12回帝展	
6	奥田 元宋	1912-2003	青山白雲	1987(昭和62)	180.3×124.4	紙本彩色	1 面	曲玄讀歌 奥田元宋展	
7	平山 郁夫	1930-2009	内海の春	1954(昭和29)	145.0×208.0	紙本彩色	1 面	第39回院展	
8	圓錐 勝三	1905-2003	月夜の僧	1985(昭和60)	高88.0×97.0×90.0	木・銅板・彩色	1 軀	第17回改組日展	
9	六角 紫水	1867-1950	国宝嚴島神社蔵 松喰鶴繪小唐櫃(模写)	1922(大正11)	高23.2 25.0×32.0	木・漆・蒔絵	1 対の うち1合		
10	清水 南山	1875-1948	花卉文壺	1926(大正15)	高16.0 径12.2	銅・彫金	1 面		
11	今井 政之	1930-2023	象嵌彩信楽早春の芸予大壺	2000(平成12)	高30.5 胴径41.0	陶器	1 口		

第1室 モノクロームの世界に注目！ マン・レイの写真を中心にー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
12	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1面	ニューヨーク万国博覧会	
13	マン・レイ	1890-1976	黒と白	1926	20.7×28.9	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
14	マン・レイ		写真機のあるセルフポートレイト	1932	29.7×20.3	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
15	マン・レイ		アルベルト・ジャコメッティ/ ソラリゼーション	1935	38.7×22.0	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
16	マン・レイ		仮面/ソラリゼーション	1929	28.7×20.4	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
17	マン・レイ		解剖台の上でミシンとこうもり傘が 偶然出会ったように美しい	1933	24.9×37.8	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
18	マン・レイ		マルセル・デュシャン	1917	37.5×27.7	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
19	マン・レイ		アトリエのマルセル・デュシャン	1920	35.7×26.0	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
20	マン・レイ		マルセル・デュシャンのアトリエ/回転ガラス板	1920	26.7×22.6	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
21	マン・レイ		M.デュシャンのレディメイド「壺乾燥器」	1920頃	27.0×37.7	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
22	マン・レイ		M.デュシャンの作品「美しい吐息」	1921	37.8×27.0	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
23	マン・レイ		剃髪	1920	30.2×24.1	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
24	マン・レイ		「Tu m」のあるキャサリン・ドライヤー 婦人の書斎	1919	37.6×27.4	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
25	マン・レイ		隣りあう金属製の水車のある 櫛の後ろのマルセル・デュシャン	1917	22.5×30.4	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
26	マン・レイ		チェスをするマルセル・デュシャン とラウル・ド・ルシー	1924	22.3×23.5	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
27	マン・レイ		アーノルト・シェーンベルク	1926	29.1×22.3	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
28	マン・レイ		ヴェールをかぶったキキ・ド・モンパルナス	1926	35.8×26.0	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
29	マン・レイ		アングルのヴァイオリン	1924	30.8×23.1	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
30	ワシリー・カンディンスキー	1866-1944	小さな世界Ⅷ	1922	35.6×28.0	木版・紙	1面		前期
31	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅸ	1922	35.6×28.0	ドライポイント・紙	1面		後期
32	藤田 嗣治	1886-1968	婦人像(リオ)	1932	81.2×65.0	油彩・画布	1面		
33	ジャン(ハンス)・アルプ	1886-1966	目覚め	1938/1983鑄造	高47.5×24.0×23.0	ブロンズ	1点		
34	マックス・エルンスト	1891-1976	オイディプスⅠ	1934/1992鑄造	高62.0	ブロンズ	1点		
35	マックス・エルンスト		オイディプスⅡ	1934/1992鑄造	高66.0	ブロンズ	1点		
36	アレクサンダー・コルダ	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイエ・フレーム	1936	高265.4	金属・ワイヤー・パネ・木	1点		
37	ジョゼフ・コーネル	1903-1972	オブジェ(ポーリン・クック)	1932	高30.5×20.3×5.7	箱写真・コルク・ゴムボールなど	1点	個展(1932)	
38	イサム・ノグチ	1904-1988	追想	1944/1983-84鑄造	高125.7×62.2×22.8	ブロンズ	1点		
39	マリノ・マリニー	1901-1980	二人の軽業師と馬	1951	64.0×47.0	リトグラフ・紙	1面		前期
40	マリノ・マリニー		驚きⅡ	1973	67.5×52.5	エッチング・カラー・アクアチント・紙	1面		前期
41	マリノ・マリニー		黄色の縁取りのある3頭の馬	1954	64.0×44.0	リトグラフ・紙	1面		後期
42	マリノ・マリニー		小さな踊りⅠ	1973	67.5×52.5	エッチング・ドライポイント・ カラー・アクアチント・紙	1面		後期

第2室 色に注目！ 版画の色、いろいろ。

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
43	水船 六洲	1912-1980	アネモネ	1945-48(昭和20-23)頃	34.0×44.0	木版・紙	1面		
44	水船 六洲		旗(Flag)	1960(昭和35)	43.8×65.0	木版・紙	1面		
45	水船 六洲		独りだけの唄	1960(昭和35)頃	33.0×27.0	木版・紙	1面		
46	水船 六洲		鳥の椅子(Bird Chair)	1966(昭和41)	41.0×32.5	木版・紙	1面		
47	水船 六洲		魚の窓	1966(昭和41)	67.9×45.6	木版・紙	1面		
48	水船 六洲		朱い実(Red Fruits)	1969(昭和44)	23.5×45.5	木版・紙	1面		
49	水船 六洲		草むら		54.3×41.2	木版・紙	1面		
50	水船 六洲		緑の蔭		25.3×33.9	木版・紙	1面		
51	水船 六洲		石の宿		64.5×45.5	木版・紙	1面		
52	水船 六洲		かもめとランプ		59.5×45.7	木版・紙	1面		
53	水船 六洲		葦の笛		21.5×24.0	木版・紙	1面		
54	水船 六洲		燭明り	1967(昭和42)	高202.0×54.0×40.0	木・彩色	1軀	第10回新日展 内閣総理大臣賞	
55	水船 六洲		はつ雁抄	1972(昭和47)	高155.0×57.0×51.5	木・彩色	1軀	第4回改組日展	
56	吉田 博	1876-1950	瀬戸内海集「光る海」	1926(大正15)	37.2×24.7	木版・紙	1面		前期
57	吉田 博		瀬戸内海集「靱の浦」	1927(昭和2)	24.8×37.6	木版・紙	1面		前期
58	吉田 博		瀬戸内海集 第二「三つ小島」	1930(昭和5)	24.6×37.4	木版・紙	1面		後期
59	吉田 博		瀬戸内海集 第二「木の江」	1930(昭和5)	37.5×24.5	木版・紙	1面		後期
60	川瀬 巴水	1883-1957	巖島の雪	1932(昭和7)	24.4×36.5	木版・紙	1面		前期
61	川瀬 巴水		宮島の月夜	1947(昭和22)	36.3×24.0	木版・紙	1面		後期
62	永瀬 義郎	1891-1978	花	1928(昭和3)	34.3×21.1	木版・紙	1面		後期
63	永瀬 義郎		東洋の旅Ⅰ「上海所見」	1929(昭和4)	30.0×22.5	木版・紙	1面		前期
64	永瀬 義郎		東洋の旅Ⅳ シバの踊り	1930(昭和5)	31.3×22.7	木版・紙	1面		後期

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
65	永瀬 義郎		浪漫	1978(昭和53)	72.7×54.3	ナガセプリント'73・紙	1面		後期
66	平川 清蔵	1896-1964	卓上静物	1926(大正15)頃	33.0×23.8	木版・紙	1面		前期
67	橋本 興家	1899-1993	雨	1966(昭和41)	48.0×60.0	木版・紙	1面		前期
68	橋本 興家		若葉と筍	1970(昭和45)	48.0×58.8	木版・紙	1面		後期
69	朝井 清	1901-1968	祇園祭	1954(昭和29)	145.5×89.4	木版・紙	1面		前期
70	朝井 清		長崎御宮日祭	1965(昭和40)	130.3×97.0	木版・紙	1面		後期
71	細田 政義	1908-1999	ガラス器	1962(昭和37)	36.0×21.0	銅版・紙	1面		前期
72	細田 政義		ガラス器	1962(昭和37)	36.0×21.0	銅版・紙	1面		後期
73	細田 政義		ピン(整列5)	1963(昭和38)	36.3×20.0	銅版・紙	1面		前期
74	細田 政義		ピン(整列5)	1963(昭和38)	36.3×20.0	銅版・紙	1面		後期
75	菅井 汲	1919-1996	NUAGES	1961(昭和36)	71.0×54.0	リトグラフ・紙	1面		後期
76	菅井 汲		大都会の夜	1966(昭和41)	57.5×40.0	リトグラフ・紙	1面		前期
77	菅井 汲		FESTIVAL DE TOKYO (フェスティバル・ド・トーキョー)	1969(昭和44)	50.5×182.0	シルクスクリーン・紙	1面		
78	菅井 汲		AUTO PORTRAIT(自画像)	1968(昭和43)	75.4×51.4	シルクスクリーン・紙	1面		前期
79	菅井 汲		Ma Voiture(PORSCHE) (私の車 ポルシェ)	1975(昭和50)	33.8×95.5	シルクスクリーン・紙	1面		後期
80	金光 松美	1922-1992	SORCERY HOLIDAY	1972(昭和47)	75.0×56.0	石版・紙	1面		前期
81	金光 松美		North Wind	1977(昭和52)	91.4×62.2	石版・紙	1面		後期
82	深沢 幸雄	1924-2017	月下の対話	1985(昭和60)	37.3×47.5	リトグラフ・アクリル・エッチング・紙	1面		
83	高橋 秀	1930-	レズボール-白-(32種の版画)	1973(昭和48)	69.0×69.0	シルクスクリーン・エンボス・紙	1面		前期
84	高橋 秀		レズボール-ピンク-(32種の版画)	1973(昭和48)	69.0×69.0	シルクスクリーン・エンボス・紙	1面		前期
85	高橋 秀		処女-白-(8つの作品)	1973(昭和48)	56.5×76.5	シルクスクリーン・エンボス・紙	1面		後期
86	高橋 秀		処女-緑-(8つの作品)	1973(昭和48)	56.5×76.5	シルクスクリーン・エンボス・紙	1面		後期
87	吉原 英雄	1931-2007	Summer Time	1968(昭和43)	60.0×40.0	石版・紙	1面		前期
88	吉原 英雄		二十歳の肖像	1979(昭和54)	44.0×34.5	リトグラフ・エッチング・アクリル・紙	1面		後期

### 第3室 モチーフに注目！ 花鳥・人物・山水

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
89	金島 桂華	1892-1974	牡丹	1948(昭和23)	各163.0×171.0	紙本彩色	1双	第4回日展	前期
90	不詳		花鳥図	桃山～江戸時代	151.0×348.0	紙本彩色	1隻		後期
91	梶田 半古	1870-1917	月下鶉図		135.0×60.6	絹本彩色	1幅		前期
92	望月 玉川	1794-1852	芦雁図		73.7×44.0	絹本墨画淡彩	1幅		後期
93	大村 廣陽	1891-1983	南苑	1928(昭和3)	212.0×158.0	絹本彩色	1面	第9回帝展	
94	児玉 希望	1898-1971	猿猴捉月	1933(昭和8)	255.0×105.0	絹本彩色	1面	第14回帝展	
95	金島 桂華	1892-1974	芭蕉孔雀図	1912(明治45)	各168.0×375.5	絹本彩色	1双	美術会第12回絵画展覧会	
96	望月 玉蟾	1692-1755	維摩居士之図		106.0×44.0	絹本墨画	1幅		後期
97	望月 玉蟾		九老図	1749(寛延2)頃	116.2×43.4	絹本彩色	1幅		前期
98	松本 楓湖	1840-1923	天照大神と須佐之男命	1908(明治41)	164.0×75.0	絹本彩色	1幅		
99	福原 五岳	1730-1799	唐人物図	1772(天明5)	171.0×276.5	紙本彩色	1隻		
100	田中 頼璋	1868-1940	唐美人図		224.0×93.0	紙本彩色	1幅		
101	田中 頼璋		漁樵問答図	1927(昭和2)	178.5×95.0	絹本彩色	1幅		
102	児玉 希望	1898-1971	荆軻	1939(昭和14)	各153.5×69.0	絹本彩色	2面	第10回成辰会展	
103	福田 恵一	1895-1956	イスパニアに寄る常長	1923(大正12)	111.3×115.8	絹本彩色	1幅	日本美術展	
104	福田 恵一		加藤清正像		94.0×113.0	絹本彩色	1幅		
105	北野 恒富	1880-1947	風	1917(大正6)	155.0×172.0	絹本彩色	1隻	第3回大阪美術展	
106	甲斐庄楠音	1894-1978	横櫛	1918(大正7)	165.0×72.0	絹本彩色	1面	第1回国画創作協会展	
107	宋 紫石	1715-1786	山水図	江戸時代	102.5×36.7	絹本墨画淡彩	1幅		前期
108	宋 紫石		岳陽樓図		121.0×48.8	絹本彩色	1幅		後期
109	望月 玉泉	1834-1913	山水図		各50.0×69.1	紙本墨画淡彩	2幅		
110	不詳		巖鳥・鞍馬図	江戸時代	各153.5×340.0	紙本彩色	1双		前期(巖鳥) 後期(鞍馬図)
111	横山 大観	1868-1958	壺峰不二		49.1×57.1	絹本彩色	1幅		
112	児玉 希望	1898-1971	富士 大瀬崎より望む	昭和30～40年代	50.5×57.5	絹本彩色	1幅		

### 第4室 形に注目！ 用途に即した形と何かを象徴した形

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
113			重要文化財 伊万里色絵花弁文輪 花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1口		
114			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1軀		
115			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1軀		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
116	富本 憲吉	1886-1963	白磁壺	1928(昭和3)	高23.3 径29.0	磁器	1口		
117	加守田章二	1933-1983	曲線彫文扁壺	1970(昭和45)	高27.1 12.0×23.0	陶器	1口		
118	藤平 伸	1922-2012	壺	1975(昭和50)	高20.6 長辺26.7	陶器	1口		
119	藤平 伸		館	1972(昭和47)	高30.4 長55.7	陶器	1点	第2回日本陶芸展(1973年)	
120	今井 政之	1930-2023	躍鳥扁壺	1953(昭和28)	高38.2 幅38.8 奥行22.9	陶器	1口	第9回日展(初入選)	
121	河本 五郎	1919-1986	色絵脚付器「撩乱」		高36.0 33.0×28.0	陶器	1点		
122	鯉江 良二	1938-2020	(オリベ盤)		10.5×38.5×41.2	陶器	1点		
123	鯉江 良二		電車の皿		右端3.9×16.5×12.0	陶器	11点組		
124	鯉江 良二		(スライラス)	1987(昭和62)	23.0×21.5×205.0	磁器	1点		
125	宮永理吉(三代宮永東山)	1935-	断層	1956(昭和31)	高32.0 30.0×31.0	陶器	1点		
126	宮永理吉(三代宮永東山)		土の歩み	1957(昭和32)	高58.0 150.0×55.7	陶器	1組		
127	宮永理吉(三代宮永東山)		パイプ	1972(昭和47)	高26.0 18.0×14.5	青白磁	1点		
128	宮永理吉(三代宮永東山)		天空の森	1997(平成9)	高64.0 47.5×18.5	磁器	1点	京都現代陶芸6人展、高島屋美術画廊(東京、京都)	
129	宮永理吉(三代宮永東山)		天空の森型紙	1997(平成9)		紙	1式		
130	林 康夫	1928-	作品	1954(昭和29)	高45.0 38.0×30.0	陶器	1点		
131	林 康夫		緑の滴	1958(昭和33)	高30.7 38.5×28.5	陶器	1点		
132	林 康夫		POSE	1972(昭和47)	高38.0 31.0×26.0	陶器	1点		
133	柳原 睦夫	1934-	空の力学	1976(昭和51)	高30.4 38.0×36.0	陶器	1点		
134	門田 篁玉	1916-2021	連作「蓄」	1975(昭和50)	高28.4 径57.5	竹	1口	第7回日展入選作	
135	蓮田修吾郎	1915-2010	銅盤	1937(昭和12)	29.8×6.5	銅・鍍金	1枚	総合工芸美術展	
136	蓮田修吾郎		青銅方壺	1964(昭和39)／ 1992(平成4)再鑄造	11.8×37.7	青銅	1口	第3回日本現代工芸美術展	
137	林 万寿人	1896-1985	銅結び紐文花瓶	1956(昭和31)	31.0×29.0	青銅・鍍金	1口	第12回日展	
138	林 万寿人		銅四方花瓶	1970(昭和45)	18.3×31.3×41.0	銅・鍍金	1口		
139	伊藤 顕	1936-1969	種子	1966(昭和41)	168.0×110.0	銅・鍍金	1点	第9回新日展	
140	田中 信行	1959-	原風景	1994(平成6)	厚13.0 177.0×138.0	漆・スライバー・麻布・地の粉・ポリエステル樹脂	1点	アジア競技会芸術展示「アジアの心とたち」	
141	増村 益城	1910-1996	髹飾盛器	1960(昭和35)	高9.6 径44.3	漆・髹漆	1点	第7回日本伝統工芸展・文化財保護委員会委員賞	
142	益田 芳徳	1934-2010	風発A	1989(平成元)	高43.5 幅65.0	ガラス	1点		
143	益田 芳徳		記憶 I	1990(平成2)	高24.0 65.0×43.5	ガラス	1点		
144	益田 芳徳		孤	1978(昭和53)	径(長さ) 20.0×高36.0	ガラス	1点		

## 関連事業

### (1) リレートーク

日 時：①4月22日(金) ②5月20日(金)各日15:00~15:45

講 師：①角田 新(当館主任学芸員)、山下 寿水(当館主任学芸員)

②神内 有理(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：①7人 ②9人

### (2) 対話型鑑賞

日 時：①4月23日(土) 14:00~/対面(2階展示室(ワイヤレスガイド使用))

②5月28日(土) 10:00~/オンライン(Zoom)

ナビゲーター：森 万由子(当館学芸員)

参加者：①7人 ②6人

### (3) インスタライブ配信「ウェルカムギャラリー(洋画・日本画)」

日 時：6月21日(火) 17:00~

講 師：藤崎 綾(当館主任学芸員)、隅川 明宏(当館主任学芸員)

参加者：56人

### (4) 「楽しみ方ナビ」の配布

## 関連報道・記事

### (1) 雑誌等

『くれえばん』4月号



夏の所蔵作品展

サマーミュージアム 広島県立美術館のふしぎな学校

令和4年7月28日(木)～10月23日(日)

前期：7月28日(木)～9月11日(日)

後期：9月13日(火)～10月23日(日)

ウェルカムギャラリー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	五柳先生	1960(昭和35)	高51.8	木・彩色	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	自画像	1899(明治32)頃	67.5×58.0	油彩・画布	1 面		
3	南 薫造	1883-1950	石割り	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布	1 面		
4	巖 光	1907-1946	静物	1942(昭和17)	45.1×37.6	油彩・画布	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	山とよむ	1932(昭和7)	257.0×175.0	絹本彩色	1 面	第13回帝展	
6	奥田 元宋	1912-2003	泉響	1963(昭和38)	259.1×193.9	紙本彩色	1 面	第6回新日展	
7	平山 郁夫	1930-2009	広島生変図	1979(昭和54)	171.0×364.0	紙本彩色	1 面	第64回院展	
8	圓鏝 勝三	1905-2003	月夜の僧	1985(昭和60)	高88.0×97.0×90.0	木・銅板・彩色	1 軀	第17回改組日展	
9	六角 紫水	1867-1950	刀筆春日野軸盆	1930(昭和5)	高21 34.0×15.9	漆	1 枚	第12回帝展	
10	清水 南山	1875-1948	獅子図手板	1943(昭和18)	21.3×30.1	銀・銅・赤銅・彫金	1 枚		
11	今井 政之	1930-2023	「禅鯰」壺	1977(昭和52)	高45.0 胴径39.5	陶器	1 口		

第1室 さんすう・えいご

さんすう

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
12	トルクメン人		背飾り(アシク)	19世紀後半	高5.5 幅5.0	銀	1 枚		
13	東 東洋	1755-1839	十六羅漢図	1785(天明5)	111.6×55.3	絹本墨画	1 幅		
14	パウル・クレイ	1879-1940	お金を数える老人	1929	29.7×23.7	エッチング・紙	1 面		前期
15	エル・リッツキー	1890-1941	ブロン：第1ケストナー版画集	1923	60.5×43.5	リトグラフ・コラージュ・紙	6面のうち 各期1面		前期 後期
16	マックス・エルンスト	1891-1976	流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ	1919	45.5×33.0	リトグラフ・紙・版画集	9面のうち 各期1面		前期 後期
17	ベン・ニコルソン	1894-1982	1933(絵画)	1933	73.3×90.8	油彩・ジュッソ・板	1 面		
18	ルネ・マグリット	1898-1967	人間嫌いたち	1942	54.0×73.0	油彩・画布	1 面		
19	アレクサンダー・コルダ	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高265.4	金属・ワイヤー・パネ・木	1 点		
20	綿谷行四郎	1900-1977	冠鶴	1965(昭和40)	211.5×175.5	紙本彩色	1 面	第50回院展	
21	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1 面	ニューヨーク万国博覧会	
22	野見山暁治	1920-2023	on y va(6)太古の話	1988(昭和63)	82.0×61.0	石版・アルシュ紙	1 面	パリ・グランノレ SAGA'88展	後期
23	山田 光	1924-2001	消えた1	1976(昭和51)	高47.0 25.5×6.0	陶器	1 点		
24	今井 政之	1930-2023	象嵌りんご文耳付花瓶	1956(昭和31)	高35.5 径24.1	陶器	1 口		
25	宮永理吉(三代宮永東山)	1935-	三角錐の中のブルー	1976(昭和51)	高31.0 30.0×30.0	陶	1 点		
26	林 秀行	1937-	ゼロのたわむれ	1975(昭和50)	高16.0×17.0×17.0、 高14.0×17.0×17.0	磁器	1 組		
27	楨原 慶喜	1953-	数字のない時計	1993(平成5)	162.3×227.9	油彩・画布	1 面		

えいご

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
28	アステイド・マイヨール	1861-1944	ウェルギリウスの農耕歌	1937-1944 1950出版	33.7×25.3	木版・紙	144面の うち1面		前期 後期
29	永田 一脩	1903-1988	静物	1925(大正14)	45.5×53.0	油彩・画布・コラージュ	1 面		
30	菅井 汲	1919-1996	S OCTOBRE(S 10月)	1989(昭和64/平成元)	81.2×59.8	リトグラフ・紙	1 面		前期
31	菅井 汲		GROUPE-S(グループ S)	1989(昭和64/平成元)	60.0×81.2	リトグラフ・紙	1 面		前期
32	菅井 汲		S FESTIVAL(S フェスティバル)	1990(平成2)	76.0×56.0	リトグラフ・紙	1 面		後期
33	菅井 汲		S TROIS(S 3)	1990(平成2)	65.0×49.9	リトグラフ・紙	1 面		後期
34	神田三千枝	1924-1992	中国の春	1980(昭和55)	191.5×128.7	画布彩色	1 面	第65回院展	
35	三輪龍氣生(龍作)	1940-	LOVE	1969(昭和44)	高82.0 110.0×77.0	陶	1 点		

第2室 しゃかい たいいく

しゃかい

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
36			伊万里栴右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1 軀		
37			伊万里栴右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1 軀		
38			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢(栴右衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1 口		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
39			安芸厳島神社之図	文化6	33.5×47.0	木版・紙	1面		後期
40			厳島社頭之図	天保7	33.5×47.0	木版・紙	1面		前期
41			厳島弥山細見之図	江戸時代	31.0×44.5	木版・紙	1面		前期
42			芸洲厳島船管弦絵図	江戸時代	29.0×45.0	木版・紙	1面		後期
43	南 薫造	1883-1950	曝書	1946(昭和21)	65.1×80.3	油彩・画布	1面		
44	名井 萬亀	1896-1976	第5福竜丸	1954(昭和29)	55.5×71.0	油彩・画布	1面		
45	ベン・シャーン	1898-1969	強制収容所	1944	61.0×61.0	テンペラ・板	1面		
46	檜山 武夫	1906-1932	陸橋	1931(昭和6)	91.0×91.0	油彩・画布	1面	第18回二科展	
47	松井 正	1906-1993	瓦焼風景	1933(昭和8)	130.3×162.2	油彩・画布	1面	第20回二科展	
48	松井 正		塩田	1936(昭和11)	226.0×167.0	油彩・画布	1面	第23回二科展	
49	井上長三郎	1906-1995	屠殺場	1936(昭和11)	203.0×270.0	油彩・画布	1面	第6回独立展	
50	鶴岡 政男	1907-1979	ライフルマン	1968(昭和43)	193.9×390.9	油彩・画布	1面	個展('68日本画廊)	
51	川原 繁夫	1912-1983	花器「彩河」	1969(昭和44)	41.0×30.0	陶器	1口		
52	浜崎左髪子	1912-1989	スラム街	1974(昭和49)	164.0×129.0	紙本彩色	1面	第16回日本表現派展	後期
53	浜崎左髪子		広島夕景	1966(昭和41)頃	65.3×91.0	紙本彩色	1面		前期
54	三上 巴峽	1913-1985	帰漁	1975(昭和50)	226.0×167.0	紙本彩色	1面	第7回改組日展	
55	小林健一郎	1924-2013	櫻丸盆	1987(昭和62)	径40.0 高4.2	樺・挽物	1枚		
56	和田 貢	1927-	漁夫	1968(昭和43)	162.1×130.3	油彩・画布	1面	第11回新日展	
57	伊藤 顕	1936-1969	種子	1966(昭和41)	168.0×110.0	銅・鍍金	1点		
58	久保田辰男	1940-	家族	1987(昭和62)	130.5×162.3	油彩・画布	1面	第49回一水会 会員佳作賞	

### たいいく

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
59	エル・リッツキー	1890-1941	太陽の征服 スポーツマン	1923	53.2×45.5	リトグラフ・紙	1面		後期
60	永瀬 義郎	1891-1978	バレエ三態	1966(昭和41)	72.0×51.5	合成樹脂版・紙	3面	第9回新日展	前期
61	名井 萬亀	1896-1976	フットボール	1946(昭和21)	72.8×91.0	油彩・画布	1面	第31回二科展	
62	名井 萬亀		あるいっしゅん	1946(昭和21)	72.7×91.0	油彩・画布	1面	第31回二科展	
63	名井 萬亀		チャウヤク(跳躍)	1946(昭和21)	60.4×72.6	油彩・画布	1面	第31回二科展	
64	今城 国忠	1996-2000	道化師	1972(昭和47)	高103.0×117.0×90.0	木	1体	第4回改組日展	
65	平山 郁夫	1930-2009	群像	1957(昭和32)	202.0×158.0	紙本彩色	1面	第42回院展	
66	峯田 敏郎	1939-	人間のためのモニュメント	1969(昭和44)	230.0×80.0×57.0	木	1体	第43回国展会友優作賞	

### 第3室おんがく・りか

#### おんがく

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
67	南 薫造	1883-1950	ピアノ	1921(大正10)	103.0×83.1	油彩・画布	1面	平和記念東京博覧会	
68	細田 政義	1908-1999	ピアノを弾く少女	1955(昭和30)	21.5×16.5	銅版・紙	1面		前期
69	細田 政義		ピアノ	1955(昭和30)	28.5×19.0	銅版・紙	1面		後期
70	田中 万吉	1895-1945	ギターを持てる女	1924-1927 (大正13-昭和2)頃	71.4×77.1	油彩・画布	1面		
71	池田 快造	1911-1944	セロをならす	1939(昭和14)	118.0×92.0	油彩・画布	1面	第3回新文展	
72	和高 節二	1898-1990	笛を吹く村の少年		116.0×106.0	紙本彩色	1面		
73	熊倉 順吉	1920-1985	曲面のレコード・ラック	1981(昭和56)	高39.0 27.5×11.0	陶器	1点		
74	圓鐔 勝三	1905-2003	タクト	1963(昭和38)	高165.0×39.0×98.0	テラゾー	1点	第11回日彫展	
75	芥川 永	1915-1998	カンタトリス(遠くの声3)	1984(昭和59)	高71.0×30.9×30.9	ブロンズ	1点	第48回新制作協会展	

#### りか

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
76	三代金城一國齋	1829-1915	蜂に仏手柑高盛絵印籠付根付		(印籠)高6.3×5.3 (根付)径3.5	木・漆・堆彩漆・高盛絵	1組		後期
77	三代金城一國齋		白蓮花に蝶高盛絵角盆	1905(明治38)	35.5×35.5	木・漆・堆彩漆・高盛絵	1枚		前期
78	麩 光	1907-1946	花園の虫	1942(昭和17)頃	26.7×34.8	油彩・板	1面		
79	猪原 大華	1897-1980	虫	1927(昭和2)	26.2×61.2	彩色・紙	1面		前期
80	麩 光	1907-1946	かぶと虫	1941(昭和16)	18.0×71.0	紙本墨画	1面		後期
81	金光 松美	1922-1992	Falling Insect(落虫)	1969(昭和44)	35.0×28.0	彩色・紙	1面		前期
82	高橋 秀	1930-	黒い蝶	1976(昭和51)	76.0×56.0	リトグラフ・シルクスクリーン・紙	1面		後期
83	レス・レーヴィン	1935-	水滴		13.0×23.0	合成樹脂	1点		
84	児玉 希望	1898-1971	烟雨	1954(昭和29)	132.0×173.0	絹本彩色	1面	第10回日展	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
85	田村 一男	1904-1997	北越大雪	1974(昭和49)	145.5×89.4	油彩・画布	1面	個展('74)	
86	戸塚孝三郎	1907-1965	水鳥(水ぬるむ)	1961(昭和36)	145.5×112.1	油彩・画布	1面	第51回光風会展	
87	柳原 陸夫	1934-	空の力学	1976(昭和51)	高30.4 38.0×36.0	陶器	1点		
88	吉田 博	1876-1950	瀬戸内海集「帆船 朝」	1926(大正15)	50.0×35.9	木版・紙	1面		前期
89	吉田 博		瀬戸内海集「帆船 午前」	1926(大正15)	50.8×36.1	木版・紙	1面		前期
90	吉田 博		瀬戸内海集「帆船 午後」	1926(大正15)	50.9×36.1	木版・紙	1面		前期
91	吉田 博		瀬戸内海集「帆船 霧」	1926(大正15)	50.9×36.0	木版・紙	1面		後期
92	吉田 博		瀬戸内海集「帆船 夕」	1926(大正15)	50.5×36.0	木版・紙	1面		後期
93	吉田 博		瀬戸内海集「帆船 夜」	1926(大正15)	50.8×36.1	木版・紙	1面		後期
94	ジャン(ハンス)・アルプ	1886-1966	目覚め	1938/1983鑄造	高47.5×24.0×23.0	ブロンズ	1点	現代彫刻センター個展	
95	南 薫造	1883-1950	黄色い花	1909(明治42)	60.0×45.0	油彩・画布	1面		
96	楠部 彌弼	1897-1984	緑釉向日葵花瓶	1955(昭和30)	高34.0 胴径39.2 口径18.5	陶器	1口	第7回京展	
97	マックス・エルンスト	1891-1976	博物誌「魅惑的な糸杉」	1926	43.0×26.0(版面) 49.4×33.5	コロタイプ・紙	1面		前期
98	マックス・エルンスト		博物誌「14才以下の稲妻」	1926	43.0×26.0(版面) 49.4×33.5	コロタイプ・紙	1面		後期
99	マックス・エルンスト		博物誌「夫婦のダイヤモンド」	1926	43.0×26.0(版面) 49.4×33.5	コロタイプ・紙	1面		前期
100	マックス・エルンスト		博物誌「脱走者」	1926	43.0×26.0(版面) 49.4×33.5	コロタイプ・紙	1面		後期

第4室 かていか・こくご  
かていか

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
101	ウズベク人		刺繍袋	20世紀初頭	16.2×12.6	刺繍	1枚		裏返し
102	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	19世紀	13.2×12.6	刺繍	1枚		裏返し
103	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	19世紀	14.6×10.0	刺繍	1枚		裏返し
104	エルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	20世紀初頭	18.7×13.9	刺繍	1枚		裏返し
105	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	18.3×18.5	刺繍	1枚		裏返し
106	ウズベク人、シャアリサブス		刺繍袋	1900頃	20.8×29.8	刺繍	1枚		裏返し
107	ウズベク人		刺繍袋	19世紀中期	14.2×10.6	刺繍	1枚		裏返し
108	ハザーラ人		刺繍袋	19世紀中期	18.5×20.5	刺繍	1枚		裏返し
109	ウズベク人またはトルクメン人		刺繍袋	19世紀中期	16.4×11.1	刺繍	1枚		裏返し
110	ウズベク人、ブハラ		刺繍袋	19世紀	21.8×25.0	絹刺繍・縁取りに革・裏に絹布	1枚		裏返し
111	ウズベク人、タシュケルガン		刺繍袋	20世紀前期	23.1×15.3	刺繍	1枚		裏返し
112	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀前期	23.8×13.6	刺繍	1枚		裏返し
113	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	19.8×14.0	刺繍	1枚		裏返し
114	テケ族またはエルサリ族トルクメン人		刺繍袋	19世紀初頭	19.3×16.3	刺繍	1枚		裏返し
115	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	19世紀中期	21.0×18.0	刺繍	1枚		裏返し
116	ウズベク人		刺繍袋	19世紀中期	17.8×14.5	刺繍	1枚		裏返し
117	ウズベク人、タシュケルガン		刺繍袋	20世紀初頭	18.2×16.0	刺繍	1枚		裏返し
118	ウズベク人		刺繍袋	20世紀前期	18.3×14.3	刺繍	1枚		裏返し
119	インダス・コヒスタン		刺繍鞆	20世紀前期	14.3×12.6	刺繍	1枚		裏返し
120	ウズベク人、北東ウズベク		刺繍袋	19世紀	20.4×14.6	刺繍	1枚		裏返し
121	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	17.1×12.5	刺繍	1枚		裏返し
122	エルサリ族 トルクメン人		刺繍袋	19世紀	14.1×9.6	木綿布・絹刺繍	1枚		裏返し
123	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	21.0×14.5	刺繍	1枚		裏返し
124	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	20世紀初頭	17.1×13.9	刺繍	1枚		裏返し
125	ウズベク人		刺繍袋	20世紀初頭	24.3×12.8	刺繍	1枚		裏返し
126	ウズベク人、ラカイ		刺繍袋	19世紀中頃	18.0×14.8	刺繍	1枚		裏返し
127	北大路魯山人	1883-1959	織部魚鱗文組板角鉢	1950(昭和25)	高4.9 20.0×43.5	陶器	1枚		
128	吉田源十郎	1896-1958	阿ざみ紋漆皮果物鉢		高9.1 長径38.5	革・漆	1口		後期
129	和高 節二	1898-1990	とんど餅	1936(昭和11)頃	33.3×42.1	紙本彩色	1面		後期
130	和高 節二		ぶどう	1935(昭和10)	33.7×45.5	紙本彩色	1面		前期
131	和高 節二		焼き魚	1940(昭和15)頃	33.3×41.1	紙本彩色	1面		前期
132	和高 節二		柿		36.2×45.6	紙本彩色	1幅		後期
133	志村ふくみ	1924-	紬織着物 水かけ	1984(昭和59)	衿66.4 丈169.6	絹・紬	1領		後期
134	志村ふくみ		紬織着物 枝垂桃	1985(昭和60)	衿67.0 丈158.0	絹・紬	1領		前期
135	志村ふくみ		紬織着物 巖島	1985(昭和60)		絹・紬	1領		後期
136	志村ふくみ		紬織着物 おだまき	1985(昭和60)	衿67.0 丈166.0	絹・紬	1領		前期

No.	作者・民族名・地域	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
137	平山 郁夫	1930-2009	ひととき	1956(昭和31)	106.0×76.0	紙本彩色	1面	第11回春の院展	
138	船木 倭帆	1935-2013	垂描文鉢		高19.4 径25.3	吹きガラス	1口		前期
139	船木 倭帆		花文鉢		高8.9 径26.5	吹きガラス	1口		
140	船木 倭帆		巴皿		高14~22 径20.0~20.7	吹きガラス	3枚		
141	森口 邦彦	1941-	友禅着物「溪流」	1973(昭和48)	衿64.3 丈157.5	絹・友禅染	1領	第20回日本伝統工芸展 朝日新聞社賞	前期
142	森口 邦彦		友禅着物「菫園」	1981(昭和56)	衿61.8 丈170.5	絹・友禅染	1領		後期
143	森口 邦彦		友禅着物「新雪」	1986(昭和61)	衿61.3 丈172.0	絹・友禅染	1領		後期
144	森口 邦彦		友禅訪問着「光波」	1989(平成元)	衿64.2 丈173.0	絹・友禅染	1領		前期
145	木村 芳郎	1946-	碧釉組鉢	1984(昭和59)	(大)高10.2 径30.5 (小)高6.5 径18.3	半磁器	1組	第31回日本伝統工芸展 奨励賞	

## こくご

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
146	上村 松園	1875-1949	観書	1940(昭和15)頃	48.0×58.0	絹本彩色	1幅		
147	河井寛次郎	1890-1966	辰砂文字陶板		32.6×23.1	陶器	1面		
148	河井寛次郎		飛躍成就花陶板		32.4×23.1	陶器	1面		
149	恩地孝四郎	1891-1955	「氷島」の著者・萩原朔太郎像	1943(昭和18)	69.6×36.4	木版・紙	1面		
150	芹沢 銈介	1895-1984	組紐文のれん	1940(昭和15)	135.0×88.5	紬・型染	1枚		
151	芹沢 銈介		風の字のれん	1957(昭和32)	101.0×72.0	木綿・型染	1枚		
152	芹沢 銈介		この山みち文のれん	1959(昭和34)		木綿・型染	1枚		
153	国盛 義篤	1897-1951	奈良の小川	1949(昭和24)	65.0×53.0	油彩・画布	1面		
154	バーバラ・ヘップワース	1903-1975	ネステイング・ストーンズ	1937	高19×30.5×22.8	大理石	1点		
155	サルバドール・ダリ	1904-1989	マルドロールの歌	1934	32.5×25.0	エッチング・紙・挿画本	1冊		頁替え
156	サルバドール・ダリ		マルドロールの歌	1934	32.5×25.0	エッチング・紙	30面のうち16面		前期 後期
157	八木 一夫	1918-1979	明瞭かつ不確実に	1977(昭和52)	高38.5 38.0×5.0	黒陶・鉛板	1点		
158	八木 一夫		発芽の様相	1977(昭和52)	高40.2 24.1×17.0	黒陶・漆	1点		
159	八木 一夫		ブルーブック	1972(昭和47)	高22.0 38.5×22.0	黒陶	1点		
160	八木 一夫		いつも離陸の角度で	1977(昭和52)	高27.0 27.5×30.5、 高33.5 30.0×27.3	黒陶・鉛板	1組		

## 関連事業

### (1) リレートーク

日 時：8月5日(金) 15:00~15:45

講 師：角田 新(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)、  
森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：7人

### (2) 対話型鑑賞

日 時：①9月10日(土) 14:00~/対面(2階展示室(ワイヤレスガイド使用))

②10月8日(土) 10:00~/オンライン(Zoom) 中止

ナビゲーター：森 万由子(当館学芸員)

参加者：①5人

### (3) インスタライブ配信「日本洋画」

日 時：8月23日(火) 17:00~

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

参加者：57人

### (4) ワークショップ

#### ①図工科ワークショップ「額縁を作ろう」

日 時：8月14日(日)、19日(金)各日 14:00~16:00

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

場 所：地階講堂



②家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」

日 時：10月1日(土)、2日(日)各日10：00～12：00、13：30～15：30(計4回)

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館学芸員)

場 所：2階第4展示室横

参加者：①計11人 ②計20人

(5) 子ども向けワークシートの配布



関連報道・記事

(1) 雑誌等

『くれえぱん』6月号、『ふれあい』60号

秋の所蔵作品展<sup>プラス</sup>

広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画

ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展

令和4年10月29日(土)～令和5年1月22日(日)

ウェルカムギャラリー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
1	平薮 田中	1872-1979	西山逍遙	1964(昭和39)	高62.5	木・彩色	
2	小林 千古	1870-1911	やし(静物)	1893(明治26)	34.0×44.0	油彩・画布	
3	南 薫造	1883-1950	石割り	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布	
4	巖 光	1907-1946	花	1941(昭和16)頃	23.6×32.8	油彩・画布	
5	児玉 希望	1898-1971	黎明	1934(昭和9)	191.0×178.0	絹本彩色	
6	奥田 元宋	1912-2003	寂	1984(昭和59)	175.5×211.0	紙本彩色	
7	平山 郁夫	1930-2009	波斯黄堂旧址	1974(昭和49)	166.7×367.4	紙本彩色	
8	圓鑄 勝三	1905-2003	途上	1941(昭和16) / 1994(平成6) 鑄造	高169.0×82.0×51.5	ブロンズ	
9	清水 南山	1875-1948	獅子図手板	1943(昭和18)	21.3×30.1	銀・銅・赤銅・彫金	
10	今井 政之	1930-2023	「禅鯨」壺	1977(昭和52)	高45.0 胴径39.5	陶器	

第1の? 近代美術と現代美術はどう違うの?

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
11	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴィーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	
12	森村 泰昌	1951-	肖像(双子)	1988-1990 (昭和63-平成2)	240.0×343.0	カラー写真プリント・透明メディウム	広島市現代美術館蔵
13	福田 繁雄	1932-2009	ミロのヴィナス・ポートレート・シリーズ ゴッホのヴィナス	1984(昭和59)	60.0×29.0×31.5	彩色・FRP・硬化プラスチック	広島市現代美術館蔵
14	福田 繁雄		ミロのヴィナス・ポートレート・シリーズ ポッティチエリリのヴィナス	1984(昭和59)	60.0×29.0×31.5	彩色・FRP・硬化プラスチック	広島市現代美術館蔵
15	マン・レイ	1890-1976	ローズ・セラヴィ(マルセル・デュシャン)	1921	32.4×24.6	ゼラチン・シルバー・プリント	
16	マン・レイ		チェスをするマルセル・デュシャンとラウル・ド・ルシー	1924	22.3×23.5	ゼラチン・シルバー・プリント	
17	マン・レイ		剃髪	1921	30.2×24.1	ゼラチン・シルバー・プリント	
18	マン・レイ		埃の培養	1920	21.1×37.5	ゼラチン・シルバー・プリント	
19	ウーゴ・ムラス	1928-1973	マルセル・デュシャン 1	1965	36.8×25.4	ゼラチン・シルバー・プリント	広島市現代美術館蔵
20	ウーゴ・ムラス		マルセル・デュシャン 7	1965	36.8×24.8	ゼラチン・シルバー・プリント	広島市現代美術館蔵
21	森村 泰昌	1951-	なにかへのレクイエム(創造の劇場/マルセル・デュシャンとしての私[ジュリアン・ワッサー氏撮影のイメージに基づき])	2007(平成19)	150.0×187.5	発色現像方式印画	広島市現代美術館蔵
22	フランシス・ピカビア	1879-1953	アンピトリテ	1935頃	92.0×73.5	油彩・画布	
23	松江 泰治	1963-	JP-34 02	2015(平成27)	50.6×61.0	発色現像方式印画	広島市現代美術館蔵
24	松江 泰治		JP-34 06	2015(平成27)	50.6×61.0	発色現像方式印画	広島市現代美術館蔵
25	アレクサンダー・コルダ	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	265.4	金属・ワイヤー・パネ、木	
26	アレクサンダー・コルダ		遭遇	1965	137.0×391.0×140.0	彩色・金属板	広島市現代美術館蔵
27	アレクサンダー・カノルト	1881-1939	静物	1925	80.0×101.0	油彩・画布	
28	高橋 秀	1930-	静物	1957(昭和32)	116.8×72.9	油彩・画布	広島市現代美術館蔵
29	巖 嘸	1931-	レインボー・ディナーセット	1966-1968 (昭和41-43)	104.0×150.0×85.0	ミクストメディア	広島市現代美術館蔵
30	巖 嘸		8:15AM	1988(昭和63)	(左) 169.0×141.4×19.0 (右) 167.5×136.0×15.0	ミクストメディア・画布	広島市現代美術館蔵

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
31	イサム・ノグチ	1904-1988	追想	1944/1983-84	125.7×62.2×22.8	ブロンズ	
32	森村 泰昌	1951-	なにかへのレクイエム(宙の夢/アルベルト2)	2007(平成19)	120.0×96.0	ゼラチン・シルバー・プリント	広島市現代美術館蔵
33	イヴ・クライン	1928-1962	人体測定170	1960	167.0×123.4	顔料・画布に裏打ちされた紙	広島市現代美術館蔵
34	横尾 忠則	1936-	芸術と平和	2006(平成18)	182.0×227.0	油彩・画布	広島市現代美術館蔵

### 第2の? 具象・抽象って何?

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
35	ジョージ・シーガル	1924-2000	白い籐椅子の女	1982	114.3×94.0×132.0	石膏・籐	広島市現代美術館蔵
36	舘 光	1907-1946	コミサ(洋傘による少女)	1929(昭和4)	80.0×65.0	油彩・画布	
37	井上 完	1882-1928	母と娘	1920(大正9)	130.0×97.0	油彩・画布	
38	塚本 張夫	1907-1990	ロシアの少女(マガ嬢)	1936(昭和11)	130.3×193.9	油彩・画布	
39	岡田 謙三	1902-1982	北市場	1942(昭和17)	104.2×87.0	油彩・画布	
40	東郷 青児	1897-1978	テラス	1935(昭和10)	100.0×72.7	油彩・画布	
41	黒田重太郎	1887-1970	風景	1921-23 (大正10-12)頃	37.9×45.5	油彩・画布	
42	芥川 永	1915-1998	もどれない風(太田川2)(石膏原型)	1974(昭和49)	36.0×42.0×10.4	石膏	
43	芥川 永		もどれない風(太田川2)	1974(昭和49)	34.0×42.0×11.0	ブロンズ	
44	ウレム・デ・クーニング	1904-1997	風景の中の女 VI	1968	61.0×48.0	油彩・画布に裏打ちされた紙	広島市現代美術館蔵
45	名井 萬亀	1896-1976	爆発	1950(昭和25)	53.5×41.4	油彩・画布	
46	名井 萬亀		ビキニの灰	1954(昭和29)	60.9×40.9	油彩・画布	
47	香月 泰男	1911-1974	青年	1954(昭和29)	73.2×145.5	油彩・画布	広島市現代美術館蔵
48	入野 忠芳	1939-2013	浮遊	1970(昭和45)	117.0×90.9	油彩・画布	
49	鶴岡 政男	1907-1979	帰りみち	1976(昭和51)	80.3×100.0	油彩・画布	
50	岡部 繁夫	1912-1969	静物(B)	1956(昭和31)	91.0×65.0	油彩・画布	広島市現代美術館蔵
51	川口 軌外	1892-1966	群像	1956(昭和31)	116.0×79.5	油彩・画布	
52	舘 嘔	1931-	レインボー・マン・アンド・ウーマン ピース・サイン	2008(平成20)	162.2×130.3	アクリル・画布	広島市現代美術館蔵
53	菅井 汲	1919-1996	TAMBOUR(鼓手)	1993(平成5)	200.0×200.0	アクリル・画布	
54	飯田 善國	1923-2006	Hito	1967(昭和42)	75.1×34.3×32.0	真鍮	広島市現代美術館蔵
55	飯田 善國		Hito	1967(昭和42)	84.3×31.4×14.7	木	広島市現代美術館蔵
56	峯田 敏郎	1939-	記念撮影-遠い日の風音・私の母と	2011(平成23)	200.0×145.0×115.0	木(樟・紅松)・真鍮・彩色	
57	アレックス・カツ	1927-	12月	1979	335.8×274.8	油彩・画布	広島市現代美術館蔵

### 第3の? 理想を描く? 現実を描く?

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
58	名草 逸峰	1821-1889	高士観瀑図	1884(明治17)	186.0×86.0	絹本彩色	
59	川端 玉章	1842-1913	山水人物図	1908(明治41)	167.0×104.0	紙本墨画淡彩	
60	会田 誠	1965-	人(hito : human being) PROJECT	2002(平成14)	(右) 197.0×89.0 (中央) 197.0×259.0 (左) 197.0×89.0	アクリル・画布・インクジェットプリント・紙	広島市現代美術館蔵
61	リチャード・ロンゲ	1945-	試金石 嵐を避ける アイスランドで5日間歩く 1982年夏 (4点組)	1982	各85.5×121.5	写真・テキスト	広島市現代美術館蔵
62	田中 頼璋	1868-1940	高士訪友図	1914(大正3)頃	241.0×142.0	絹本彩色	
63	日高理恵子	1958-	空との距離 I	2002(平成14)	240.0×240.0	岩絵の具・紙(麻紙)	広島市現代美術館蔵
64	船田 玉樹	1912-1991	日輪	1940(昭和15)	各181.0×181.0	紙本彩色	
65	須田 悦弘	1969-	チューリップ	2006(平成18)	45.5×15.5×20.0	彩色・木	広島市現代美術館蔵
66	野見山暁治	1920-2023	太田川	1988(昭和63)	162.5×194.6	油彩・画布	広島市現代美術館蔵
67	宮川 啓五	1927-	太田川	2000(平成12)	92.4×733.4	紙本彩色	
68	山本 正道	1941-	時を贖めて	1997(平成9)	24.0×381.0×51.5	ブロンズ・木に着色	広島市現代美術館蔵
69	丸木 位里	1901-1995	竹林	1964(昭和39)	各210.0×270.0	紙本墨画	
70	大岩オスカー	1965-	フラワー・ガーデン	2004(平成16)	(左右) 227.0×222.0cm (中央) 227.0×111.0	油彩・画布	広島市現代美術館蔵(中央:個人蔵、広島市現代美術館寄託)

### 第4の? 美と術って何?

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
71			備前曲物花入	桃山時代	高27.2	陶器	
72	藤原 啓	1899-1983	備前花入	1977(昭和52)	高23.6 径10.5	陶器	
73	金重 陶陽	1896-1967	備前耳付水指		高21.8 径21.9	陶器	
74	山本 陶秀	1906-1994	備前耳付花入	1978(昭和53)	高26.4 径12.5	陶器	
75	藤原 雄	1932-2001	備前播座大壺	1987(昭和62)	径37.0	陶器	
76	藤原 雄		備前播座大壺	1991(平成3)	高33.7 径37.1	陶器	
77	殿敷 侃	1942-1992	ジュピター 1	1985(昭和60)頃	118.0×95.0×67.0	焼き固めたプラスチック類	広島市現代美術館蔵
78	殿敷 侃		(不詳)		62.0×54.5	シルクスクリーン・紙	広島市現代美術館蔵

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	出品歴・備考
79	殿敷 侃		(不詳)		62.0×54.5	シルクスクリーン・紙	広島市現代美術館蔵
80	殿敷 侃		(不詳)		62.0×54.5	シルクスクリーン・紙	広島市現代美術館蔵
81	殿敷 侃		(不詳)		62.0×54.5	シルクスクリーン・紙	広島市現代美術館蔵
82	殿敷 侃		(不詳)		62.0×54.5	シルクスクリーン・紙	広島市現代美術館蔵
83	八木 一夫	1918-1979	右の目と左の目の情報	1968(昭和43)	高21.3 23.5×15.0	黒陶	
84	八木 一夫		表裏なし	1978(昭和53)	高35.5 25.5×6.6	黒陶・鉛板	
85	十五代樂吉左衛門	1949-	茶碗	1992(平成4)	高11.0 径13.1	陶器	
86	梶山 明細		蒔絵やつで香筥	江戸時代末期～明治時代	高11.1 12.2×15.9	漆・蒔絵	
87	川之辺一朝	1831-1910	金梨地瀧山水蒔絵料紙文庫	1902(明治35)	高15.4 44.9×33.1	木・漆・蒔絵	
88	迎田 秋悦	1881-1933	平野の松歌蒔絵料紙文庫	1921(大正10)	高14.3 41.2×34.5	木・漆・蒔絵・平文	
89	赤瀬川原平	1937-2014	大日本零円札	1967(昭和42)	14.4×30.8	印刷物	広島市現代美術館蔵
90	佐藤正明・聖美	1941-	N.S. No.66-3D	1998(平成10)	18.5×17.5	ミクストメディア	広島市現代美術館蔵
91	赤塚 自得	1871-1936	金地蝶牡丹唐草蒔絵文庫		高17.0 29.0×23.0	木・漆・蒔絵・螺鈿	
92	赤塚 自得		金梨地唐草牡丹蒔絵香盆		径45.0	木・漆・蒔絵	
93	草間 彌生	1929-	ドット・オブセッション、水玉で幸福いっぱい	2009(平成21)	14.5×14.0×14.5	携帯電話・ケース・レンズ・鏡	広島市現代美術館蔵
94	草間 彌生		宇宙に行くときのハンドバック	2009(平成21)	5.5×10.8×2.0	携帯電話・ストラップ	広島市現代美術館蔵
95			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿右衛門様式)	17世紀後半	高11.5 径24.4	磁器・色絵	
96			伊万里柿右衛門様式色絵馬	17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	
97			伊万里柿右衛門様式色絵馬	17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	
98	草間 彌生	1929-	私の犬のリンリン	2009(平成21)	20.0×27.0×8.0	携帯電話台座	広島市現代美術館蔵
99	三輪龍氣生	1940-	続・卑弥呼の書 No.5	1992(平成4)	高96.0 210.0×69.0	陶	
100	横尾 忠則	1936-	天の岩戸	1985(昭和60)	259.0×388.0	油彩・鏡・画布	広島市現代美術館蔵
101	熊倉 順吉	1920-1985	曲面のレコード・ラック	1981(昭和56)	高39.0 27.5×11.0	陶	
102	三木 富雄	1937-1978	耳	1965(昭和40)	44.5×25.0×9.5	アルミニウム	広島市現代美術館蔵

## 冬の所蔵作品展

## 生誕・結成記念特集／新収蔵作品展

令和5年2月14日(火)～4月23日(日)

前期：2月14日(火)～3月19日(日)

後期：3月21日(火)～4月23日(日)

### ウェルカムギャラリー

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
1	平櫛 田中	1872-1979	西山逍遙	1964(昭和39)	高62.5	木・彩色	1 軀		
2	小林 千古	1870-1911	やし(静物)	1893(明治26)	34.0×44.0	油彩・画布	1 面		
3	南 薫造	1883-1950	石割り	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布	1 面		
4	巖 光	1907-1946	花	1941(昭和16)頃	23.6×32.8	油彩・板	1 面		
5	児玉 希望	1898-1971	七面鳥	1956(昭和31)	199.0×152.0	紙本金泥墨画	1 面	第12回日展	
6	奥田 元宋	1912-2003	(秋)(漢字は火偏に禾)	1961(昭和36)	130.0×190.0	紙本彩色	1 面	第4回新日展	
7	平山 郁夫	1930-2009	黄河(晨)	1986(昭和61)	171.2×364.6	紙本彩色	1 面	第71回院展	
8	圓鏝 勝三	1905-2003	途上	1941(昭和16)／ 鑄造1994(平成6)	高169×82×51.5	ブロンズ	1 軀		
9	清水 南山	1875-1948	猫金具付 小児用手提	1939(昭和14)	径15.5 全長24.0 (猫)タテ4.7 ヨコ7.8	銀・彫金・布	1 点	第3回新文展	
10	今井 政之	1930-2023	「條」苔泥彩壺	1968(昭和43)	高36.0 径26.5	陶器	1 口		

### 第1室 『青騎士』刊行110年 カンディンスキーとドイツの芸術家たち

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
11	アレクセイ・ヤヴレンスキー	1865-1941	頭部	c.1922	17.7×12.4	リトグラフ・紙	1 面		
12	ワシリー・カンディンスキー	1866-1944	コンポジション	1924	27.9×24.4	リトグラフ・紙	1 面		
13	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅰ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1 面		
14	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅱ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1 面		
15	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅲ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1 面		
16	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅳ	1922	35.6×28.0	リトグラフ・紙	1 面		
17	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅴ	1922	35.6×28.0	リトグラフ(木版からなる)・紙	1 面		
18	ワシリー・カンディンスキー		小さな世界Ⅵ	1922	35.6×28.0	木版・紙	1 面		

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
19	ワシリー・カンデンスキー		小さな世界Ⅶ	1922	35.6×28.0	リトグラフ(木版からなる)・紙	1面		
20	ワシリー・カンデンスキー		小さな世界Ⅹ	1922	35.6×28.0	ドライポイント・紙	1面		
21	ワシリー・カンデンスキー		小さな世界Ⅺ	1922	35.6×28.0	ドライポイント・紙	1面		
22	ワシリー・カンデンスキー		小さな世界Ⅻ	1922	35.6×28.0	ドライポイント・紙	1面		
23	ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	海辺の別荘	1921	32.7×38.2	木版・紙	1面		
24	ライオネル・ファイニンガー		散歩をする人	1921	48.3×34.7	木版・紙	1面		
25	ライオネル・ファイニンガー		海辺の夕暮	1927	45.0×77.0	油彩・画布	1面		
26	カジミール・マレーヴィチ	1878-1935	アロギズム(1つの正方形、2つの長方形、2つの円、2つの円錐)	1914-15	16.5×11.2	鉛筆・紙	1面		後期
27	カジミール・マレーヴィチ		シュプレマティスムの素描(二つの正方形)	1916-17	16.2×11.0	鉛筆・紙	1面		前期
28	カジミール・マレーヴィチ		シュプレマティスムの素描(空からの展望)	1928	17.0×19.6	鉛筆・紙	1面		前期
29	カジミール・マレーヴィチ		2点の素描-人物と教会堂	1929	17.0×18.5	鉛筆・紙	1面		後期
30	パウル・クレー	1879-1940	内なる光に照らされた聖人	1921	39.0×26.8	リトグラフ・紙	1面		
31	パウル・クレー		ホフマンの舞台	1921	35.5×26.0	リトグラフ・紙	1面		
32	パウル・クレー		ある音楽家のための楽譜	1924	25.7×31.1	インク・水彩・紙	1面		
33	パウル・クレー		何で走っているのだろうか	1932	23.8×29.9	エッチング・紙	1面		
34	エーリッヒ・ヘッケル	1883-1970	木彫りのある静物	1913	70.5×60.7	油彩・画布	1面		
35	マン・レイ	1890-1976	アーノルト・シェーンベルク	1926	29.1×22.3	ゼラチン・シルバー・プリント	1面		
36	アレクサンダー・コルダ	1898-1976	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936	高265.4	金属・ワイヤー・パネ、木	1点		
37	サルバドール・ダリ	1904-1989	ヴェーナスの夢	1939	243.8×487.6	油彩・画布・パネル	1面	ニューヨーク万国博覧会	

## 第2室 巖光と新人画会の作家たち一戦時下の創作と交友

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
38	井上長三郎	1906-1995	屠殺場	1936(昭和11)	203.0×270.0	油彩・画布	1面	第6回独立展	
39	巖光	1907-1946	コミサ(洋傘による少女)	1929(昭和4)	80.0×65.0	油彩・画布	1面	第7回槐樹社展	
40	巖光		屋根の見える風景	1929(昭和4)	50.6×63.8	油彩・画布	1面		
41	巖光		ばら	1930(昭和5)頃	14.2×21.0	油彩・画布	1面		
42	巖光		畠山雅介氏の像	1941(昭和16)	106.0×78.0	紙・淡彩	1面		前期
43	巖光		末広一一氏の像	1941(昭和16)	103.5×56.0	紙・淡彩	1面		後期
44	巖光		あけび	1941(昭和16)頃	80.0×56.0	紙・淡彩	1面		前期
45	巖光		百合	1941(昭和16)頃	81.8×79.0	紙・淡彩	1面		後期
46	巖光		静物	1942(昭和17)	45.1×37.6	油彩・画布	1面		
47	巖光		花園の虫	1942(昭和17)頃	26.7×34.8	油彩・板	1面		
48	巖光		海	1943(昭和18)	72.3×90.7	油彩・画布	1面	第1回新人画会展	
49	巖光		帽子をかむる自画像	1943(昭和18)	60.0×50.0	油彩・画布	1面		
50	巖光		窓辺の花(百合)	1944(昭和19)	71.0×59.0	油彩・画布	1面		
51	巖光		風景	1944(昭和19)	41.0×52.5	油彩・画布	1面		
52	鶴岡 政男	1907-1979	海のあやかし	1958(昭和33)	130.3×194.0	油彩・画布	1面	第3回現代日本美術展	
53	大野 五郎	1910-2006	俊介の像	1946(昭和21)	72.7×60.6	油彩・画布	1面		
54	大野 五郎		あかさびた風景	1953(昭和28)	61.5×116.5	油彩・画布	1面	第2回日本国際美術展	
55	寺田 政明	1912-1989	月光によりて	1943(昭和18)	31.8×40.9	油彩・板	1面	新人画会展	
56	寺田 政明		さかな(悲哀)	1943(昭和18)	53.1×33.9	油彩・板	1面	第3回新人画会展	
57	寺田 政明		けいとう花	1954(昭和29)	80.4×52.8	油彩・画布	1面	第18回自由美術展	
58	松本 竣介	1912-1948	ニコライ堂	1941(昭和16)	32.0×41.0	油彩・板	1面		
59	松本 竣介		車庫近く	1942(昭和17)	33.4×45.5	油彩・画布	1面		
60	麻生 三郎	1913-2000	女	1943(昭和18)	53.4×45.2	油彩・画布	1面		
61	菅井 汲	1919-1996	DIABLE PARTANT POUR LA LUNE(月へ旅立つ鬼)	1963(昭和38)	162.0×130.2	アクリル・油彩・画布	1面		
62	菅井 汲		NATIONAL ROUTE(ナショナル・ルート)	1964(昭和39)	195.0×130.0	アクリル・油彩・画布	1面		
63	菅井 汲		マッス・グレー(MASSE GRIS)	1964(昭和39)	194.9×155.4	油彩・画布	1面		
64	菅井 汲		黒	1964(昭和39)	17.0×17.8×高34.0	ブロンズ	1面		

## 第3室 生誕110年 奥田元宋一心象の山水

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
65	児玉 希望	1898-1971	山とよむ	1932(昭和7)	257.0×175.0	絹本彩色	1面	第13回帝展	
66	児玉 希望		瀾	1964(昭和39)	156.0×135.5	絹本彩色	1面	第7回新日展	
67	児玉 希望		ひるさがり	1942(昭和17)	75.0×85.0	絹本彩色	1面	第6回児玉画塾展	
68	児玉 希望		春のバンガロー	1954(昭和29)	65.0×87.0	絹本彩色	1面	第5回日月社展	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
69	児玉 希望		山	1960(昭和35)	97.0×134.5	絹本彩色	1面	第3回新日展	
70	奥田 元宋	1912-2003	柳鷺	1940(昭和15)	175.7×175.7	絹本彩色	1面	第4回児玉希望画塾展	
71	奥田 元宋		夕映	1947(昭和22)	153.0×169.0	絹本彩色	1隻	第3回日展	
72	奥田 元宋		室戸	1952(昭和27)	100.0×181.5	紙本彩色	1面	第8回日展	
73	奥田 元宋		筒石	1957(昭和32)	123.0×47.0	麻布彩色	1面	第10回日本美術協会展	
74	奥田 元宋		嶽	1959(昭和34)	110.0×210.0	紙本彩色	1面	第2回新日展	
75	奥田 元宋		房州懐かしの太海風景		29.6×76.6	紙・水彩	1面		前期
76	奥田 元宋		妙高新緑		23.0×34.5	紙・水彩	1面		前期
77	奥田 元宋		湯河原安井邸見ゆ		24.0×34.4	紙・水彩	1面		前期
78	奥田 元宋		立久恵峡の秋		53.0×37.0	紙・水彩	1面		後期
79	奥田 元宋		妙義湖		37.0×53.0	紙・水彩	1面		後期
80	奥田 元宋		嵐山の春		37.0×52.7	紙・水彩	1面		後期
81	奥田 元宋		草津の冬	1992(平成4)	37.0×52.9	紙・水彩	1面		後期
82	奥田 元宋		秋巒真如	1977(昭和52)	156.5×197.5	紙本彩色	1面	第9回改組日展	
83	奥田 元宋		青山白雲	1987(昭和62)	180.3×124.4	紙本彩色	1面	幽玄讃歌 奥田元宋展	
84	奥田 元宋		溪潤春耀	1991(平成3)	37.7×112.7	紙本彩色	1面		
85	奥田 元宋		溪潤秋耀	1991(平成3)	37.7×112.7	紙本彩色	1面		
86	三上 巴峽	1913-1985	城	1966(昭和41)	227.0×179.7	紙本彩色	1面	第9回新日展	
87	行近 壮人	1923-2006	月明	1975(昭和50)	212.8×167.0	紙本彩色	1面	第7回改組日展	

#### 第4室 新収蔵作品

##### 日本洋画

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
88	神田 周三	1894-1972	八本松ゴルフ場	1941(昭和16)	38.2×45.7	油彩・画布	1面	新収蔵作品	
89	野見山暁治	1920-2023	誰かが呼んでいる	1992(平成4)頃	97.3×130.5	油彩・画布	1面	新収蔵作品	
90	野見山暁治		見失った顔	1993(平成5)頃	97.0×130.3	油彩・画布	1面	新収蔵作品	
91	野見山暁治		もう一つの約束	2008(平成20)	91.0×117.0	油彩・画布	1面	新収蔵作品	

##### 日本画

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
92	清水 南山	1875-1948	山水図		127.0×51.0	紙本墨画淡彩	1面	新収蔵作品	
93	児玉 希望	1898-1971	氷川の農家	1957(昭和32)頃	44.9×53.0	紙本金泥墨画	1幅	新収蔵作品、児玉希望作品展覧会(イリア)	

##### 工芸

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
94	池田 泰真	1825-1903	朝顔蒔絵煙管筒		長22.0 幅2.8	木・漆・蒔絵	1合	新収蔵作品	
95	三代金城一國齋	1829-1915	花虫図高盛絵茶托	1897(明治30)	高1.9 径7.8	木・漆・堆彩漆・高盛絵	5枚1組	新収蔵作品	
96	三代金城一國齋		観瀑図高盛絵香合	1911(明治44)	高3.8 8.0×8.0	木・漆・堆彩漆・高盛絵	1合	新収蔵作品	
97	三代(または四代)金城一國齋		紅瓜に虫高盛絵香盆	1894(明治27)	高3.0 径28.3	木・漆・堆彩漆・高盛絵	1枚	新収蔵作品	
98	三代金城一國齋		堆彩漆草花図四方膳	1914(大正3)	高3.5 38.5×38.5	木・漆・堆彩漆・高盛絵	5枚1組	新収蔵作品	
99	三代金城一國齋		堆彩漆草花図四方膳	1914(大正3)	高3.5 38.5×38.5	木・漆・堆彩漆・高盛絵	5枚1組	新収蔵作品	
100	清水 南山	1875-1948	竹文指輪		2.0×1.0	銀・彫金	1点	新収蔵作品	
101	清水 南山		飛雁文しおり		12.2×1.4	銀・彫金	1点	新収蔵作品	
102	四代金城一國齋	1876-1961	葡萄に蜂高盛絵香筒		長34.0 径2.5	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	1合	新収蔵作品	
103	五代金城一國齋	1906-1991	高盛絵鉄線花に蜂画香筒	1983(昭和58)	長34.0 径2.5	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	1合	新収蔵作品	
104	林 康夫	1928-	作品	1954(昭和29)	高45.0 38.0×30.0	陶	1点		
105	林 康夫		緑の滴	1958(昭和33)	高30.7 38.5×28.5	陶	1点		
106	林 康夫		POSE	1972(昭和47)	高38.0 31.0×26.0	陶	1点		
107	林 康夫		枯葉「階段」	1975(昭和50)	高43.5 60.5×27.0	陶・磁	1点	新収蔵作品、第38回走泥社展(京都市美術館)	
108	林 康夫		Focus 83-10	1983(昭和58)	高45.0 43.0×25.0	陶	1点	新収蔵作品、林康夫展(大阪・茶屋町画廊)	
109	林 康夫		Appear Brown '94- 2	1994(平成6)	高30.0 37.0×35.0	陶	1点	新収蔵作品、林康夫作陶展(赤坂クリン・ギャラリー)	
110	林 康夫		寓舎「想」	2006(平成18)	高39.5 32.0×21.0	陶	1点	新収蔵作品、林康夫「70歳」の切題展(三重・伊勢エッセイ)	
111	林 康夫		寓舎「白いゲートライン '08- 1」	2008(平成20)	高29.0 30.0×25.0	陶	1点	新収蔵作品、林康夫展(高島屋京都店)	
112	鯉城 政廣		柘榴図香筒	1933(昭和8)	長40.8 径2.3	竹・漆・高盛絵(堆彩漆)	1合	新収蔵作品	
113	鯉城 政廣		高塗果蟲菓子盆		高2.5 径34.2	木・漆・高盛絵(堆彩漆)	1枚		
114			立涌文煙管筒 付煙管		長22.5 幅2.8	(煙管筒)象牙	1組	新収蔵作品	
115			野菜象嵌煙管筒 付煙管・煙草入		長22.7 幅2.8	(煙管筒)藤編み・象嵌(煙草入)金唐革・金属	1組	新収蔵作品	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
116			煙草入 付根付		11.0×9.0	(煙草入)金唐革・金属 (根付)象牙	1組	新収蔵作品	
117			重要文化財 伊万里色絵花卉文輪 花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代 17世紀後半	高11.5 口径24.4	磁器・色絵	1口		
118			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高44.3	磁器・色絵	1軀		
119			伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代 17世紀後半	高45.0	磁器・色絵	1軀		

#### 美術資料

No.	作者	生没年	作品名	制作年	法量(cm)	材質等	員数	出品歴・備考	展示期間
120			第1回芸州美術協会展関連資料	1936(昭和11)	26.0×53.3	印刷・紙	1枚	新収蔵作品	

#### 関連事業

##### (1) リレートーク

日 時：3月24日(金) 15：00～15：45

講 師：角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、  
神内 有理(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)、  
森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：6人

##### (2) 対話型鑑賞

日 時：①令和5年4月1日(土) 10：00～／オンライン(Zoom)

②令和5年4月8日(土) 14：00～／対面(2階展示室(ワイヤレスガイド使用))

ナビゲーター：森 万由子(当館学芸員)

参加者：①4人 ②6人

##### (3) インスタライブ配信

①日本洋画 ②新収蔵(日本洋画・日本画・工芸)③日本画 ④西洋美術

日 時：①3月7日(火) ②3月14日(火) ③3月28日(火) ④4月4日(火)

各日17：00～

講 師：①角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)

②各分野学芸員

③神内 有理(当館主任学芸員)

④森 万由子(当館学芸員)

参加者：①43人 ②52人 ③47人 ④51人

##### (4) 「楽しみ方ナビ」の無料配布



#### 関連報道・記事

##### (1) 雑誌等

『Wink』1月号、『ふれあい』62号

##### (2) WEB・SNSほか

『青山デザインフォーラム』1月～、『アートアジェンダ』1月～



## 秋の所蔵作品展<sup>プラス</sup>

広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画

# ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展

「秋の所蔵作品展<sup>プラス</sup>」として、広島市現代美術館との合同展を初めて開催した。同館が改修工事のため休館中であったことに加え、当館の特別展展示室が一部改修工事で休室のため、特別展に代わる企画が求められたといった状況もあり実現した。

内容は、それぞれの特色を生かすため、近代美術を主とする当館(ケンビ)と、現代作品を扱う広島市現代美術館(ゲンビ)の双方のコレクションから、異なる時代・ジャンルの作品92点を対比させながら、近代美術と現代美術の違い、抽象・具象の違いなど、4つの疑問に答えるという構成で、来館者に新たな楽しみ方を提案する展覧会とした。

展示では、「親近感」をテーマに、通常の解説文ではなく、美術館同士の対話をLINE風の吹き出しパネルによって表現することで、見た目楽しくかつ対話により思考の深まりが感じられるような工夫をほどこした。また、来館者が両館への思いを吹き出し型付箋に綴り、掲出できるコーナーを設けたところ、両館の対話的展示を楽しむ声が多くみられたほか、ゲンビには行くが当館には来たことがない方や、ケンビに行くがゲンビは行ったことがない、といった声が多く寄せられており、本展が新たな来館者にそれぞれの魅力を発信する場となっていた様子がうかがえた。

イベントでは、両館の館長による座談会、学芸員による反省会やギャラリートーク、ワークショップ等、計12のイベントを実施するなど、合同展ならではの充実した内容となった。

本展の実現までに両館の学芸員が行った打合せは20回以上に上る。密接な打合せにより、企画の内容を深めるとともに、さまざまな情報交換を行えたことも、学芸員同士のネットワーク強化という点で成果といえる。

また、広報においても、両館の広報担当者が連携し、SNS上で互いにエールを送りあうといった協力関係により、単館ではありえなかった広報活動が展開できた点も印象的であった。

リニューアルオープンの準備で忙しい中、本展に多大なる協力を賜った広島市現代美術館に改めてお礼を申し上げたい。

※文化庁「ARTS for the future! 2(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)」採択事業

(総括担当者：神内 有理)



## 展示構成

- 第一室 第1の? 近代美術と現代美術はどう違うの?(西洋近代美術+現代美術)  
第二室 第2の? 抽象・具象って何?(日本洋画+現代美術)  
第三室 第3の? 理想を描く?現実を描く?(日本画+現代美術)  
第四室 第4の? 美と術って何?(工芸+現代美術)

## 関連事業

- (1) 両館長座談会「ケンビ+ゲンビよもやま話」  
日 時：11月3日(木・祝) 13:30~15:00  
講 師：寺口 淳治(広島市現代美術館長)、千足 伸行(当館館長)  
会 場：地階講堂  
参加者：82人
- (2) ケンビ+ゲンビ合同による 疑問が解ける(かも)リレートーク(イヤホンガイド利用)  
日 時：①[前編] 11月18日(金) ②[後編] 12月9日(金)各日14:00~  
講 師：①松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、  
小野 佳奈(同館学芸員)、角田 新(当館主任学芸員)、  
藤崎 綾(当館主任学芸員)、山下 寿水(当館主任学芸員)  
②松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、  
小野 佳奈(同館学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)、  
岡地 智子(当館学芸員)  
会 場：2階展示室  
参加者：①8人 ②10人
- (3) ゲンビの「ツールボックス」を使ってみたら、楽しい工作ができる(かも)ワークショップ  
日 時：11月5日(土) 10:00~16:00  
講 師：笹野 摩耶(広島市現代美術館学芸員)、小野 佳奈(同館学芸員)、  
森 万由子(当館学芸員)  
会 場：エントランス  
参加者：69人
- (4) ケンビとゲンビの作品を両方見てみたら、発見がある(かも)合同対話型鑑賞  
日 時：①11月26日(土) ②1月14日(土)各日14:00~  
講 師：小野 佳奈(広島市現代美術館学芸員)、森 万由子(当館学芸員)  
会 場：2階展示室  
参加者：①7人 ②9人
- (5) ケンビ+ゲンビ合同による 疑問が解ける(かも)インスタライブ  
日 時：①11月8日(火) ②11月29日(火) ③12月20日(火) ④1月10日(火)  
各日17:00~  
講 師：①松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、  
山下 寿水(当館主任学芸員)  
②松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、  
角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)  
③松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、  
神内 有理(当館主任学芸員)



④松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)

参加者：①80人 ②85人 ③54人 ④78人

(6) 担当学芸員たちによる公開反省(?)会+今後の展望を語る(かも)会

日 時：1月21日(土) 13:30~15:00

講 師：松岡 剛(広島市現代美術館主任学芸員)、小野 佳奈(同館学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、  
神内 有理(当館主任学芸員)、山下 寿水(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)、  
森 万由子(当館学芸員)

会 場：3階ロビー

参加者：20人

(7) 小冊子『ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展』配布

#### フェルナンド・ボテロ「小さな鳥」展示

会 期：7月8日(金)~1月31日(火)

場 所：1階ロビー



#### 広報

- (1) 両館HP、SNS での広報
- (2) インターネット広告
- (3) ナノインフルエンサー内覧会の実施
- (4) フォトキャンペーン(Instagram)の開催

#### 関連番組・記事

(1) テレビ

11/ 1 ケーブルテレビちゅびCOM「まちかどスタジオ」

(2) 新聞

11/ 3 読売新聞「合同展 2館長が対談」

12/ 8 中国新聞「ケンビゲンビ 作品比べて新発見 初の合同展」

12/19 山陽新聞「広島県立、市現代美術館の初の合同展 共通点、違い感じて」

12/21 朝日新聞「ケンビとゲンビで美術の謎解き 初の合同展」

12/25 毎日新聞「貴重な展示物、毛ばたきで丁寧に 広島県立美術館で「すす払い」」

1/19 毎日新聞「入場者1万人超える」

(3) 雑誌等

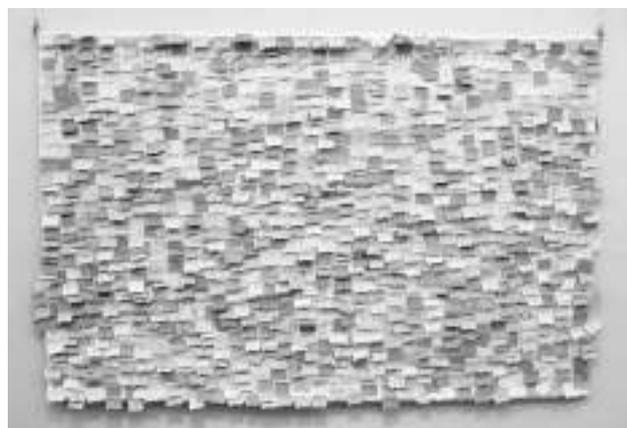
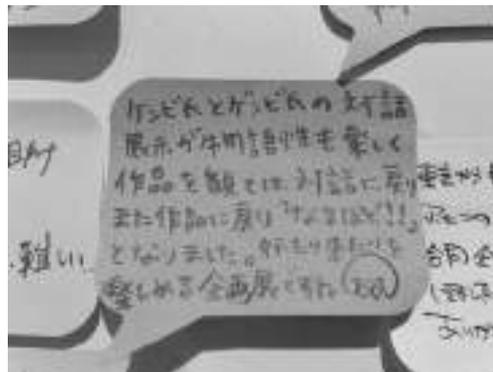
『せとうちアート通信』vol 2、『リビングひろしま』12月16日号、『くれえばん』11月号、『Wendy』12月号、『TJ Hiroshima』12月号、『ふれあい』10月10日号、『Wink』12月号、『地域創造レター』10月25日号、『美術の窓』12月号、『トライアングル』12月号、『TVガイド中国新聞発行』12月31日発行

(4) WEB

『Diveひろしま』10月～、『Walker Plus』10月～、『JRおでかけネット』10月～、『美術手帖』12月～

その他(来場者の声(一部))

- ・ケンビ氏とゲンビ氏の対話展示が物語性も楽しく作品を見ては対話に戻り、また作品に戻り「なるほど!」となりました。行ったり来たりを楽しめる企画展ですね
- ・ケンビさんとゲンビさんのかけあいがとっても興味深い! たんにキャプションが書いてあるよりも、考えながら展示を見ることができています
- ・このコラボは最強!
- ・県立美術館はよく来ますが、現代美術館は行ったことがなかったので、新鮮で面白いです。美術の道に進むか進路に悩んでいましたが、美術がつづけられたらそれでもう十分です。
- ・芸術を学んでるやつは全員来い!
- ・広島、こんな名作も持っていたんだ!と市民として誇らしいです。思わぬ視点に?がひろがったり なるほどとうなったり… とっても深みのあるコラボ展でした
- ・所蔵作品の展示だと「またか」と「また会えたね」の両方を思う。今回、2館の作品が集められ展示されると奥行がずいぶん違って「いつものけどいつもとちがうー!」ととても面白かった。館の違いも会話の中でふれられていてそれも面白かった
- ・改めてアートの「境」なんてないんだ! どれもつながっているんだ!!と実感しました。とても良い展示でした
- ・コレクション展という制約がありながら、キュレーションがすてきです。2回目の訪問。よくわからないのがおもしろい
- ・ケンビ×ゲンビ 新しい発見があって面白かった 第2弾期待しています



### Ⅲ 普及活動

#### 1 第10回新県美展(第74回広島県美術展)

本展は「広く県民から美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、もって芸術文化の向上に資すること」を目的に、昭和24年以来開催している。平成25年度には、より広く県民が参加できる美術展をめざして、新たに映像系部門を加え、また、入館者人気大賞を実施するなどの見直しを行い、「新県美展」としてリニューアルした。

さらに令和2年度には、平成24年度以来、県内の児童・生徒の美術力の向上を図ることを目的として開催してきた公募展「広島県ジュニア美術展」を、新県美展の一部門(ジュニア部門)として同時開催することとしたものの、当該年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、開催自体が中止となった。

3年ぶりの開催となった本年度は、一般部門では応募点数821点のうち385点が入選。うち、受賞作品57点(大賞8点、優秀賞13点、奨励賞36点)。ジュニア部門では応募点数461点のうち216点が入選。うち、受賞作品37点(大賞4点、優秀賞8点、奨励賞25点)。これら入選作品に加え、令和元年度開催の第8回広島県ジュニア美術展大賞受賞者8名の作品や、県内における制作指導や美術文化の発展に貢献した招待作家5名の作品を展示した。また、期間中の入館者人気投票により入館者人気大賞7点が選定された。

主 催／広島県

共 催／三原市教育委員会、福山市、府中市、庄原市教育委員会、江田島市教育委員会、  
世羅町教育委員会、広島県教育委員会、中国新聞社

後 援／NHK 広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、  
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、  
FMはつかいち76.1MHz、リビングひろしま

#### 開催会場、期間および観覧者数

市町名	会 場	会 期	観覧者数
広島市(中央展)	広島県立美術館	6月11日(土)～6月26日(日)	4,549人
世 羅 町	世羅町せら文化センター	7月6日(水)～7月10日(日)	191人
府 中 市	府中市生涯学習センター	8月3日(水)～8月7日(日)	375人
福 山 市	ふくやま美術館	8月17日(水)～8月21日(日)	684人
三 原 市	三原リージョンプラザ	8月24日(水)～8月28日(日)	479人
庄 原 市	庄原市田園文化センター	8月31日(水)～9月4日(日)	131人
江 田 島 市	能美市民センター	11月3日(木・祝)～11月6日(日)	400人

合計 6,809人

入賞者名簿(※◎は大賞、○は優秀賞、無印は奨励賞)

【一般部門】

絵画系	◎谷迫 圭子 ○若山 恵子 金子 照子 藤井 妙子	◎田村 末人 荒木 和雄 笹井多恵子 松本 千代	○石原 詠子 應原 光子 隨行 町子 吉本 幸子	○佐々木 博 大原 馨 西元 朝枝	○藤岡 淳二 小野 平治 能宗智恵子
彫塑系	◎佐々木一則	○藤田 木理	岡本 卓博		
工芸系	◎大村 卓壯 永島 正則	○高尾千鶴子 福田 彩子	○田頭 進	和泉 春信	高山 尚也
書系	◎松本 秀仙 今西まり子 山本 元	○竹内 光仙 景山 鳳苑	○中野 光葉 榊田 育代	石川 麗仙 中森 淳	井手志緒里 西岡三千男
写真系	◎新竹 英雄 武内 伸二 吉田 慶良	○峠 美幸 津島 裕子	○萩野美保子 長谷川早苗	鴨野 弘子 花登奈都子	新岡 康夫 百鳥 健一
デザイン系	◎反田 龍治	○植村 璃里	日置 芳也		
映像系	◎島田拓空也	・大路 真由	○太山 恵介	か ず き	曾利久珠由

【ジュニア部門】

絵画系	◎福山鈴之助 ○下蘭 理子 福山花菜子 秀坂 海飛 山口 結生	○伊藤 勇人 馬場 理人 堅小 紗奈 大下 久斗	○湯谷 友喜 山根 佑太 三田 永人 林 俐琥	○西村 紘希 田中 志穂 川崎 大治 増田 陸人	高原 美空 二反田 甲 保手濱優菜
彫刻系	◎前田 悠吾 ○兼森 貫太 湯浅 珠妃	今田 葵子	川下 琉惺	奈良 俊祐	大下 莉奈
工芸(工作)系	◎伊藤 勇人 ○馬場 理人 福山花菜子	大森 友愛	前田 慶	五反田 萌	
写真系	○宮田 楓菜	中川 湮			
デザイン系	◎小西 紗耶	○住田 遥	大本 瑛介		

## 2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として例年実施している。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2・3年度は募集先を県内大学に限定していたが、感染拡大状況に鑑み本年度は制限を設けず、各校に対し、文化庁企画調整課博物館振興室より各大学宛に出された「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた学芸員養成課程に係る博物館実習の実施に当たっての留意事項について」に基づき、健康管理に留意することを徹底するよう伝えた上で実施の運びとなった。

(実習担当者：森 万由子)

### 実施日時と内容

8月22日(月)	9:30~10:00	開講あいさつ・オリエンテーション
	10:00~11:00	館長講話
	11:00~12:00	講座①「美術館と学芸活動」
	13:00~13:30	見学① 館内
	13:30~14:30	見学②「所蔵作品展」
	14:30~15:30	講座②「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」
8月23日(火)	15:30~16:00	広報企画実習①(課題説明)
	9:30~10:30	講座③「対話型鑑賞」(講義と実践)
	10:30~11:30	見学③「安野先生のふしぎな学校展」
	11:30~12:00	ギャラリートーク実習①(概論)
8月24日(水)	13:00~16:00	ギャラリートーク実習②(企画立案)
	9:30~10:30	講座④「美術館の展示環境・展示手法」
	10:30~12:00	広報企画実習②(発表・ディスカッション)
	13:00~14:00	作品取扱い実習・調書作成①(日本洋画)
	14:00~15:00	作品取扱い実習・調書作成②(日本画)
	15:00~16:00	ギャラリートーク実習③(集約)
8月25日(木)	9:30~10:30	作品取扱い実習・調書作成③(工芸)
	10:30~12:00	ギャラリートーク実習④(集約)
	13:00~16:00	ギャラリートーク実習⑤(制作)
8月26日(金)	9:30~12:00	ギャラリートーク実習⑥(発表準備)
	13:00~14:30	ギャラリートーク実習⑦(発表)
	14:30~15:00	受講生ディスカッション
	15:00~16:00	振り返り

### 受講生所属大学

青山学院大学、安田女子大学、県立広島大学、静岡文化芸術大学、佐賀大学、広島大学、和光大学、広島女学院大学、広島市立大学、比治山大学、成城大学(11大学、計14名)

### 広報企画実習

大学生をターゲットにした、当館所蔵作品展の広報企画の立案を行った。初日にワークシートを配布し、まずは各自で企画案を考えてくることを課題とした。発表・ディスカッションにおいて、受講者は4班に分かれ、各々の案を他の班員と共有し、ブラッシュアップしたのち一つの企画とし班ごとに発表

を行った。駅の工事中仮囲いの活用や、コラボスイーツや学芸員のコメント付きポストカードの作成、作品をイメージした服装のSNSでの発信など、多彩な企画案が提示された。

#### ギャラリートーク実習

メインカリキュラムでは、所蔵作品展で展示中の作品の中から対象作品を選定し、模擬的なギャラリートークを実施した。受講生は4班に分かれ、グループワークにより、各班で対象者、作品、対象者に合わせたトーク内容、ギャラリートーク全体のテーマを決定。自身が受けた作品の印象や各自の関心を出発点としながら、調査を通じて作品や作者への理解を深め、さらに来館者目線に立った伝え方を検討することで、学芸員の仕事を追体験した。各班のテーマ、対象者、作品は次の通り。

①	ちょっと不気味な美術の世界（対象：小学校高学年、中学生、高校生） マックス・エルンスト《博物誌「夫婦のダイヤモンド」》、ルネ・マグリット《人間嫌いたち》、鬚光《花園の虫》、熊倉順吉《曲面のレコード・ラック》
②	光（対象：一般（美術にそこまで詳しくない人）） アレクサンダー・コルダ《ヴァーティカル・ホワイト・フレーム》、吉田博《瀬戸内海集「帆船朝」》、ジャン（ハンス）・アルプ《目覚め》、名井萬亀《あるいっしゅん》、南薫造《曝書》
③	これ何にみえる？（対象：一般（美術に苦手意識のある人）） 圓鋸勝三《タクト》、八木一夫《いつも離陸の角度で》、永田一脩《静物》
④	こんな旅行どうですか？（対象：高齢者） 森口邦彦《友禅訪問着 光波》、船木倭帆《巴皿》、船木倭帆《垂描文鉢》、吉田博《瀬戸内海集「帆船朝」》、吉田博《瀬戸内海集「帆船午前」》

### 3 学校・地域との連携事業

所蔵作品や鑑賞補助教材を活用した授業や講座を出張して行うことにより、学校や地域における美術鑑賞活動を支援し、美術館と学校や地域との相互交流を促進する。

#### 出張講座

本講座は、県立美術館の学芸職員が公民館や生涯学習センター、学校などに出向き、スライドなど鑑賞補助教材を用いて行うもので次の2つのコースを設定した。

A コレクション・トーク 当館所蔵作品や地域文化などをテーマに行う講座(14講座)

B 特別展のためのとくべつ講座 当該年度に開催する特別展を紹介する講座(2講座)

令和4年度における実施状況は次表のとおりで、地域や学校における美術鑑賞活動を支援するとともに、特別展を普及広報し、美術館への関心や親しみを醸成した。

No.	開催日			会場	講師	コース	講座タイトル	参加(人)
	月	日	曜					
1	4	20	水	広島市中央公民館	隅川	A	名勝縮景園の歴史と美意識	60
2	5	7	土	リワークセンター大手町	森	A	話しながら見てみようーみんなで楽しむ美術鑑賞ー	5
3	8	20	土	リワークセンター大手町	森	A	話しながら見てみようーみんなで楽しむ美術鑑賞ー	9
4	9	26	月	三原リージョンプラザ	藤崎	A	絵画に見る時代や歴史	142
5	9	30	金	口田公民館	岡地	A	広島がはぐくんだ伝統工芸「高盛絵」	14
6	10	15	土	リワークセンター横川	森	A	話しながら見てみようーみんなで楽しむ美術鑑賞ー	8
7	10	28	金	宇品公民館	藤崎	A	絵画の探検 楽しみ方のヒント	100
8	11	15	火	叡啓大学	森	A	話しながら見てみようーみんなで楽しむ美術鑑賞ー	15
8	2	21	火	広島アライアンス教会	森	A	話しながら見てみようーみんなで楽しむ美術鑑賞ー	27
10	3	9	木	広瀬神社	岡地	A	広島がはぐくんだ伝統工芸「高盛絵」	15
11	3	26	日	旧千葉家住宅	隅川	A	名勝縮景園の歴史と美意識	30

(全10会場／参加合計365人)

## 4 鑑賞支援制作物

### (1) ワークシート

来館者の鑑賞を支援するため、おおむね小学校高学年以上を対象とした所蔵作品のワークシートを作成している。令和4年度は新たに3種類を作成し、合わせて339種となった。

No.	所蔵作品番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	P-124,125,132	吉田 博	瀬戸内海集《光る海》《雨後の夕》 《靄の浦》	1927(昭和2)	紙・多色木版
2	P-136,137,138,141,142	吉田 博	瀬戸内海集第二《倉》《靄之港》 《阿伏兎の朝》《三つ小島》《木の江》	1930(昭和5)	紙・多色木版
3	P-133,134,135,139,140	吉田 博	瀬戸内海集第二《鍋島》《白石島》 《神の島》《潮待ち》《静奈る日》	1930(昭和5)	紙・多色木版



## 5 学校等による利用状況

令和4年4月1日～令和5年3月31日までの利用状況(団体申込による)は、次のとおり。

### 概要

区分(団体・区域)		団体数	人数	引率等	総人数	
1	小学校	(1)市内	3団体	268	11	279
		(2)県内	1団体	7	5	12
		(3)県外	-	-	-	-
2	中学校	(1)市内	-	-	-	-
		(2)県内	4団体	50	10	60
		(3)県外	16団体	875	42	917
3	高校	(1)市内	5団体	232	13	245
		(2)県内	4団体	192	14	206
		(3)県外	3団体	79	9	88
4	その他	(1)市内	3団体	88	3	91
		(2)県内	1団体	13	5	18
		(3)県外	1団体	15	3	18
合計		41団体	1819	115	1934	

### 詳細

団体	区域	利用年月日	人数	引率等	総人数	利用目的	対応	
1	安芸高田市立川根小学校	(2)県内	2022年9月2日	7	5	12	特・所	
	広島市立舟入小学校	(1)市内	2022年11月9日	101	4	105	所	学芸員解説
	広島市立伴東小学校	(1)市内	2023年2月22日	67	4	71	特・所	
	広島市立舟入小学校	(1)市内	2023年3月3日	100	3	103	特・所	学芸員解説
2	岡山市立京山中学校	(3)県外	2022年5月12日	103	0	103	所	
	笠岡市立金浦中学校	(3)県外	2022年5月13日	4	0	4	所	
	矢掛町立矢掛中学校	(3)県外	2022年5月19日	17	0	17	所	
	岩国市立岩国中学校	(3)県外	2022年5月25日	45	1	46	所	
	岡山市立福田中学校	(3)県外	2022年5月26日	12	0	12	所	
	岡山市立高島中学校	(3)県外	2022年5月27日	115	2	117	所	
	里庄町立里庄中学校	(3)県外	2022年5月27日	11	0	11	所	
	創価中学校	(3)県外	2022年6月1日	72	4	76	所	
	井原市立井原中学校	(3)県外	2022年6月2日	54	1	55	所	
	廿日市市立大野中学校	(2)県内	2022年6月18日	12	1	13	特・所	
	岡山市立高松中学校	(3)県外	2022年7月8日	57	2	59	所	
	下松市立下松中学校	(3)県外	2022年7月11日	128	8	136	所	
	東広島市立高屋中学校	(2)県内	2022年7月23日	21	1	22	特・所	
	福山市立幸千中学校	(2)県内	2022年7月30日	12	4	16	特・所	
	高岡市立高陸中学校	(3)県外	2022年9月7日	91	9	100	所	学芸員解説
	北広島町立大朝中学校	(2)県内	2022年9月14日	5	4	9	所	
	邑南町立石見中学校	(3)県外	2022年10月28日	34	4	38	特	
	岡山市立旭東中学校	(3)県外	2022年10月28日	15	0	15	特・縮	
	飯塚市立二瀬中学校	(3)県外	2022年12月7日	83	9	92	所	
	筑紫野市立筑紫野中学校	(3)県外	2022年12月17日	34	2	36	所	

	団体	区域	利用年月日	人数	引率等	総人数	利用目的	対応
3	広島県立宮島工業高等学校	(2)県内	2022年4月15日	40	2	42	所	
	広島県立松永高等学校	(2)県内	2022年4月28日	113	9	122	所・縮	
	広島三育学院高等学校	(2)県内	2022年5月27日	7	1	8	所	
	広島女学院高等学校	(1)市内	2022年5月28日	39	2	41	所	
	小井手ファッションビューティ専門学校 高校課程	(1)市内	2022年7月12日	109	5	114	特・所	
	広島女学院高等学校	(1)市内	2022年7月15日	22	1	23	特・所	
	屋久島おおぞら高等学校(広島キャンパス)	(1)市内	2022年8月20日	33	4	37	所	
	山陽女学園高等部	(2)県内	2022年9月3日	32	2	34	特・所	
	M. C. Perry High School	(3)県外	2022年11月2日	37	4	41	所	学芸員解説
	藤女子高等学校	(3)県外	2022年11月3日	37	4	41	所・縮	
	広島女学院高等学校	(1)市内	2023年2月18日	29	1	30	特・所・縮	
4	山口県立周防大島高等学校	(3)県外	2023年3月12日	5	1	6	所	
	比治山大学短期大学部美術科	(1)市内	2022年4月28日	43	1	44	特・所	学芸員解説
	広島インターナショナルスクール	(1)市内	2022年5月12日	14	1	15	特・所	
	比治山大学	(1)市内	2022年5月21日	31	1	32	特	学芸員解説
	北広島町教育委員会	(2)県内	2022年10月23日	13	5	18	特・所	
	山口芸術短期大学	(3)県外	2023年2月21日	15	3	18	特・所	

※利用目的について、「特」は特別展、「所」は所蔵作品展、「縮」は縮景園の利用を表す。

## 6 県民ギャラリー利用状況

令和4年4月4日～令和5年4月3日までの利用状況は、次のとおり。

利用団体		延べ開催日数	延べ入場者数
入場有料	8団体	48日	20,943人
入場無料	68団体	447日	51,672人
計	76団体	495日	72,615人

### 利用団体一覧表

展覧会名	会期	展示室	内容	出品点数	入場料金	入場者数
第85回自由美術展	4/4～4/11	1 2 3 4 5	絵画・彫塑	96点	無料	573人
第69回杏林画会展	4/11～4/18	1	絵画	40点	無料	345人
北翔展	4/11～4/18	2	絵画	46点	無料	528人
“公募2022”第43回関西西綜美会展	4/11～4/18	3 4 5	絵画・彫塑・工芸・書・写真	127点	無料	1,014人
第31回グループ宙遊展	4/18～4/25	1	絵画	35点	無料	500人
鯉の領域	4/18～4/25	2	写真	50点	無料	300人
第45回記念 グループ「集」展	4/18～4/25	3	絵画	33点	無料	737人
第7回広島一水会展・第41回路展	4/18～4/25	45	絵画	103点	無料	842人
第31回波の会展	4/25～5/2	1 2 3 4 5	絵画	170点	無料	1,573人
第64回新協展	5/2～5/9	1 2 3 4 5	絵画・工芸	123点	一般 600円 高大生 500円 中学生以下 無料	1,667人
第70回記念 光陽展広島準本展	5/9～5/16	1 2 3 4 5	絵画	104点	一般 600円 高校生以下 無料	632人
第108回光風会展	7/4～7/11	1 2 3 4 5	絵画・工芸	135点	一般 600円 高大生 500円 (前売券は当日料金より200円引き)	5,055人
第60回記念大調和会広島巡回展	7/11～7/18	1 2	絵画	77点	無料	685人
第61回新制作広島グループ展及び 第84回新制作展地元作家出品作品展	7/11～7/18	3 4 5	絵画・彫塑	56点	無料	624人
第57回広島形象派展	7/18～7/25	1	絵画	32点	無料	368人
第54回黄人展	7/18～7/25	2 3	絵画・彫塑	55点	無料	624人
むいち会・市谷實作品展	7/18～7/25	4 5	絵画	66点	無料	480人
第52回広島県日本画協会展	7/25～8/1	3 4	絵画	42点	無料	618人
せこへい美術館	7/25～8/1	5	絵画・工芸・書・写真	38点	無料	538人
第36回一般社団法人新興美術院 広島支部展	8/1～8/8	1	絵画	22点	無料	222人
心書倶楽部展	8/1～8/8	2 3	書	243点	無料	308人
第62回日本版画会展(広島会場)	8/8～8/15	1 2 3	絵画	106点	無料	1,008人
第37回基町高校美術部OB桐美会展	8/8～8/15	4	絵画・彫塑・工芸・写真・その他(CG、立体作品)	64点	無料	510人
ART WEEK 2022	8/8～8/15	5	絵画・彫塑	36点	無料	351人
第36回日洋展広島会場	8/15～8/22	1 2 3 4 5	絵画	106点	一般 600円 大学生以下 無料	1,688人
第73回毎日書道展中国展	8/22～8/29	1 2 3 4 5	書	823点	一般 600円 高校生以下 無料	2,305人
第88回東光展	8/29～9/5	1 2 3 4 5	絵画	157点	一般 600円 学生 無料	2,811人
第32回アートグループ「滴」展	9/5～9/12	1	絵画	40点	無料	502人
第50回記念 広島彫刻会展	9/5～9/12	2 3	彫塑	46点	無料	736人

展覧会名	会期	展示室	内容	出品点数	入場料金	入場者数
第57回グループいしがき展	9/5～9/12	4 5	絵画	96点	無料	823人
透明水彩画展～翔～	9/12～9/19	1	絵画	42点	無料	424人
第68回職美展	9/12～9/19	2 3 4	絵画・工芸・書・写真・その他 (刺繍・手芸)	233点	無料	915人
第34回クッキー同好会人物素描展	9/12～9/19	5	絵画	55点	無料	379人
比治山大学短期大学部 美術専攻科作品展	9/19～9/26	1	絵画・工芸・その他(映像・イラストパネル)	43点	無料	231人
広島筆文化研究会主催第5回書画公募展	9/19～9/26	2 3 4	絵画・書	72点	無料	423人
第41回互の会日本画展	9/19～9/26	5	絵画	50点	無料	421人
第39回産経国際書展瀬戸内展	9/26～10/3	1 2 3 4 5	書	316点	無料	785人
リブル絵画展	10/3～10/10	2	絵画	55点	無料	532人
一般社団法人二科会写真部広島支部 第44回支部公募展	10/3～10/10	3 4 5	写真	275点	無料	1,242人
第23回グループ「Z」水彩展	10/10～10/17	1	絵画	15点	無料	358人
広島YMCA学園 2022生徒作品展 「芸大美大受験科」 「美術教室」	10/10～10/17	2 3	絵画・彫塑・工芸	729点	無料	883人
茂利漆 佐伯光宣 回顧展	10/10～10/17	4	工芸	146点	無料	302人
第52回渦展	10/10～10/17	5	絵画	40点	無料	498人
出本正彦柿染展	10/17～10/24	1	その他(洋服・バッグ)	120点	無料	538人
第5回日本水彩出品作家 彩遊会展	10/17～10/24	2	絵画	30点	無料	562人
第四回日本風景写真協会広島第二支部展	10/17～10/24	3	写真	34点	無料	591人
第31回広島県シルバー作品展	10/24～10/31	1 2 3 4 5	絵画・彫塑・工芸・書・写真	216点	無料	1,356人
あいサポートアート展	10/31～11/7	1 2 3 4 5	絵画・工芸・書・その他(立体造形・陶芸・版画)	375点	無料	1,482人
第46回広島県高等学校総合文化祭 第54回広島県高等学校美術・工芸展 (中央展)	11/7～11/14	1 2 3 4 5	絵画・彫塑・その他(映像)	573点	無料	874人
第46回広島県高等学校総合文化祭 第54回広島県高等学校書道展	11/14～11/21	1 2 3 4 5	書	244	無料	679人
全日本写真連盟広島県本部展 第82回国際写真サロン/第25回朝日写真サロン・中国/第22回広島県本部展	11/21～11/28	3 4 5	写真	314点	無料	780人
2022年 Petals美術展	11/28～12/5	3	絵画	74点	無料	444人
第55回広島県写真連盟展	11/28～12/5	4 5	写真	162点	無料	573人
写真展 FOTO WAVE	12/5～12/12	3	写真	150点	無料	280人
Flag of the West2022 —広島市立大学芸術学部日本画制作展—	12/12～12/19	5	絵画	20点	無料	336人
日印国交樹立70周年記念特別展「絵画で紡ぐインドと日本のきずな—ウペンドラ・マハラティと高山博子—」 (11/21～R5.1/23)	11/21～1/23	1 2	絵画	42点	無料	3,941人
第11回新構造広島巡回展	1/9～1/16	3 4	絵画・工芸・写真・その他(版画)	52点	無料	808人
第53回元陽展広島会場	1/16～1/23	3 4 5	絵画	90点	無料	2,285人
第75回 二紀展 第50回 記念広島巡回展	1/23～1/30	1 2 3 4 5	絵画・彫塑	122点	一般 600円 前売一般 500円 大学生以下 無料	4,006人
第75回広島県児童生徒書道展	1/30～2/6	1 2 3 4 5	書	2,035点	無料	2,821人
第106回二科展(第66回広島巡回展)	2/6～2/13	1 2 3 4 5	絵画・彫塑・写真・デザイン	267点	一般 600円 前売 400円 高校生以下 無料	2,779人

展覧会名	会期	展示室	内容	出品点数	入場料金	入場者数
第54回安田女子大学書道学科卒業制作展併催 安田女子大学書道学科展 安田学園小・中・高等学校作品展 併催 安田女子大学書道学科行事作品展	2/13～2/20	1 2 3 4 5	書	249点	無料	1,267人
第61回広島大学大学院 人間社会科学 研究科造形芸術教育学領域・教育学部 造形芸術系コース 修了・卒業制作展 ／論文発表会	2/20～2/27	1 2	絵画・彫塑・工芸・ その他(デザイン)	58点	無料	698人
令和4年度 広島県立熊野高等学校 芸術類型 美術コース・書道コース 卒業作品展	2/20～2/27	3 4 5	絵画・彫塑・工芸・書・その他	82点	無料	1,516人
新協美術会広島グループ展	2/20～2/27	5	絵画・工芸	21点	無料	701人
第71回書の友全国書道展覧会	2/27～3/6	1 2 3 4 5	書	2,119点	無料	2,156人
2023広島多摩美会展	3/13～3/20	1	絵画・彫塑・工芸・ その他(デザイン)	35点	無料	386人
第45回広島県工芸美術作家協会展	3/13～3/20	2	工芸	23点	無料	342人
第57回ひろしま美術研究所展	3/13～3/20	4 5	絵画・工芸	220点	無料	456人
佃静聞・行雲流水展	3/20～3/27	1	絵画	25点	無料	347人
Image photograph art 2023	3/20～3/27	3	写真	40点	無料	440人
第20回津賀水彩画教室(旧アルパーク展)	3/20～3/27	5	絵画	78点	無料	553人
第7回麦の会日本画展	3/27～4/3	1	絵画	78点	無料	500人
第6回つかさアートクラブ絵画作品展	3/27～4/3	2	絵画	90点	無料	809人
西尾 裕展	3/27～4/3	3	絵画	27点	無料	368人
第11回広島県水墨作家協会展	3/27～4/3	5	書・墨象・水墨	21点	無料	581人

## 7 友の会事業報告

「すぐれた美術作品に接し、それを鑑賞する楽しさを分かち合いながら、自分自身を高めてゆく」ことを目的に昭和47年1月21日に発足した。平成3年から平成8年までの新館工事中は会自体が休止状態にあったが、リニューアルオープンを機に友の会もボランティアで運営する新しい組織となり、会員相互の親睦と美術館の事業にも協力・支援することを目的として、平成9年4月1日付けで再出発した。

会員数 618人(個人422人 家族181人 学生3人 賛助11人 特別賛助1人)

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、友の会事業は必要最小限の活動となり、また特別展は通常に開催されたが、会員の減少の歯止めにならなかった。

### (1) 会報の発行

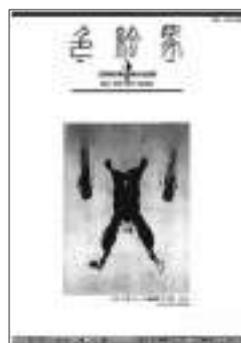
- ・発行 98～101号
- ・配布先 会員、国内の美術館等



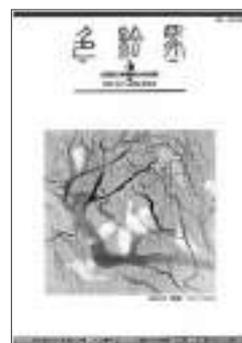
『色絵馬』No.98



『色絵馬』No.99



『色絵馬』No.100



『色絵馬』No.101

### (2) 美術情報及び友の会ニュースの発行

- ・美術情報 128～131号
- ・友の会ニュース 182～188号

### (3) 所蔵作品展のボランティアによるギャラリーガイド

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、停止

### (4) ボランティア・ギャラリーガイド研修

#### ◆所蔵作品展研修(美術館共催)

令和4年6月18日(土) 参加者：15人

令和5年3月11日(土) 参加者：17人

#### ◆ギャラリーガイド研修

令和4年7月30日(土) 泉美術館 小特集「中谷ミユキ」

講師：永井 明生(泉美術館学芸部長)

参加者：11人

### (5) 特別展関連講演会・対談(美術館と共催)

#### ◆令和4年4月9日(土) 《現代アートの100年》展関連

演題：「縫い、拭い、描く—絵画について考える」

講師：伊藤 存(アーティスト、本展出品者)、小西 紀行(画家、本展出品者)

参加者：49人

◆令和4年7月8日(金) 《安野先生のふしぎな学校》展関連

演 題：「追悼 安野光雅先生」

講 師：大矢 鞆音(津和野町立安野光雅美術館館長)

参加者：65人

◆令和4年9月17日(土) 《皇室の美と広島－宮内庁三の丸尚蔵館の名品から－》展関連

演 題：「悠紀主基地方風俗歌屏風をめぐる」

講 師：朝賀 浩(宮内庁長官官房参事官)

参加者：97人

◆令和5年2月18日(土) 《第69回日本伝統工芸展》関連

演 題：「伝型の美を求めて～文様の起点と展開～」

講 師：鈴木 滋人(重要無形文化財「木版摺更紗」保持者)

参加者：69人



講演会 2022.9.17

(6) 「もっと知ろうシリーズ」(美術館と共催)

◆第54回 令和4年6月10日(金)

演 題：「美術を解剖！ 色・形・モチーフ」

講 師：広島県立美術館春の所蔵作品展 各室担当学芸員

場 所：広島県立美術館 所蔵作品展示室(2階)

参加者：28人

(7) 美術鑑賞の旅

◆お散歩美術鑑賞会

◇第16回 ひろしま美術館「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」展

月 日：令和4年8月20日(土)

講 師：森 静花(ひろしま美術館学芸員)

参加者：15人

◇第17回 東広島市立美術館「笠間日動美術館『近代西洋絵画のコレクション』」展

月 日：令和5年3月18日(土)

講 師：松田 弘(東広島市立美術館館長)

参加者：40人

◆日帰り美術鑑賞旅行

◇東広島市立美術館「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展」

筆の里工房「光を描く旅人 野村重存の楽しいスケッチ画展」

なかた美術館「はじまりのバラ」

月 日：令和4年5月20日(金)

参加者：35人

◆宿泊美術鑑賞旅行

◇「関西の美術鑑賞の旅」 1泊2日

期 間：令和4年7月16日(土)～17日(日)

訪問美術館：

大阪中之島美術館「開館記念特別展 モディリアーニ -愛と創作に捧げた35年-」

中之島香雪美術館「陶技始末一河井寛次郎の陶芸」

大阪市立美術館「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」

神戸市立博物館「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」

参加者：31人



お散歩美術鑑賞会 2023.3.18

## Ⅳ 事業実施状況

事業名	事業内容	実施期間
展覧会		
124,398名		
特別展	県民に多様な美術作品の鑑賞機会を提供し本県の芸術文化の向上に資するため、特別展を開催した。	
73,691名		
(17,779名)	国立国際美術館コレクション 現代アートの100年	4月2日～5月29日
(4,549名)	【広島県主催事業】第10回新県美展(第74回広島県美術展)	6月11日～6月26日
(19,736名)	安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校	7月8日～9月4日
(21,763名)	皇室の美と広島－宮内庁三の丸尚蔵館の名品から－	9月16日～10月30日
(9,864名)	第69回日本伝統工芸展	2月15日～3月5日
所蔵作品展	広島県ゆかりの美術作品、日本とアジアの工芸作品、1920-30年代の美術作品をテーマとする当館の所蔵作品を展示し、県民の鑑賞に供した。	常時
50,707名		
教育普及	特別展、所蔵作品展等それぞれの事業に応じた学習の機会を提供することにより、県民の美術作品に対する関心を高め、理解を深めた。昨年度に引き続き、インスタライブなどオンラインでも実施した。	
一般		
美術講演会		
372名		
141名	現代アートの100年展	
(66名)	「現代美術をコレクションする」 講師：中井康之(国立国際美術館研究員)	4月2日(13:30～)
(75名)	「作り手たちとの出会い－内藤礼、小林孝亘、須田悦弘、塩田千春」 講師：島敦彦(国立国際美術館館長)	5月7日(13:30～)
65名	安野光雅展	
(65名)	「追悼 安野光雅先生」 講師：大矢鞆音(津和野町立安野光雅美術館館長)	7月8日(13:30～)
97名	皇室の美と広島展	
(97名)	「悠紀主基地方風俗歌屏風をめぐる」 講師：朝賀浩(宮内庁長官官房参事官)	9月17日(13:30～)
69名	伝統工芸展	
(69名)	「型的美を求めて～文様の起点と展開～」 講師：鈴木滋人(染織作家、重要無形文化財「木版摺更紗」保持者)	2月18日(13:30～)
美術講座		
60名	現代アートの100年展	
(60名)	「ベッヒャーからティルマンスまで ドイツ現代写真の位相」 講師：山下寿水(当館主任学芸員)	5月22日(13:30～)
記念対談		
49名	現代アートの100年展	
(49名)	「縫い、拭い、描く－絵画について考える」 講師：伊藤存(アーティスト、本展出品者)、小西紀行(画家、本展出品者)	4月9日(13:30～)
座談会		
102名	所蔵作品展	
(82名)	秋の所蔵作品展＋ 両館長座談会「ケンピ+ゲンピよもやま話」 講師：寺口淳治(広島市現代美術館館長)・千足伸行(当館館長)	11月3日(13:30～)
(20名)	秋の所蔵作品展＋ 担当学芸員たちによる公開反省(?)会＋今後の展望を語る(かも)会 講師：松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、小野佳奈(同館学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、山下寿水(当館主任学芸員)、岡地智子(当館学芸員)、森万由子(当館学芸員)	1月21日(13:30～)

事業名	事業内容	実施期間
リレートーク		
47名	所蔵作品展	
(7名)	春の所蔵作品展 角田新(当館主任学芸員)、山下寿水(当館主任学芸員)	4月22日(15:00~)
(9名)	春の所蔵作品展 神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館学芸員)	5月20日(15:00~)
(7名)	夏の所蔵作品展 角田新(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館学芸員)、森万由子(当館学芸員)	8月5日(15:00~)
(8名)	秋の所蔵作品展+ 松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、小野佳奈(同館学芸員)、角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)、山下寿水(当館主任学芸員)	11月18日(14:00~)
(10名)	秋の所蔵作品展+ 松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、小野佳奈(同館学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館学芸員) 講師:両館学芸員	12月9日(14:00~)
(6名)	冬の所蔵作品展 角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館学芸員)、森万由子(当館学芸員)	3月24日(15:00~)
スライドトーク		
123名	伝統工芸展	
(82名)	金城一国斎(漆芸作家)	2月23日(13:30~)
(41名)	小林松斎(木工作家)	3月4日(13:30~)
ギャラリートーク	イヤホンガイド使用	
150名		
60名	現代アートの100年展	
(15名)	山下寿水(当館主任学芸員)	4月15日(11:00~)
(15名)	山下寿水(当館主任学芸員)	4月29日(11:00~)
(15名)	山下寿水(当館主任学芸員)	5月13日(11:00~)
(15名)	山下寿水(当館主任学芸員)	5月27日(11:00~)
30名	安野光雅展	
(15名)	森万由子(当館学芸員)	7月15日(16:00~)
(15名)	森万由子(当館学芸員)	8月12日(16:00~)
60名	皇室の美と広島展	
(15名)	隅川明宏(当館主任学芸員)	9月23日(11:00~)
(15名)	隅川明宏(当館主任学芸員)	9月30日(11:00~)
(15名)	隅川明宏(当館主任学芸員)	10月21日(11:00~)
(15名)	隅川明宏(当館主任学芸員)	10月28日(11:00~)
インスタライブ		
722名		
312名	特別展	
(91名)	安野光雅展 森万由子(当館学芸員)	7月21日(17:00~)
(70名)	安野光雅展 森万由子(当館学芸員)	8月18日(17:00~)
(40名)	皇室の美と広島展 隅川明宏(当館主任学芸員) 英語:山下寿水(当館主任学芸員) 司会:福田浩子(当館学芸課長)	10月6日(17:00~)
(45名)	皇室の美と広島展 隅川明宏(当館主任学芸員) 英語:森万由子(当館学芸員) 司会:福田浩子(当館学芸課長)	10月13日(17:00~)
(66名)	伝統工芸展 粟根仁志(七宝作家)	2月22日(17:00~)
410名	所蔵作品展	
(56名)	春の所蔵作品展 ウェルカムギャラリー(洋画・日本画) 藤崎綾(当館主任学芸員)、隅川明宏(当館主任学芸員)	6月21日(17:00~)

事業名	事業内容	実施期間
(57名)	夏の所蔵作品展(日本洋画) 角田新(当館主任学芸員)	8月23日(17:00~)
(80名)	秋の所蔵作品展+(広島市現代美術館と合同による) 松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、山下寿水(当館主任学芸員)	11月8日(17:00~)
(85名)	秋の所蔵作品展+(広島市現代美術館と合同による) 松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)	11月29日(17:00~)
(54名)	秋の所蔵作品展+(広島市現代美術館と合同による) 松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)	12月20日(17:00~)
(78名)	秋の所蔵作品展+(広島市現代美術館と合同による) 松岡剛(広島市現代美術館主任学芸員)、岡地智子(当館学芸員)	1月10日(17:00~)
(43名)	冬の所蔵作品展(日本洋画) 角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)	3月7日(17:00~)
(52名)	冬の所蔵作品展 新収蔵(日本洋画・日本画・工芸) 角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)、隅川明宏(当館主任学芸員)、 岡地智子(当館学芸員)	3月14日(17:00~)
(47名)	冬の所蔵作品展(日本画) 神内有理(当館主任学芸員)	3月28日(17:00~)
(51名)	冬の所蔵作品展(西洋美術) 森万由子(当館学芸員)	令和5年 4月4日(17:00~)
対話型鑑賞		
44名	所蔵作品展	
(7名)	春の所蔵作品展(対面) 森万由子(当館学芸員)	4月23日(14:00~)
(6名)	春の所蔵作品展(オンライン) 森万由子(当館学芸員)	5月28日(10:00~)
(5名)	夏の所蔵作品展(対面) 森万由子(当館学芸員)	9月10日(14:00~)
中止	夏の所蔵作品展(オンライン) 森万由子(当館学芸員)	<del>10月8日(10:00~)</del>
(7名)	秋の所蔵作品展+(広島市現代美術館と合同による) 小野佳奈(広島市現代美術館学芸員)、森万由子(当館学芸員)	11月26日(14:00~)
(9名)	秋の所蔵作品展+(広島市現代美術館と合同による) 小野佳奈(広島市現代美術館学芸員)、森万由子(当館学芸員)	1月14日(14:00~)
(4名)	冬の所蔵作品展(オンライン) 森万由子(当館学芸員)	令和5年 4月1日(10:00~)
(6名)	冬の所蔵作品展(対面) 森万由子(当館学芸員)	令和5年 4月8日(14:00~)
ワークショップ		
100名	所蔵作品展	
(5名)	図工科ワークショップ「額縁を作ろう」 角田新(当館主任学芸員)	8月14日(14:00~)
(6名)	図工科ワークショップ「額縁を作ろう」 角田新(当館主任学芸員)	8月19日(14:00~)
(5名)	家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」 福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館学芸員)	10月1日(10:00~)
(5名)	家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」 福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館学芸員)	10月1日(13:30~)
(5名)	家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」 福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館学芸員)	10月2日(10:00~)
(5名)	家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」 福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館学芸員)	10月2日(13:30~)
(69名)	ゲンピの「ツールボックス」を使ってみたら、楽しい工作ができる(かも)ワークショップ 笹野摩耶(広島市現代美術館学芸員)、小野佳奈(同館学芸員)、森万由子(当館学芸員)	11月5日(10:00~)

事業名	事業内容	実施期間
コンサート	160名 (160名) 安野光雅展 おんがく：音楽室の楽器たち 演奏者：Duo(野口美紀&Terako)	7月29日(14:00～)
映画上映会	156名 (156名) 現代アートの100年展 「草間彌生∞INFINITY」(広島映画サークル協議会協力)	4月24日 (11:00～、14:00～)
特別鑑賞会	74名 (74名) 皇室の美と広島展 講師：隅川明宏(当館主任学芸員)	9月20日(16:30～)
児童・生徒		
ワークシートの作成	所蔵作品を鑑賞する児童・生徒に対し、学習補助教材として主要作品のワークシートを提供した。 (現在339種)	
ワークショップ	98名	
	82名 (55名) 安野光雅展 絵本の読みかたり 出演：渡辺美佳(広島ホームテレビアナウンサー)	7月25日(14:00～)
	(19名) 「世界にひとつの本をつくろう」 講師：ミヤタタカシ(イラストレーター、絵本作家)	8月6日(13:30～)
	(8名) 「ずこう：縮景園で『もりのえほん』をかいてみよう」 講師：弘津かおる(当館職員、アーティスト)、森万由子(当館学芸員)	8月10日(13:30～)
	10名 (10名) 皇室の美と広島展 子どもワークショップ「ミニ屏風に絵を描こう」&鑑賞会 講師：宮郷敦子(日本画家)、隅川明宏(当館主任学芸員)	10月15日(13:30～)
	6名 (6名) 伝統工芸展 子ども鑑賞コース ワークショップ「学芸員の仕事に挑戦しよう！」 福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館学芸員)、武井三聡子(朝日新聞広島総局長)	2月19日(13:30～)
安野光雅展プラネタリウム 投影	「星空ツアー 今夜の星空と『幻の星座さがし-夏秋編-』」 会場：5-Days子ども文化科学館プラネタリウム	7月10日～10月16日 の毎週日曜日(16:00～)
	(97名) スペシャルトーク回 森万由子(当館学芸員)	7月31日(16:00～)
日本伝統工芸展出張授業	希望校に日本工芸会正会員等が出向いて授業を行うことで、児童の制作の現場に接する機会を提供し、伝統工芸への理解を促進した。	
	(14名) 府中市立上下北小学校 講師：田代昭夫(漆芸)	11月21日
	(11名) 府中町立府中緑ヶ丘中学校 講師：金城一國齋(漆芸)	11月28日
手で見る展覧会	縮景園の「梅実収穫行事」に併せ、特別支援学校(視覚障害)の児童・生徒が作品に直接触れて美術を鑑賞する機会を提供した。	中止
各種リーフレット作成	施設案内、年間スケジュール等の美術館の活動について、広く県民へ告知した。	
友の会ギャラリーガイド	県立美術館友の会のボランティアのギャラリーガイドにより所蔵作品展の解説をした。	中止
	(一般ガイド) 0名 (団体ガイド) 0名 火～金曜日の14:00から実施(土・日・祝日は11:00からも実施)	
展示施設等貸出	展示施設等(県民ギャラリー・講堂)を貸出することにより、生涯学習の発表の場及び機会を提供し、県民の創作活動を支援した。	
観覧者等	72,615名 県民ギャラリー 利用団体数 76団体、利用日数 495延日 講堂(県民ギャラリー全室利用に併せ、展示室として利用)	令和4年4月4日 ～令和5年4月3日
利用者	7,040名 講堂 利用団体数 77団体、利用日数 95延日	令和4年4月1日 ～令和4年3月31日

## ※広島県立美術館における新型コロナウイルスの影響と対策、情報発信について

### (1) 美術館活動への影響の減少

当館も、世界的に多岐にわたり大きな影響を及ぼした新型コロナウイルスの影響によって、平成31・令和元年度から令和3年度にかけて新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館した。令和3年度は、5月10日～6月20日、8月7日～9月30日の2度にわたる臨時休館となった。令和4年度は4年ぶりに、新型コロナ感染拡大防止のための臨時休館をすることなく美術館活動を行うことができた。

### (2) イベントにおけるコロナ対策

前年度以来の館内コロナ対策（『令和3年度 広島県立美術館年報』PP.59-60 参照）は継続し、警戒を続けた。所蔵作品展・特別展といった展覧会は従来どおりに開催しつつ、イベントの中でも会話を伴うギャラリートークや対話型鑑賞会等はワイヤレス音声ガイドシステムを使用し、定員を設定して実施した。講演会や美術講座等の話者が単独で、聴衆が会話しないスタイルのイベントでは座席を元に戻した。一方で、当館友の会ボランティアによる所蔵作品展ギャラリーガイドは、同会判断によりこの年度も実施再開が見送られた。

### (3) 新しい広報ツール

コロナ下の情報発信ツールとして実施し始めた所蔵作品展・特別展の展示室からのインスタライブも回数を重ね、感染拡大防止を乗り越えて、現在では新しい広報ツールとしての可能性を模索している。

## V 業務一覧

広島県立美術館学芸員が令和4年度に行った業務を報告する。内容は、1 美術館内での業務等(館主体事業)、2 美術館外での業務等(他からの招聘等)、3 調査研究活動、4 社会貢献活動等・その他、に分類・配列し、記載している。学芸課職員の構成及び担当分野は次のとおり。

福田 浩子(学芸課長、工芸)	角田 新(主任学芸員、日本洋画)
藤崎 綾(主任学芸員、日本洋画)	神内 有理(主任学芸員、日本画)
山下 寿水(主任学芸員、西洋美術)	隅川 明宏(主任学芸員、日本画)
岡地 智子(学芸員、工芸)	森 万由子(学芸員、西洋美術)

### ■ 福田 浩子

#### 1 美術館内での業務等

##### 【展覧会】

- ・特別展「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」(事務局長)
- ・特別展「安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校」(事務局長)
- ・特別展「皇室の美と広島-宮内庁三の丸尚蔵館の名品から-」(事務局長)
- ・特別展「第69回日本伝統工芸展」(事務局員・広島会場作品選定)
- ・春の所蔵作品展(全体チェック、工芸副担当)
- ・夏の所蔵作品展(全体チェック、工芸副担当)
- ・秋の所蔵作品展+ 広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画(全体チェック、工芸副担当)
- ・冬の所蔵作品展(全体チェック、工芸副担当)

##### 【教育支援(教育普及)】

- ・特別展「皇室の美と広島」インスタライブ(10/6、13)
- ・特別展「日本伝統工芸展」中学生による職場体験学習(10/6、7)
- ・「子どもワークショップ「学芸員の仕事に挑戦しよう！」(2/19)
- ・夏の所蔵作品展インスタライブ(8/23)
- ・「家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」(10/1、2)
- ・博物館実習「講座 美術館と学芸活動」(8/22)、「作品取扱実習(工芸)」(8/25)

##### 【その他】

- ・アートと共生一体型プロジェクト(広島県、広島大学、広島県アートサポートセンター、当館)への協力
- ・ナイトミュージアムプログラム構築協力(広島県観光連盟、エクスペリサス(株)、指定管理者、当館)
- ・オリジナルミュージアムグッズ開発協力(指定管理者)

#### 2 美術館外での業務等

##### 【館外での発表など】

- ・全国美術館会議情報・資料部会オンライン参加(5/18)

##### 【その他】

- ・鳥インフルエンザ防疫作業(1/16)

#### 3 調査研究活動

##### 【館内外での調査・研究】

- ・染織作品・作家調査(4/6、11/18、1/17、2/10、3/17、22、29)
- ・陶磁作品・作家調査(8/29、9/14、11/28、2/24)
- ・漆工作品・作家調査(5/9、7/23)
- ・日本画作家調査(9/22)







### 【広報活動】

- ・特別展「皇室の美と広島」新聞寄稿(『読売新聞』10/8)
- ・秋の所蔵作品展+「ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展」ケーブルテレビ対応(11/1)

## 2 美術館外での業務等

- ・講演「戦前の広島日本画界を概観する」広島県美術館ネットワーク研修会(5/18)
- ・講演「広島が生み、育んだ芸術家たち」広信八丁堀経友会(1/18)
- ・鳥インフルエンザ防疫作業(1/20)

## 3 調査研究活動

### 【館内外での調査・研究】

- ・特別展「皇室の美と広島」に関する調査(6/13三の丸尚蔵館)
- ・所蔵作家調査：児玉希望(5/25、10/5、3/30)、佐々木邦彦(10/5、12/22、1/26)

### 【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)作家・作品解説『国立国際美術館コレクション 現代アートの100年』展覧会図録、国立国際美術館、広島県立美術館、大分県立美術館、令和4年4月
- ・(分担執筆)コラム、作品解説『皇室の美と広島-宮内庁三の丸尚蔵館の名品から-』展覧会図録、令和4年9月
- ・(分担執筆)概要説明、日本画解説、当館・広島市現代美術館概要解説、『秋の所蔵作品展+ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展』ガイドブック、令和4年10月

### 【館外出版物への執筆】

- ・「四季草花図屏風」児玉希望 琳派の様式にモダニズム」読売新聞、令和4年10月8日
- ・展覧会紹介「秋の所蔵作品展+ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展」について」『経済春秋』2022年11月号、令和4年11月
- ・展覧会紹介「秋の所蔵作品展+ケンビとゲンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第100号、広島県立美術館友の会、令和4年9月
- ・「所蔵作品紹介 奥田元宋《柳鷺》」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第101号、広島県立美術館友の会、令和5年1月
- ・「広島県立美術館 ウェルカムギャラリー「美術が好きな方も、これから好きになる方も、お気軽に」『美術ひろしま』第32号、広島市文化財団、令和5年1月

### 【その他】

- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C)「浮世絵から照射する日本近代美術-日本近代美術再考」(研究分担者)

## 4 社会貢献活動等・その他

### 【所属学会、外部委員、審査員など】

- ・京都芸術大学通信教育部非常勤講師(博物館生涯学習概論担当)
- ・京都国立近代美術館美術作品購入等評価委員会委員(8/29)
- ・紺綬褒章価格評価(京都国立近代美術館、愛媛県美術館)

### 【研修・自己啓発】

- ・広島県美術館ネットワーク令和3年度研修会(5/18奥田元宋・小由女美術館)
- ・全国美術館会議 第37回学芸員研修会「美術館の防災対策」(3/20オンライン参加)

## ■ 山下 寿水

### 1 美術館内での業務等

#### 【担当展覧会】

- ・特別展「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」(主担当)
- ・特別展「おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」(次年度・主担当)
- ・春の所蔵作品展(西洋美術担当)
- ・秋の所蔵作品展+広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画(西洋美術担当)



【所属学会、外部委員など】

- ・ 広島芸術学会委員、日本展示学会、ICOM(国際博物館会議)

## ■ 隅川 明宏

---

### 1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・ 特別展「皇室の美と広島－宮内庁三の丸尚蔵館の名品から－」(主担当)
- ・ 特別展「第10回新県美展(第74回広島県美術展)」(副担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・ 特別展「皇室の美と広島」ギャラリートーク(9/23、30、10/21、28)
- ・ 「」 インスタライブ(10/6、13)
- ・ 「」 講演会司会進行(9/17)
- ・ 「」 ワークショップ(10/15)
- ・ 春の所蔵作品展インスタライブ(6/21)

【広報活動】

- ・ 特別展「皇室の美と広島」テレビ対応(9/22)
- ・ 「」 ラジオ対応(9/26、27)
- ・ 「」 新聞・雑誌寄稿(『読売新聞』9/30、『月刊経済春秋』9月号、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第99号)

### 2 美術館外での業務等

- ・ 出張講座「名勝縮景園の歴史と美意識」(4/20広島市中央公民館、令和5/3/26海田町・旧千葉家住宅)
- ・ 日本造園建設業協会主催講座「大災害を乗り越えた奇跡の名園・縮景園」(11/21リーガロイヤルホテル広島)
- ・ 文化庁主催令和4年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」成果報告会(12/8)
- ・ 鳥インフルエンザ防疫作業(1/17)

### 3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・ 広島近世・近代美術に関する調査研究

【館内出版物への執筆】

- ・ (分担執筆)『皇室の美と広島－宮内庁三の丸尚蔵館の名品から－』展覧会図録、令和4年9月
- ・ 「江戸時代の縮景園を描いた画家たちについて」『広島県立美術館研究紀要』第26号、令和5年3月

【館外出版物への執筆】

- ・ 「広島に息づく近世の名品 第37回 木下順庵賛 中澤藤左衛門筆《神崎八景》－厳島神社の大鳥居に注目して」『Grandeひろしま』VOL.40、令和5年3月

### 4 社会貢献活動等・その他

【審査委員等】

- ・ 公益財団法人ひろしまドナーバンク主催「グリーンリボンデザイン公募プロジェクト」審査(12/28)

【所属学会】

- ・ 広島芸術学会委員

## ■ 岡地 智子

---

### 1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・ 特別展「皇室の美と広島－宮内庁三の丸尚蔵館の名品から－」(副担当)
- ・ 特別展「第69回日本伝統工芸展」(主担当)
- ・ 春の所蔵作品展(工芸担当)

- ・夏の所蔵作品展(工芸担当)
- ・秋の所蔵作品展+ 広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画(工芸担当)
- ・冬の所蔵作品展(工芸担当)

#### 【教育支援(教育普及)】

- ・特別展「日本伝統工芸展」中学生による職場体験学習(10/6、7)
- ・          〃          出張授業補助(11/21、28)
- ・          〃          団体解説(2/17、3/3)
- ・          〃          講演会司会進行(2/18)
- ・          〃          こどもワークショップ「学芸員の仕事に挑戦しよう！」(2/19)
- ・          〃          インスタライブ進行(2/22)
- ・          〃          スライドトーク進行(2/23、3/4)
- ・春の所蔵作品展リレートーク(5/20)
- ・夏の所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー(6/18)
- ・          〃          リレートーク(8/5)
- ・          〃          家庭科ワークショップ「刺しゅうのしおり作り」(10/1、2)
- ・秋の所蔵作品展+リレートーク(12/9)
- ・          〃          インスタライブ(1/10)
- ・          〃          公開反省(?)会+今後の展望を語る(かも)会(1/21)
- ・冬の所蔵作品展インスタライブ(3/14)
- ・          〃          リレートーク(3/24)
- ・令和5年度第1期所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー(3/11)
- ・博物館実習「作品取扱実習(工芸)」(8/25)

#### 【広報活動】

- ・特別展「皇室の美と広島」新聞寄稿(『読売新聞』10/14)
- ・特別展「日本伝統工芸展」テレビ対応(2/15)
- ・          〃          新聞・雑誌寄稿(『月刊経済春秋』1月号、『広島交響楽団プログラム』1/20、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第101号、朝日新聞作品解説記事2/18、20、22)

## 2 美術館外での業務等

- ・出張講座「広島がはぐくんだ伝統工芸「高盛絵」」(9/30口田公民館、3/9広瀬神社)
- ・鳥インフルエンザ防疫作業(1/15)

## 3 調査研究活動

#### 【館内外での調査・研究】

- ・特別展「皇室の美と広島」に関する調査(6/13三の丸尚蔵館)
- ・作家・作品調査(漆工5/9、陶磁8/29、12/15、16、金工11/4、9、染織11/11)

#### 【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)章解説、作品解説、コラム『皇室の美と広島-宮内庁三の丸尚蔵館の名品から-』展覧会図録、令和4年9月
- ・(分担執筆)『秋の所蔵作品展+ ケンビとケンビの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展』ガイドブック、令和4年10月
- ・『第69回日本伝統工芸展こどもガイド 工芸技法キャラクター図鑑5』令和5年2月
- ・(共著)「広島県立美術館所蔵南蛮漆器書見台についての調査報告-東京国立博物館所蔵南蛮漆器書見台CT調査結果との比較を通じて-」、『広島県立美術館研究紀要』第26号、令和5年3月

#### 【館外出版物への執筆】

- ・「第68回日本伝統工芸展広島展報告」『日本工芸会中国支部会報』第28号、令和4年10月
- ・「緑地帯 ヨーロッパを旅した伊万里焼」『中国新聞』、令和4年4月19日~23日、26日~28日(8回連載)



楽団プログラム』7/8、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第99号)

- ・特別展「日本伝統工芸展」新聞・雑誌寄稿(朝日新聞作品解説記事2/21、25)

#### 【その他】

- ・サイン計画策定業務

## 2 美術館外での業務等

- ・出張講座「話しながら見てみようーみんなで楽しむ美術鑑賞ー」(5/7、8/20リワークセンター大手町、10/15リワークセンター横川、11/15叡啓大学「虹カフェ」、2/21広島アライアンス教会「公園カフェはくしま」)
- ・広島大学大学院人間社会科学研究科 学習開発学発展研究「美術館と学校教育との連携」(1/31オンライン)
- ・鳥インフルエンザ防疫作業(1/17)

## 3 調査研究活動

### 【館内外での調査・研究】

- ・公益財団法人鹿島美術財団 美術に関する調査研究助成「モーリス・ドニの公共建築装飾」(2022年5月～2023年4月)
- ・西洋美術作家・作品調査(11/17-18)

### 【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)作家・作品解説『国立国際美術館コレクション 現代アートの100年』展覧会図録、国立国際美術館、広島県立美術館、大分県立美術館、令和4年4月

### 【館外出版物への執筆・発表】

- ・(共著)“An Online Art Project Based on the Affirmative Model of Disability in Japan”, *International Journal of Art & Design Education*, First published: 14 October 2022 (<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jade.12438>) iJADE 41.4 (2022) 2022 National Society for Education in Art and Design and John Wiley & Sons Ltd.
- ・「安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校」広島ロータリークラブ例会卓話(6/14リーガロイヤルホテル広島)
- ・「広島県立美術館の成り立ちと機能」早稲田大学総合研究機構 都市と美術研究所 第24回研究会(7/19オンライン)
- ・「モーリス・ドニ作 フランス元老院階段天井画《正義と平和》をめぐる」日仏美術学会第166回例会(12/10オンライン)
- ・(共著)「障害のある人のオンライン対話型鑑賞：コミュニティにおけるアートベース・プロジェクト」『美術教育学(美術科教育学会誌)』第44号、美術科教育学会、令和5年3月
- ・「別荘地としてのブルターニューモーリス・ドニの私的な楽園ー」『ブルターニュの光と風』展覧会図録、SOMPO美術館、福島県立美術館、静岡市美術館他、令和5年3月

## 4 社会貢献活動等・その他

### 【研修・自己啓発】

- ・早稲田大学総合研究機構 都市と美術研究所 第23回研究会(6/28オンライン)
- ・日仏美術学会 第165回例会(7/9オンライン)
- ・せとうち美術館ネットワーク第3回分科会「学校と連携した美術教育普及」(7/28オンライン)
- ・京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センター主催「VTC/VTS日本上陸30周年記念フォーラム2022 「対話型鑑賞のこれまでとこれから」」(8/20-21オンライン)
- ・広島県美術館ネットワーク令和4年度研修会(12/12東広島市立美術館)
- ・全国美術館会議 教育普及研究部会第58回会合(後日配信視聴)

### 【所属学会】

- ・全国美術館会議教育普及研究部会、日仏美術学会、美学会、早稲田大学美術史学会、ICOM(国際博物館会議)



## Ⅵ 入館者数一覧

展覧会名	所蔵作品展	特 別 展				
		国立国際美術館 コレクション 現代アートの100年	第10回新県美展 (第74回広島県美術展)	安野光雅美術館 コレクション 安野先生のふしぎな学校	皇室と美と広島 -宮内庁三の 丸尚蔵館の名品から-	
開催期日	R4. 4. 1 ～ R5. 3. 31	R4. 4. 2 ～ R4. 5. 29	R4. 6. 11 ～ R4. 6. 26	R4. 7. 8 ～ R4. 9. 4	R4. 9. 16 ～ R4. 10. 30	
開催日数	295 日	51 日	16 日	59 日	40 日	
個人	一般	7,733	6,476	2,283	4,647	7,304
	高・大学生	1,144	465	79	349	179
	小・中学生	—	398	—	840	—
	小計	8,877	7,339	2,362	5,836	7,483
団体	一般	21	6,222	342	8,121	10,034
	高・大学生	—	218	8	394	138
	小・中学生	—	283	—	1,269	—
	小計	21	6,723	350	9,784	10,172
有料入館者数	8,898	14,062	2,712	15,620	17,655	
招待者等	41,809	3,717	1,837	4,116	4,108	
合計 (観覧者総数)	50,707	17,779	4,549	19,736	21,763	
一日あたり 観覧者数	172	349	284	335	544	

(注) 「1日あたり観覧者数」は、小数点以下第1位を四捨五入。

所蔵作品展の団体人数には、所蔵作品展と縮景園の共通入館者を含む。

所蔵作品展の「高・大学生」欄は、平成14年度の条例改正の無料化により、高校生を含まない。

「皇室と美と広島-宮内庁三の丸尚蔵館の名品から-」、「第69回日本伝統工芸展」は中学生以下を無料とした。

招待者等には、減免及び無料入館者を含む。

「第10回新県美展(第74回広島県美術展)」以外は実行委員会主催。

団体人数には、前売り及び割引入館者を含む。

展 覧 会 名		第69回 日本伝統工芸展	合 計	総 計
		R5. 2. 15 ～ R5. 3. 5		
開 催 期 日		R5. 2. 15 ～ R5. 3. 5		
開 催 日 数		19 日	185 日	480 日
個 人	一 般	4,163	24,873	32,606
	高・大学生	176	1,248	2,392
	小・中学生	—	1,238	1,238
	小 計	4,339	27,359	36,236
団 体	一 般	3,372	28,091	28,112
	高・大学生	67	825	825
	小・中学生	—	1,552	1,552
	小 計	3,439	30,468	30,489
有料入館者数		7,778	57,827	66,725
招 待 者 等		2,086	15,864	57,673
合 計 (観覧者総数)		9,864	73,691	124,398
一 日 あ た り 観 覧 者 数		519	398	259

## Ⅶ 美術品等収集状況

### 1 分野別収集美術品数一覧

(令和5年3月31日現在)

種 目		一般購入	基金購入 (H2年度以降)	購入総数	寄 附	所 管 換	合 計	受 託
絵 画	日 本 画	46	60	106	244 (2)	3	353 (2)	15
	油 彩 画	230	62	292	552 (5)	4	848 (5)	207
	水 彩 画	89	4	93	217	0	310	1
	素 描	44	20	64	297	0	361	20
	パステル画 アクリル画	1	0	1	6	0	7	0
	版 画	53	180	233	349	0	582	0
	拓 本	26	0	26	51	0	77	0
	平面造形ほか	3	56	59	2	0	61	0
彫 塑	8	23	31	72	0	103	6	
工 芸	112	1,184	1,296	346 (17)	4	1,646 (17)	4 (0-1)	
書	5	0	5	93	1	99	1	
美 術 資 料	2	2	4	719 (1)	0	723 (1)	2	
合 計	619	1,591	2,210	2,948 (25)	12	5,170 (25)	256 (0-1)	

※( )内は4年度の収集点数。受託欄は、左側が受託数、右側が返還数、合計欄は差引数。

令和3年度年報の分野別収集美術品数一覧を次のとおり訂正します。

(令和4年3月31日現在)

種 目		一般購入	基金購入 (H2年度以降)	購入総数	寄 附	所 管 換	合 計	受 託
絵 画	日 本 画	46	60	106	242 (1)	3	351 (1)	15 (2-0)
	油 彩 画	230	62	292	547 (4)	4	843 (4)	207 (0-4)
	水 彩 画	89	4	93	217	0	310	1
	素 描	44	20	64	297	0	361	20
	パステル画 アクリル画	1	0	1	6	0	7	0
	版 画	53	180	233	349	0	582	0
	拓 本	26	0	26	51	0	77	0
	平面造形ほか	3	56	59	2	0	61	0
彫 塑	8	23	31	72 (1)	0	103 (1)	6	
工 芸	112	1,184	1,296	329 (17)	4	1,629 (17)	5 (0-1)	
書	5	0	5	93	1	99	1 (1-0)	
美 術 資 料	2	2	4	718 (44)	0	722 (44)	2	
合 計	619	1,591	2,210	2,923 (67)	12	5,145 (67)	257 (3-5)	

※( )内は3年度の収集点数。受託欄は、左側が受託数、右側が返還数、合計欄は差引数。

## 2 収集美術品一覧

No.	分類	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	取得区分
1	日本画	児玉希望	水川の農家	1957(昭和32)頃	44.9×53.0	紙本金泥墨画	寄附
2	日本画	清水南山	山水図	不詳	127.0×51.0	紙本墨画淡彩	寄附
3	油彩画	山路 商	ソビエツト領事館の裏	1931(昭和6)	69.0×71.5	油彩・画布	寄附
4	油彩画	神田周三	八本松ゴルフ場	1941(昭和16)	38.2×45.7	油彩・画布	寄附
5	油彩画	野見山暎治	誰かが呼んでいる	1992(平成4)頃	97.3×130.5	油彩・画布	寄附
6	油彩画	野見山暎治	見失った顔	1993(平成5)頃	97.0×130.3	油彩・画布	寄附
7	油彩画	野見山暎治	もう一つの約束	2008(平成20)頃	91.0×117.0	油彩・画布	寄附
8	漆工	三代金城一國斎	花虫図高盛絵茶托	1897(明治30)	高1.9 径7.8	木・漆・堆彩漆・高盛絵	寄附
9	漆工	三代金城一國斎	観瀑図高盛絵香合	1911(明治44)	高3.8 8.0×8.0	木・漆・堆彩漆・高盛絵	寄附
10	漆工	三代金城一國斎 (または四代)	紅瓜に虫高盛絵香盆	1894(明治27)	高3.0 径28.3	木・漆・堆彩漆・高盛絵	寄附
11	漆工	三代金城一國斎	堆彩漆草花図四方膳	1914(大正3)	高3.5 38.5×38.5	木・漆・堆彩漆・高盛絵	寄附
12	漆工	四代金城一國斎	葡萄に蜂高盛絵香筒	不詳	長34.0 径2.5	木・漆・堆彩漆・高盛絵	寄附
13	漆工	鯉城政廣	柘榴図香筒	1933(昭和8)	長40.8 径2.3	竹・漆・堆彩漆・高盛絵	寄附
14	漆工	池田泰真	朝顔蒔絵煙管筒	不詳	縦22.0 横2.8 幅2.0	木・漆・蒔絵	寄附
15	金工	清水南山	竹文指輪	不詳	2.0×1.0	銀・彫金	寄附
16	金工	清水南山	飛雁文しおり	不詳	12.2×1.4	銀・彫金	寄附
17	陶磁	林 康夫	枯葉「階段」	1975(昭和50)	高43.5 60.5×27.0	陶・磁	寄附
18	陶磁	林 康夫	Focus 83-10	1983(昭和58)	高45.0 43.0×25.0	陶	寄附
19	陶磁	林 康夫	Appear Brown '94- 2	1994(平成6)	高30.0 37.0×35.0	陶	寄附
20	陶磁	林 康夫	寓舎「想」	2006(平成18)	高39.5 32.0×21.0	陶	寄附
21	陶磁	林 康夫	寓舎「白いゲートライン'08-1」	2008(平成20)	高29.0 30.0×25.0	陶	寄附
22	その他の工芸	作者不詳	立涌文煙管筒 付煙管	不詳	縦22.5 横2.8 幅2.3	(煙管筒)象牙	寄附
23	その他の工芸	作者不詳	野菜象嵌煙管筒 付煙管・煙草入	不詳	(煙管筒)縦22.7 横2.8 幅2.0 (煙草入)13.0×7.5	(煙管筒)籐編み・象嵌 (煙草入)金唐革・金属	寄附
24	その他の工芸	作者不詳	煙草入 付根付	不詳	(煙草入)11.0×9.0	(煙草入)金唐革・金属 (根付)象牙	寄附
25	絵画資料		第1回芸州美術協会展 関連資料	1936(昭和11)	26.0×53.3	印刷・紙	寄附

### 3 新規収集美術品より

#### (1) 児玉 希望《氷川の農家》

児玉希望(こだま きぼう 明治31年－昭和46年 1898－1971)は広島県安芸高田市生まれ。川合玉堂の門下に入って、官設の美術展を舞台に活躍。師ゆずりの確かな筆法と自然観察の眼、鋭い色彩感覚を併せ持ち、山水・人物・花鳥など、いずれの主題にも洗練された大作を数多く発表。戦後には西洋絵画も積極的に学び、作風の転換を試みた。奥田元宋・佐藤太清らはその弟子。

墨と金泥を使い、油彩画風の荒々しいタッチで描かれた本作は、希望が昭和32(1957)年に渡欧し、ローマ、パリを中心に約一年間滞在した折に制作されたと考えられる。墨や金泥という伝統的な技法を用いながら、線描ではなくペインティングで仕上げた点に、戦後の日本画が進むべき道を見定めようとした希望の試行が見て取れる。昭和32(1957)年にローマ、ヴェネツィア、ミラノで開催された「児玉希望作品展覧会」図録に掲載が確認出来る。



No.1 児玉 希望《氷川の農家》

#### (2) 山路 商《ソビエット領事館の裏》

山路商(やまじ しょう 明治36年－昭和19年 1903－1944)は新潟県長岡市生まれ。大正時代半ばに広島に移住、大正末から画壇で作品を発表した。田中万吉、灰谷正夫、福井芳郎ら、昭和期の広島洋画壇を支えた新進作家とともに美術グループを結成したほか、詩や舞台装置など多分野で活動を展開。戦前期の広島における前衛美術運動のリーダーとして活躍した。鬘光との交友は終生続き、強い影響を与えた作家としても知られる。

『第2回郷土物故作家展』(広島県立美術館、1972年)に出品された本作は、《大連風景》と紹介されている。作品に制作年は記入されていないが、山路が大連を訪れたのは昭和6(1931)年5月からの40日間であり、本作も昭和6(1931)年頃の作品と考えられる。この旅行には日本画家船田玉樹も同行しており、1930年代広島の美術状況を跡付ける意味でも重要な作品と言える。現存作品が少ない山路の作品の中にあっては比較的大きさもあり、しっかりと描きこまれた作品で、画業中期を迎えた山路の力量を示す佳品と言える。



No.2 山路 商《ソビエット領事館の裏》

#### (3) 神田 周三《八本松ゴルフ場》

神田周三(かんだ しゅうぞう 明治27年－昭和47年 1894－1972)は、広島市生まれ。明治43(1910)年に上京し、石井柏亭に師事した。大正5(1916)年の二科会創立第1回展に入選し、昭和4(1929)年には帝展に入選するなど早くから才能を発揮する。昭和20(1945)年8月、広島市内で被曝し、戦後10年あまりは病床に伏したが、昭和30(1955)年に「原爆死の行進」を一水会展で発表したのを皮切りに、原爆を主題とした作品の発表をつづけた。



No.3 神田 周三《八本松ゴルフ場》

作品背面に「八本松ゴルフ場／昭和16年10月寫／神田周三」と記入されており、神田周三が現在の広島カンツリー倶楽部八木松コースを描いたものと考えられる。小品ではあるが比較的素直な描写で、しっかりと描きこまれた画面は、時代の持つ独特の雰囲気も現れており、作家の画業を追う上で重要である。また、このゴルフ場は、翌昭和17(1942)年、軍に接収・閉鎖され、戦後は広島大学水畜産学部(賀茂農場)の実習農場に転用、また会員の多くが被爆したこともあり、昭和37(1962)年まで再開業できなかった。こうした視点から、被爆地広島の歴史を振り返る歴史資料とも位置付けられる。

#### (4) 野見山暁治《誰かが呼んでいる》《見失った顔》《もう一つの約束》

野見山暁治(のみやま ぎょうじ 大正9年-令和5年 1920-2023)は炭鉱の町であった福岡県穂波村に生まれた。戦時下に東京美術学校を卒業後、応召や終戦を経て活動を再開。原風景ともいえる炭坑を主題に制作に取り組んだ後、1950年代から12年近くを主にフランスで過ごした。西洋的な造形感覚、立体感や量感表現等を自らのものとする一方、東洋絵画に新たな可能性を見出し昭和39(1964)年に帰国。以後、美術団体に所属することなく作品発表を続け、今日に至っている。油彩画の制作を主としつつ版画や水彩・素描の発表も継続して行うほか、戦没画学生の顕彰のための取り組み、さらには文筆活動でも知られている。

作者は、西洋美術の造形性を学ぶために渡欧し、「空間を支配する量の重み」としての「かたち」の表現を身につける一方、留学の後半期には、中国絵画との出会いを経て、合理的な西洋絵画とは全く異なる東洋絵画の造形感覚に目を開かれたと語っている。新たな表現の可能性を見出して帰国した後は、かたちの制約から解放され、不定形の形や動きを伴った表現が見られる作風へと本格的に移行。昭和51(1976)年に福岡県の岬にアトリエを構えた後は、広大な空や海と対峙しつつ、自然の変化に触発された大画面の作品を描くようになった。さらに平成3(1991)年、台風によってアトリエの甕が割れる現場に遭遇した作者は、自然の変化や恐ろしさを目の当たりにし、以後、変化し続ける自然の実態を突き止めるかのように、作者にとって「ある生きもの」であるがゆえに「静止していない」形を描き続けている。このたびの3点は、いずれも作者にとって重要なこの体験を経た後の作で、刻々と移り変わるイメージの変化を辿ったような流動的な表現を伴い、動きや気配に満ちたダイナミックな画面であるとともに、奔放な筆致や絵具の垂れといった描写の特色も見られる。

《見失った顔》は『100歳記念 すごいぞ！野見山暁治のいま展』(日本橋高島屋・京都高島屋、2021年)の、《もう一つの約束》は『野見山暁治展』(ギャラリー山口、2008年)の出品作である。



No.4 野見山暁治《誰かが呼んでいる》



No.5 野見山暁治《見失った顔》



No.6 野見山暁治《もう一つの約束》

#### (5) 三代金城一國齋の漆工作品

三代金城一國齋(さんだい きんじょう いっこくさい 文政12年-大正4年 1829-1915)は広島生まれ。金城一國齋は尾張徳川家のお抱えであった初代に始まり、二代一國齋により高盛絵(たかもりえ)の技法が創始されて広島に伝えられ、当地においてそれを受け継いだ三代一國齋により、高盛絵の技法は完成され、以後、父子相伝により技法を継承して今日に至ったものである。高盛絵は漆工技法的には堆彩漆であり、生漆と砥の粉を混ぜ合わせたペーストを器物の上に盛り上げ、形を整えた後に色漆で彩色するもの。広島における数少ない伝統工芸(漆工)のひとつである。

《花虫図高盛絵茶托》:箱蓋表に「茶托 壺組」、箱蓋裏に「明治卅年五月落製 廣陵金城一國齋(朱印)」の箱書きがある。竹に蜻蛉、梅に蝶、菊に蜂、蘭にバッタのように絵替わりの茶托である。それぞれの底裏に「金城」「一國齋」の朱漆印が捺されている。

《観瀑図高盛絵香合》:蓋の右側に波濤を散らす白滝と崖から枝を伸ばす松、それを見上げる唐人の身なりをした高士、従者が高盛絵で表現された香合。側面に植物連続文、内側は黒漆塗り。作品の身の裏に「金城一國齋 八十三歳作」の朱漆銘。箱蓋裏に「〇〇〇〇髻 金城一國齋 八十三翁(朱印)」の箱書きがある。

《紅瓜に虫高盛絵香盆》:木地の周縁部に紅瓜と蜂などの虫を巡らせた香盆である。作品裏に「一國齋」の朱漆銘。箱蓋裏に「明治廿有七年八月製 廣陵金城一國齋 六拾六歳作(朱印)」とあり、箱書きによれば三代の作となる。

《堆彩漆草花図四方膳》:同作はもともと10枚セットで、既収蔵の「堆彩漆草花図四方膳」5枚と兄弟作品である。



No.7 三代金城一國齋《観瀑図高盛絵香合》

#### (6) 四代金城一國齋《葡萄に蜂高盛絵香筒》

四代金城一國齋(よんだい きんじょう いっこくさい 明治9年-昭和36年 1876-1961)は、広島市生まれ。父である三代一國齋に漆芸を学び、父とともに精進して各種の博覧会や展覧会へ出品することで一國齋の名を全国へ広めた。

本作は葡萄と蜂を高盛絵の技法で表現した香筒である。ぽってりとした葡萄の実、葉や蔓の上空に一國齋が得意とする蜂を1匹飛ばす。四代作の可能性が高いと考えられる。香筒側面に、朱漆で「一國齋(ママ)」の銘あり。箱の蓋表に「蜂に葡萄乃圖 香筒」、蓋裏に「金城 一國齋(ママ)」(朱印)。「齋」ではなく「齊」なことに意味があるのか不明。



No.8 四代金城一國齋《葡萄に蜂高盛絵香筒》

#### (7) 鯉城 政廣《柘榴図香筒》

鯉城政廣(りじょう まさひろ 生没年不詳)は、略歴不詳の人物でその生涯は判然としない。箱書や作品に記された銘に鯉城政廣とあるから広島的人物、あるいは広島で活躍した人物であることが理解される。

本作は、竹製の香筒に柘榴を高盛絵(堆彩漆)であらわす。金城一國齋以外の作者による高盛絵作品は散見でき、複数の制作者が存在したことをうかがわせる。香筒側面にぱっくりと開いた柘榴の実と花、その上に蜂を飛ばせる構図は金城一國齋に酷似している。側面に朱漆で「鯉城政廣 造」。箱蓋表に「香筒 柘榴図」、箱蓋裏に「昭和八年夏日 鯉城政廣(「政廣」朱文白印)造」。昭和八年の箱書きは、三代金



No.9 鯉城 政廣《柘榴図香筒》

城一国斎より後、四代金城一国斎と同時期に鯉城政廣が活動していたことがわかる貴重な資料となる。

#### (8) 池田 泰真《朝顔蒔絵煙管筒》

池田泰真(いけだ たいしん 文政8年-明治36年 1825-1903)は三河国西尾藩士・池田新五郎の第5子として江戸赤坂に生まれた。幼少より画を好み、11歳で柴田是真に入門。以後25年の長きにわたって是真のもとで画と蒔絵の研鑽に努めた。維新後は内外の博覧会で活躍し、明治29(1896)年には川之辺一朝とともに蒔絵専門のはじめての帝室技芸員に任命された。

本作は高蒔絵で朝顔を表した煙管筒。花は黒漆に芯を銀研出とした黒蒔絵で、葉の一部を石目塗で仕上げている。裏面の左下に「泰真」の蒔絵銘がある。



No.10 池田 泰真《朝顔蒔絵煙管筒》

#### (9) 清水 南山《竹文指輪》《飛雁文しおり》《山水図》

清水南山(しみず なんざん 明治8年-昭和23年 1875-1948)は現在の広島県三原市生まれ。東京美術学校で加納夏雄、海野勝珉などについて彫金古作を研究。奈良での古美術研究の成果が認められ、大正8(1919)年に東京美術学校教授となり、以後日本金工界の重鎮として活躍した。わが国の近代工芸界を代表する作家であり、その後の多くの作家に影響を与えた。

《飛雁文しおり》は、表に飛雁文、裏に中国南宋の儒学者・朱熹(1130-1200)が18歳の時に詠んだという詩を、作者が得意とした毛彫りで表す。



No.11 清水 南山《飛雁文しおり》

#### ■朱熹の詩

『勿謂今日不學有來日勿謂今年不孝有未年日月逝矣年興我不延嗚呼老矣是誰之誤』

#### (10) 林 康夫の陶芸作品

林康夫(はやし やすお 昭和3年- 1928-)は京都府に生まれ、はじめ日本画家を目指して京都市立美術工芸学校絵画科(日本画)に進学した。応召、復員を経て、京都市立美術専門学校に編入学し、再び日本画を学んだが、陶芸家の父のもと、家業を手伝いはじめ、陶芸の道へ。昭和22(1947)年に前衛陶芸グループ四耕会に参加。昭和37~52(1962~77)年、走泥社同人。戦後いち早く用途にこだわらない陶芸のオブジェを作り始め、国際舞台での活躍も目覚ましく、フェアエンツァ国際陶芸美術コンクール、ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレのグランプリに輝く。いまなお在野の精神にのっとり制作を続けている。

《枯葉「階段」》は、赤茶の焼締陶の上に大きく白化粧を施す。それまではひとつの塊としての表現を繰り広げてきた作者の造形における空間の意識が、建築的広がりを求め始めたとみることができる作品。昭和50(1975)年の『第38回走泥社展』(京都市美術館)出品作。

《Focus 83-10》と《Appear Brown '94-2》は、前の時期の焼締に代わって、黒化粧が主体の作品。白い線や濃淡のグラデーションを立体に重ねて描く手法により、架空の三次元空間を出現させている。《Focus 83-10》は昭和58(1983)年の『林康夫展』(大阪・茶屋町画廊)出品作。《Appear Brown '94-2》は平成6(1994)年の『林康夫作陶展』(赤坂グリーン・ギャラリー)出品作。

《寓舎「想」》と《寓舎「白いゲートライン'08-1」》は黒化粧作品に連なるものだが、そこに屋根を被せることで家のイメージをもたせた作品。寓舎シリーズは2000年代から十数年にわたり制作し続けたもので、作家にとって特別なテーマと思われる。《寓舎「想」》は平成18(2006)年の『林康夫—オブジェ陶の幻惑展』

(三重・パラミタミュージアム)出品作。《寓舎「白いゲートライン'08-1」》は平成20(2008)年の『林康夫展』(高島屋京都店)出品作。



No.12~13 林 康夫《枯葉「階段」》〈Focus 83-10〉 林康夫『林康夫作品集』河出書房新社、1998年より転載

### (11) 喫煙具3点

《立涌文煙管筒》は象牙を削り貫いて作られた煙管筒。全面に立涌文を彫り上げ、その精緻さが目を引く。蒔絵で菊をあしらった竹羅宇の煙管が付属する。

《野菜象嵌煙管筒》は籐の蔓を編み上げる籐編みの技法で作られた煙管筒で、表面に蓮根や茄子、胡瓜などの野菜の図柄を象嵌する。裏面に「昭玉」の銘があるが詳細は不明。銀製の煙管と金唐革の煙草入が付属する。

《煙草入》は金唐革製で、象牙透かし彫りの根付が付属する。煙草入と根付をつなぐ2cmほどの緒締に蟹を2匹彫り表すなど、遊び心が感じられる。



No.14 《野菜象嵌煙管筒》

### (12) 《第1回芸州美術協会展 関連資料》

本資料は、第1回芸州美術協会展(会場：広島県産業奨励館／現 原爆ドーム)の広報用印刷物。同展は、昭和11(1936)年に広島出身で、東京で活躍する日本画家・丸木位里(1901-1995)、船田玉樹(1912-1991)、洋画家・鬨光(1907-1946)、野村守夫(1904-1979)、彫刻家・中川為延(1904-1967)を支援するために開催された展覧会で、その質の高さと多くの来場者を得たことから「近來の大出来」と雑誌で評される成功を収めた。画家たちにとって転機の一つとなり、また戦前の広島文化を象徴する展覧会としても知られる。

## Ⅷ 美術品等の貸出し

種別	作者名など	作品名	貸出先・会場	目的（展覧会名）	会期
日本画	奥田元宋	柳鷺	奥田元宋・小由女美術館	文化勲章受章記念 奥田小由女展—元宋作品 とともに	4. 4. 29 ~ 6. 14
	奥田元宋	待月			
	奥田元宋	室戸			
	奥田元宋	筒石			
	奥田元宋	秋巒真如			
人形	奥田小由女	孤愁			
日本画	川端玉章	ナイアガラ瀑布図	京都市京セラ美術館	綺羅めく京の明治美術—世界 が驚いた帝室技芸員の神業	4. 7. 23 ~ 9. 19
	熊谷直彦	十二ヶ月山水図			
日本画	菱田春草	荘重（高士望岳）	下関市立美術館	山水画と風景画のあいだ —真景図の近代	4. 8. 20 ~ 10. 16
	川合玉堂	溪村春麓図			
	竹内栖鳳	城址			
彫刻	平櫛田中	落葉	小平市平櫛田中彫刻 美術館	生誕150年 平櫛田中	4. 9. 17 ~ 11. 27
日本画	狩野派	巖島図	香川県立ミュージアム	風景が物語る瀬戸内の力 —自然・歴史・人の共鳴—	4. 9. 23 ~ 11. 6
写真	マン・レイ	贈り物	DIC川村記念美術館	マン・レイのオブジェ 日々是 好物／いとしきものたち	4. 10. 8 ~ 5. 1. 15
	マン・レイ	ランプのあるセルフポートレート/ ソラリゼーション			
	マン・レイ	偽りの涙			
	マン・レイ	カサッティ侯爵夫人/ わが魂の肖像			
油彩画	長谷川利行	田端変電所	東京ステーション ギャラリー	鉄道と美術の150年	4. 10. 8 ~ 5. 1. 9
油彩画	荒井不可志	窓	呉市立美術館	呉の美術 —激動の時代を越えて—	4. 11. 26 ~ 5. 1. 29
	岡部繁夫	卓上静物			
	鎌田功治	ライン河の夕暮			
	鎌田知治	現代の狂気（其の二）交通禍			
	神田周三	被爆後風景			
	堀内唯一	A子像			
	南 薫造	坐せる女			
	南 薫造	蒲刈島風景			
南 薫造	日の出				
水彩画	鞆谷繁夫	鳩舞（平和）			
	長田健雄	塩田			
	藤川九郎	戦艦大和進水式図			
	南 薫造	ロンドンの裏庭			
	南 薫造	ウィンザー			
日本画	船田玉樹	春の鐘			
	船田玉樹	すすきの原の秋			
鑄造	上田直次	杉本五郎像			
木彫	水船六洲	燭明り			
絵画資料	神田周三	里の花売りの母子			
	南 薫造	版木「袋笛吹き土偶（伊太 利）／働く女性」（両面）			
	南 薫造	版木「袋笛吹き土偶（伊太 利）／花」（両面）			
	南 薫造	版木「舟おろし(1)」			
	南 薫造	版木「舟おろし(2)」			

種別	作者名など	作品名	貸出先・会場	目的（展覧会名）	会期
絵画資料	南 薫造	版木「舟おろし(3)」	呉市立美術館	呉の美術 —激動の時代を越えて—	4. 11. 26 ~ 5. 1. 29
	南 薫造	版木「舟おろし(4)」			
	南 薫造	版木「舟おろし(5)」			
	南 薫造	呉港			
日本画	北野恒富	風	大阪中之島美術館 東京ステーション ギャラリー	大阪の日本画	5. 1. 21 ~ 4. 2 (大阪中之島美術館) 5. 4. 15 ~ 6. 11 (東京ステーションギャラリー)
油彩画	フランス・ ピカビア	アンピトリテ	DIC川村記念美術館 宇都宮美術館 ふくやま美術館	芸術家たちの南仏	5. 3. 11 ~ 6. 18 (DIC川村記念美術館) 5. 7. 2 ~ 9. 24 (宇都宮美術館) 5. 10. 7 ~ 12. 10 (ふくやま美術館)
日本画	甲斐庄楠音	横櫛	京都国立近代美術館 東京ステーション ギャラリー	甲斐庄楠音の全貌—絵画・ 演劇・映画を越境する個性	5. 2. 11 ~ 4. 9 (京都国立近代美術館) 5. 7. 1 ~ 8. 27 (東京ステーションギャラリー)
日本画	宮川啓五	太田川	広島市現代美術館	リニューアルオープン記念 特別展 Before/After	5. 3. 18 ~ 5. 6. 18
油彩画	南 薫造	元安川			

# Ⅸ 関係法規

## 広島県立美術館条例

(昭和43年3月26日)  
広島県条例第20号

全部改正 平成8年条例第16号

最終改正 令和5年3月13日

### (設置)

第1条 美術に関する県民の知識及び教養の向上に資するため、広島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

### (位置)

第2条 美術館の位置は、広島市中区上鞆町とする。

### (業務)

第3条 美術館は、次の業務を行う。

- (1) 美術品等を収集し、保管し、又は展示して、県民の利用に供すること。
- (2) 美術品等の展示施設(以下「展示施設」という。)その他の美術館の施設を美術品等の展示等のための利用に供すること。
- (3) 美術品等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (4) その他県民の美術に関する知識、教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うこと。

### (職員)

第4条 美術館に、館長その他必要な職員を置く。

2 館長は、前条第1号及び第3号に掲げる業務並びに同条第2号及び第4号に掲げる業務のうち次条第2項第1号に掲げる業務を除いたものを掌理し、所属職員を指揮監督する。

### (指定管理者による管理)

第5条 美術館の管理は、広島県公の施設における指定管理者の指定手続等に関する条例(平成16年広島県条例第28号)の定めるところにより、教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

2 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第三条第二号及び第四号に掲げる業務のうち教育委員会規則で定めるものを行うこと。
- (2) 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)並びに駐車場の利用の許可に関すること。
- (3) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備の維持及び修繕に関すること。
- (4) 展示施設等及び駐車場の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)の収受に関すること。
- (5) 美術館の入館料の徴収に関すること。
- (6) その他教育委員会が別に定める業務を行うこと。

### (開館時間等)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、金曜日は、午後7時まで開館時間を延長する。

2 講堂及び駐車場の利用時間は、次のとおりとする。

- (1) 講堂 午前9時から午後9時まで
- (2) 駐車場 午前9時から午後9時15分まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間又は前項の利用時間を変更することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

### (休館日等)

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号。以下「祝日法」という。)に規定する休日当たる場合を除く。)
- (2) 12月25日から翌年の1月1日までの日

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

### (利用の許可)

第8条 展示施設等及び駐車場を利用しようとする者は、教育委員会規則及び指定管理者の定めるところにより、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の許可(以下「利用許可」という。)をする場合においては、美術館の管理上必要な限度において条件を付することができる。

### (利用許可の制限)

第9条 指定管理者は、展示施設等及び駐車場の利用の目的又は方法が、次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可をしてはならない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認められるとき、その他住民の福祉を増進する目的に照らし適当でないと認められるとき。
- (2) 展示施設等及び駐車場並びに附属設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- (4) その他美術館の管理及び運営上支障があると認められるとき。

### (展示施設等の利用期間)

第10条 展示施設等の利用期間は、引き続き7日を超えることはできない。ただし、指定管理者が必要と認めるときは、この限りでない。

### (入館料の納付等)

第11条 美術館の展示する美術品等を観覧する者は、別表第一に定める入館料を納付しなければならない。

- 2 入館料は、知事が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 既納の入館料は、返還しない。

### (利用料金の納付等)

第12条 展示施設等及び駐車場を利用する者は、指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める利用料金を納付しなければならない。

- 2 所蔵作品展に係る利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 展示施設等及び駐車場に係る利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、利用許可を受ける際に納付しなければならない。
- 4 既納の利用料金は、返還しない。ただし、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用できない場合その他教育委員会が別に定める場合には、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を返還することができる。

### (入館料の減免)

第13条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、入館料を減免することができる。

- (1) 身体障害者手帳の交付を受けている者
  - (2) 戦傷病者手帳の交付を受けている者
  - (3) 療育手帳の交付を受けている者
  - (4) 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
  - (5) 六十五歳以上の者
  - (6) 県内の大学又はこれに準ずる学校に在学する外国人留学生
  - (7) 小学校、中学校、高等学校又はこれらに準ずる学校の校長が学校教育活動であることを証明した場合の小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者の引率者
  - (8) 祝日法第二条に規定するみどりの日又は文化の日に入館する者
  - (9) 教育委員会が単独で開催する所蔵作品展以外の展示(以下「特別展」という。)と併せて観覧する者
  - (10) その他知事が別に定める者
- 2 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、特別展に係る入館料を減免することができる。
- (1) 祝日法第二条に規定するこどもの日に入館する小学校の児童、中学校の生徒又はこれらに準ずる者
  - (2) 祝日法第二条に規定する文化の日に入館する者
  - (3) ひろしま教育の日を定める条例(平成十三年広島県条例第四十号)第三条に規定するひろしま教育ウィークに入館する小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者
  - (4) その他知事が別に定める者

### (利用料金の減免)

第14条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、展示施設等の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために展示施設等を利用するとき。
- (2) 前条第一項第一号から第四号までに掲げる者(以下「身体障害者等」という。)又は身体障害者等が主体となって構成する団体が、美術活動として展示施設等を利用するとき。
- (3) 国又は地方公共団体が、身体障害者等の美術の振興を図る行事のために展示施設等を利用するとき。
- (4) 社会福祉事業を推進する団体が当該団体の設立の目的のために利用するとき。
- (5) 幼保連携型認定こども園又は幼稚園、小学校、中学校若しくはこれらに準ずる学校の校長(幼保連携型認定こども園及び幼稚園にあっては、園長)が学校教育活動であることを証明した場合において、当該幼保連携型認定こども園の幼児又は当該幼稚園の幼児、当該小学校の児童、当該中学校の生徒若しくはこれらに準ずる者が利用するとき。

(6) その他教育委員会が別に定める場合

2 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、駐車場の利用料金を減免することができる。

(1) 教育委員会が、主催する事業のために駐車場を利用するとき。

(2) 身体障害者等が、自ら車両を運転し、又は介護者の運転する車両に同乗して駐車場を利用するとき。

(利用料金の収入)

第15条 第12条第1項の規定により展示施設等及び駐車場を利用する者が納付する利用料金は、指定管理者の収入とする。

(利用許可の取消し等)

第16条 指定管理者は、利用許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可の全部若しくは一部を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じることができる。

(1) 許可された利用目的以外に展示施設等を利用したとき。

(2) 第九条各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(3) 偽りその他不正な手段により利用許可を受けたとき。

(4) この条例若しくはこの条例に基づく教育委員会規則の規定又は第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(5) 利用許可に基づく権利を譲渡し、又は他人に利用させたとき。

2 前項の規定により利用許可を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じたことによって、利用許可を受けた者に損失が生じることがあっても、県又は指定管理者は、これに対して補償する義務を負わない。

(遵守事項)

第17条 美術館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備をき損し、又は汚損しないこと。

(2) 展示資料、展示設備等に触れないこと。

(3) 許可を受けずに、展示資料の模写又は撮影をしないこと。

(4) 館内においては、静粛にし、他人に迷惑を掛ける行為又は他人に嫌悪の情を催させる行為をしないこと。

(5) 所定の場所以外の場所で喫煙し、又は飲食しないこと。

(6) 指定管理者の指示に従うこと。

(7) その他教育委員会が定める事項

(禁止行為)

第18条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

(1) 寄附の募集

(2) 爆発物その他危険物等の持込み

(3) 行商その他これに類する行為

(4) 宣伝その他これに類する行為

(5) 広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札類の設置

(入館の制限等)

第19条 教育委員会又は指定管理者は、前2条の規定に違反するおそれのある者又はこれらの規定に違反した者に対して、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退去を命じることができる。

(原状回復義務)

第20条 展示施設等の利用者は、その利用を終了したとき(利用許可を受けた者が第16条第1項の規定により利用許可を取り消されたときを含む。)は、直ちに利用場所を原状に復し、指定管理者の検査を受けなければならない。

(損害賠償義務)

第21条 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設、附属設備又は展示資料等をき損し、汚損し、又は滅失した者は、これによって生じた損害を賠償しなければならない。

(指定管理者の指定を取り消した場合等の特例)

第22条 知事は、指定管理者の指定を受ける者がいないとき、指定管理者を指定することができないとき、又は指定管理者の指定を取り消し、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、指定管理者を指定し、又は当該停止の期間が終了するまでの間、美術館の管理を行うものとする。

2 知事は、前項の規定により美術館の管理を行う場合においては、展示施設等及び駐車場を利用する者から、使用料を徴収する。

3 第十二条第一項及び第三項並びに第十四条の規定は、前項の使用料について準用する。この場合において、これらの規定中「指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める」とあるのは「別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会が定める」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、「利用許可を受けた者」とあるのは「使用料を納付した者」と、「指定管理者は」とあるのは「知事は」と読み替えるものとする。

(委任規定)

第23条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

## 附 則

- 1 この条例は、昭和43年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、別表の通常の展示の場合に係る入館料は、この条例の施行の日後において知事その徴収を開始すべき日を定めて公示するまでの間は、これを徴収しないものとする。

附 則(平成19年3月15日条例第21号抄)

### (施行期日)

- 1 この条例は、規則で定める日から施行する。(平成20年1月規則第2号で、平成20年4月1日から施行)

### (経過措置)

- 3 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)の規定によってした処分、手続その他の行為であって、この条例による改正後のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)中相当する規定があるものは、それぞれこれらの相当する規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。
- 4 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)の規定により利用の許可を受けている者に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成19年12月25日条例第56号)

この条例は、学校教育法等の一部を改正する法律(平成19年法律第96号)附則第1条本文に規定する政令で定める日から施行する。  
(定める日=平成19年12月26日)

附 則(平成22年6月28日条例第31号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成23年7月11日条例第31号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月26日条例第23号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月16日条例第三号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月22日条例第7号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年10月12日条例第47号)

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月8日条例第5号抄)

### (施行期日)

- 1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一～三 略

四 前三号に掲げる規定以外の規定 平成31年10月1日

附 則(令和3年3月22日条例第3号)

この条例は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月13日条例第4号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

## 別表第1(第11条関係)

- 1 所蔵作品展の利用料金の範囲

区 分	個 人	団体(20人以上の場合とする。)	広島県縮景園との 共通券による場合
大学生及びこれに準ずる者	1人1回310円	1人1回250円	1人1回250円
その他15歳以上の者 (中学校又は高等学校の生徒 及びこれに準ずる者を除く。)	1人1回510円	1人1回410円	1人1回410円

- 2 特別展の場合

1人1回 2,100円以内で知事が定める額

## 別表第2(第12条関係)

### 展示施設等の利用料金の範囲

施設区分		第1展示室	第2展示室	第3展示室	第4展示室	第5展示室	講堂
入場料有料の場合	1時間につき	1,790円以内	3,050円以内	3,050円以内	3,050円以内	3,250円以内	4,930円以内
	1日につき	13,630円以内	24,320円以内	24,320円以内	24,320円以内	25,780円以内	
入場料無料の場合	1時間につき	950円以内	1,580円以内	1,580円以内	1,580円以内	1,680円以内	2,520円以内
	1日につき	6,820円以内	12,170円以内	12,170円以内	12,170円以内	12,900円以内	
電気設備を利用する場合		実費を基準として教育委員会が定める範囲とする。					

#### 備考

- この表において「1日」とは、美術館の開館時間とする。
- 日曜日、土曜日及び祝日法に規定する休日における入場料有料の場合の利用料金の額は、指定管理者が定める額の2割を加算する。
- 展示物の搬入及び撤去に係る利用料金の額は、指定管理者が定める額に2分の1を乗じて得た額とする。
- 利用料金の額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

## 別表第3(第12条関係)

### 駐車場の利用料金の範囲

駐車することができる自動車の範囲	単 位	利用料金の範囲
道路運送車両法(昭和26年法律第185号)第3条に規定する自動車のうち、普通自動車並びに2輪自動車以外の小型自動車及び軽自動車	1台につき 1時間まで 1時間を超える時間30分までごとに	420円以内 220円以内

## 広島県博物館協議会条例

(平成13年3月26日)  
広島県条例第3号

### (設 置)

- 第1条 広島県教育委員会(以下「教育委員会」という。)に、広島県博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 2 協議会は、広島県立美術館、広島県立歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を述べる機関とする。

### (組 織)

第2条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、教育委員会が任命する。

### (委員の任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### (会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会 議)

第5条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が召集し、会長がその議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (庶 務)

第6条 協議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

### (雑 則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

## 附 則

### (施行期日)

1 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

## (広島県立美術館協議会条例の廃止)

2 広島県立美術館協議会条例(昭和43年広島県条例第38号)は、廃止する。

# 広島県立美術館管理運営規則

(昭和43年4月1日)  
教育委員会規則第1号

最終改正 平成29年3月23日教育委員会規則第1号

## (趣旨)

第一条 この教育委員会規則は、広島県立美術館(以下「美術館」という。)の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

## (指定管理者が行う業務)

第二条 広島県立美術館条例(昭和四十三年広島県条例第二十号。以下「条例」という。)第五条第二項第一号の教育委員会規則で定める業務は、次に掲げる業務とする。

- 一 美術館の利用促進に関すること。
- 二 美術館の利用案内に関すること。
- 三 県民の美術に関する学習活動の支援に関すること。

## (開館時間等の周知)

第三条 条例第六条第三項又は第七条第二項の規定により、美術館の開館時間若しくは講堂若しくは駐車場の利用時間を変更し、又は美術館の全部若しくは一部を臨時に休館し、若しくは休館日に開館する場合は、あらかじめ、その旨を美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

## (展示施設等の利用の申込み等)

第四条 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)を利用しようとする者は、展示施設等利用申込書を指定管理者に提出し、条例第八条第一項の許可(以下「利用許可」という。)を受けなければならない。

2 前項の規定による利用の申込みは、次に掲げる期間内にしなければならない。ただし、特別の事情があると指定管理者が認める場合は、この限りでない。

- 一 展示施設 利用開始日の一年前から一月前まで
- 二 講堂 利用開始日の四月前から七日前まで

## (展示施設等利用許可書の交付)

第五条 指定管理者は、利用許可をしたときは、展示施設等利用許可書を申込者に交付するものとする。

2 展示施設等利用許可書は、展示施設等を利用する際必ず携帯し、係員の請求があるときは、これを提示しなければならない。

## (駐車場の利用手続)

第六条 駐車場を利用しようとする者(以下「駐車場利用者」という。)は、自動車を入庫させる際、駐車券の発給を受けるものとする。この場合においては、当該発給を受けたときに利用許可を受けたものとみなす。

2 駐車場利用者が自動車を出庫させようとする際は、駐車時間に応じた利用料金を納付しなければならない。

## (利用料金の周知)

第七条 指定管理者は、条例第十二条第一項の規定により教育委員会の承認を受けて利用料金を定めたときは、美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

## (利用料金の返還)

第八条 条例第十二条第四項ただし書の規定により、指定管理者は、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用することができない場合は、当該利用料金の全額を返還する。

2 前項の規定により利用料金の返還を受けようとする者は、利用料金返還申請書に第五条第一項の展示施設等利用許可書を添えて、指定管理者に提出しなければならない。

## (利用料金の減免)

第九条 条例第十四条第一項第一号又は同条第二項第一号若しくは第二号に該当する場合は、利用料金(条例別表第二に規定する電気設備を利用する場合の利用料金を除く。以下本条において同じ。)を免除する。

- 2 条例第十四条第一項第二号又は第三号に該当する場合は、利用料金の額の二分の一に相当する額を減額する。
- 3 条例第十四条第一項第四号又は第五号に該当する場合は、利用料金の額の五分の一に相当する額を減額する。
- 4 前二項の規定により算定した減額後の利用料金の額に十円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てるものとする。

## (利用料金の減免の申請)

第十条 前条第一項の規定により利用料金の免除を受けようとする者のうち条例第十四条第二項第二号に該当するものは、該当することを証する書類を指定管理者に提示しなければならない。

2 前条第二項又は第三項の規定により利用料金の減額を受けようとする者は、第四条第一項の展示施設等利用申込書の提出時に併せて利用料金減額申請書を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

(補 則)

第十一条 この教育委員会規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則(平成二九年三月二三日教育委員会規則第一号)抄

(施行期日)

1 この教育委員会規則は、平成二十九年四月一日から施行する。

(広島県美術展開催運営規則の廃止)

2 広島県美術展開催運営規則(昭和五十二年広島県教育委員会規則第二号)は、廃止する。

## 広島県立美術館美術品等収集基本方針

(昭和63年12月9日)

広島県立美術館の美術品等収集に関する基本方針を次のとおり定める。

- 1 本県ゆかりの作家の美術品等については、次項に準拠しつつ、各作家ごとの体系的なコレクションの形成につとめる。
- 2 次に掲げる美術品等の収集に主眼を置き、日本美術の特質を味わうことのできる体系的なコレクションの形成につとめる。
  - (1) 近・現代作家の特色ある美術作品  
近代から現代にいたる絵画等の平面・立体造形作品のうち、時代の特徴と制作意図の明確な作品。
  - (2) 近代の工芸作品  
わが国工芸の特色を示す陶芸、染色、漆芸、金工等のうち、主として近代以降に制作された作品。
  - (3) 近代の彫塑作品  
近代以降のわが国の彫塑界で特に重要と認められる作家の作品。
  - (4) その他の美術作品  
上記(1)～(3)に掲げる美術作品のほか、美術館において収蔵するにふさわしいと認められる美術工芸作品。
  - (5) 美術資料  
収蔵する美術品等に関する作家並びに美術作品を理解するうえで必要な日記、書簡、下絵等の美術資料等。
  - (6) 補助的関連資料  
収集する美術品等に関する調査研究及び教育普及事業に必要な視聴覚教材、図書、複製品等の補助的関連資料
- 3 その他、美術館において所蔵するにふさわしい東洋・西洋の美術品等を収集する。

## 広島県立美術館美術品等特別収集基本方針

(平成3年3月8日 館長決裁)

- 1 本県ゆかりの作家の作品並びに本県にゆかりのある美術品等
  - (1) 本県ゆかりの作家の作品及び美術資料
  - (2) 本県ゆかりの作家に関連する系譜的作品
  - (3) 本県ゆかりの美術品等
- 2 近世から現代までの造形的に優れたわが国の美術作品及びこれらの作品を理解するために必要な外国作品
  - (1) 絵画作品
    - 1) 近世絵画の流れが理解できる作品のうち、主として花鳥画を主題とする作品及び近代日本画確立期の作品
    - 2) 油彩画等の受容と展開を示す明治・大正・昭和三代の代表的作家の作品
    - 3) 戦後における国際的評価の高い作家の作品
  - (2) 工芸作品
    - 1) 東洋的伝統を受け継ぐわが国の代表的作家又は様式作品
    - 2) わが国と関係の深いアジア各国の工芸作品
    - 3) 近代工芸確立期(1920年代)及び戦後昂揚期(1960年代)の作品
    - 4) 収蔵作品を理解するために必要な外国作品及び特に注目される現代の工芸作品
- 3 国際的視野から特色をもった作品  
1920 - 1930年代の両大戦間を中心とする世界美術の多様性が理解できる作品
  - 1) 欧米作家等の作品
  - 2) 日本人作家の作品
- 4 近代以降の彫刻(立体)作品
  - (1) 主として戦後期に活躍した作家の作品
  - (2) “手で見ると彫刻”作品

- (3) 新館及び街区等、周囲の環境に即した作品

## 県立美術館特別収集重点方針

- 1 本県ゆかりの作家の作品など  
近代以降の美術界に大きな足跡をのこした作家の作品を中心に収集し、その系譜的作品も併せて収集する。
- 2 日本及びアジアの工芸作品など  
わが国とアジア各国の優れた工芸作品（陶磁、染色、漆芸など）を収集する。
- 3 1920-1930年代(両大戦間)の美術作品など  
現代美術に先行する両大戦間美術の多様性を示す作品を世界と日本との関連で収集する。

## 広島県立美術館美術品等取扱要綱

### (趣 旨)

第1条 広島県立美術館(以下「美術館」という。)で取り扱う美術品及び美術資料の管理、寄託、寄附及び貸付けについては、広島県物品管理規則(昭和39年規則第33号。)に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

### (定 義)

第2条 この要綱において「美術品等」とは、美術作品及び美術に関する資料をいう。

### (管 理)

第3条 美術館で管理する美術品等については、別表の美術品等分類表により区分するとともに、別記様式第1号による備品出納簿を備え付け、その出納及び保管の状況を記録管理しなければならない。

### (寄 託)

第4条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄託しようとする者は、広島県立美術館長(以下「館長」という。)に別記様式第2号による美術品等寄託申請書を提出し、寄託の承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄託を承認した場合は、美術品等を寄託する者(以下「寄託者」という。)に対して別記様式第3号による受託証書を交付するものとする。

3 前項の規定により寄託を承認した美術品等(以下「寄託品」という。)の記録管理は、別記様式第4号による受託カードにより行うものとする。

### (寄託期間)

第5条 寄託期間は3年とする。ただし、館長が特別の理由があると認めた場合は、寄託者の承諾を得て寄託期間を変更することができる。

### (一時返還)

第6条 寄託者は、寄託品の一時返還を受けるときは、館長に別記様式第5号による寄託品一時返還願を提出しなければならない。

### (返還の手続)

第7条 館長は、寄託者に寄託品を返還するとき、受託証書と引換えに返還するものとする。

2 寄託者の代理人が、寄託品の返還を受けようとするときは、館長に委任状その他これを証する書類を受託証書に添付して提出しなければならない。

### (受託証書の記載事項変更)

第8条 寄託者は、受託証書の記載事項について、譲渡、相続その他の事情により変更があったときは、館長に記載事項の変更を証する書類を受託証書に添付して提出し、記載事項の書換えを受けなければならない。

### (受託証書の再交付)

第9条 寄託者は、受託証書を破り、汚し、又は失ったときは、館長に別記様式第6号による受託証書再交付申請書を提出して、受託証書の再交付を受けなければならない。

### (寄託品の保管)

第10条 館長は、寄託品を常に良好な状態で保管しなければならない。

### (寄託品の修繕)

第11条 館長は、寄託品に修繕をする必要を認めたときは、寄託者に対して適正な指示を行うことができる。

### (寄 附)

第12条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄附しようとする者は、館長に別記様式第7号による寄附申込書を提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄附申込書の提出があったときは、寄附を受けることについて適否を決定し、美術品等を寄附しようとする者に対して適否を通知するものとする。

### (貸付け)

第13条 館長は、美術館の事業に支障を及ぼさないと認めるときは、美術品等を他の美術館又はこれに準ずる施設に無償で貸し付けることができる。

2 美術品等を、前項の規定により貸付けを受けようとする者は、館長に別記様式第8号による美術品等借受願又は別記様式第8号に準じた書面を提出しなければならない。ただし、貸付けを受けようとする美術品等が寄託品である場合は、寄託者の承諾書を美術品等借受願に添付するものとする。

3 館長は、第1項の規定により美術品等の貸し付けを決定したときは、貸付けを受けようとする者に対して貸し付けの通知をするものとする。

### (借用書の提出)

第14条 前条第3項の規定により通知を受けた者は、館長に別記様式第9号による借用書又は別記様式第9号に準じた書面を提出しなければならない。

### (貸付け期間)

第15条 貸付け期間は60日以内とする。ただし、館長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

### (貸付けの条件)

第16条 第13条第1項の規定により美術品等を貸し付ける場合の条件は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 貸付けを受けた者(以下「借用者」という。)は、貸し付けを受けた美術品等(以下「借用美術品等」という。)を転貸し、又は貸し付けにより生じた権利を担保に供し、若しくは譲渡してはならない。
- (2) 借用者は、借用美術品等を常に良好な状態で保管しなければならない。
- (3) 借用者は、借用美術品等を失い、又は傷付けたときは、直ちにその損害を賠償しなければならない。
- (4) 美術品等の貸付けに必要な経費は、借用者が負担するものとする。
- (5) 館長は、前各号に定めるもののほか、美術品等の貸し付けに必要な条件を付することができる。

### (報告義務)

第17条 館長は、第12条第2項の規定により美術品等の寄附受納を決定した場合及び第13条第3項の規定により美術品等の貸付けを決定した場合は、速やかに広島県環境県民局長(以下「局長」という。)に報告しなければならない。

### (補 則)

第18条 館長は、前各条に規定する事務のうち、重要及び異例若しくは疑義のある事項については、あらかじめ局長に報告し、局長は広島県教育委員会に協議をして、その承認を受けなければならない。

### 附 則

この要綱は、昭和58年7月1日から施行する。

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

## 広島県立美術館展示施設等運営要領

(平成8年7月24日 館長決裁)

この要領は、広島県立美術館管理運営規則(昭和43年4月1日教育委員会規則第1号)に基づき美術館の展示施設及び講堂の適正かつ効果的な運営を図るため、利用の形態及び許可の基準その他の必要な事項を定めるものとする。

### 1 利用形態

#### ① 常設展示室(2階)

第1から第4展示室及び彫刻展示スペースは、所蔵作品による常設展示を行う。

#### ② 企画展示室(3階)

北、東、西及び展示前室は、美術館が企画・主催し又は共催する展覧会事業に使用する。ただし、美術館が共催する展覧会は、国若しくは地方公共団体(その機関を含む。)又は公共性の高い機関が企画・主催する事業で、美術館が共催するにふさわしい、開催意義の高い事業に限る。

なお、これらの展覧会を実施しても、なお、空室が生じる場合は、「広島県教育委員会の共催・後援・協賛に関する基準について(昭和54年3月29日)」に基づき共催・後援に該当する展覧会に限り使用することができる。

#### ③ 県民ギャラリー(地階)

条例第1条により、団体又は個人が美術に関する事業を目的として利用する場合に、これを許可する。

#### ④ 講堂兼ハイビジョンギャラリー(地階)

通常はハイビジョンギャラリーとして入館者が自由に鑑賞できるように毎日一定時間使用する。また、団体又は個人が芸術に関する県民の知識及び教養の向上に資する目的で講演会などの催しのために利用する場合には、美術館が企画・主催する事業に支障のない範囲内でこれを許可する。

⑤ 図書館(1階)

美術に関する図書及び参考図書を公開し、利用者に提供する。また、室内にハイビジョン・データ・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するデータベースを提供して利用者の学習の便を図る。

⑥ 情報ギャラリー(1階)

ポスター、パンフレットなど、さまざまな広報媒体を掲示して、利用者に情報を提供するとともに、時機に応じて比較的小規模の企画展示を行う。また、一部にハイビジョン・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するオリジナル番組を提供して、利用者の作品理解の一助とする。

2 利用の申込み

県民ギャラリーの利用の申込みは、原則として年度を前・後期に分け、前期については、前年度の9月1日から9月30日まで、後期については、前年度の3月1日から3月31日までの間に受け付けるものとする。

講堂の利用の申込みは、利用日の2ヶ月前から随時行うものとする。

3 利用の期間及び回数

県民ギャラリーの利用期間は原則2週間をこえないこととし、利用回数は同一の団体又は個人につき原則年1回とする。

# X 名 簿

## 美術品等収集評価委員会

委員 長	山 梨 俊 夫	元国立国際美術館館長
委 員	唐 澤 昌 宏	独立行政法人国立工芸館館長
〃	島 田 康 寛	元神戸市立小磯記念美術館館長
〃	正 村 美 里	岐阜県美術館副館長
〃	菅 村 亨	元広島大学教授
〃	速 水 豊	三重県立美術館館長
〃	不 動 美 里	姫路市立美術館館長

## 職 員

館 長	千 足 伸 行
副 館 長	沖 見 広 徳
総括企画監	小別所 智 昭
総務課長	井 上 博 貴
主 査	山 中 智 幸
〃	井手ノ瀬 美由紀
事務従事員	一 色 直 香
〃	弘 津 かおる
〃	福 原 美 和
学芸課長	福 田 浩 子
主任学芸員	角 田 新
〃	藤 崎 綾
〃	神 内 有 理
〃	山 下 寿 水
〃	隅 川 明 宏
学 芸 員	岡 地 智 子
〃	森 万由子

---

令和4年度

## 広島県立美術館年報

令和6年1月31日発行

発行者 **広島県立美術館**

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22  
電話(082)221-6246

印刷所 **株式会社 タカトープリントメディア**

〒730-0052 広島市中区千田町3丁目2-30  
電話(082)244-1110

---

(人名については敬称略)